

UltraLite タイプVN

VK22T/NT-N、VK22T/NV-N、VJ22T/NT-N、VJ22T/NV-N

活用ガイド

Windows 8.1 Pro Update 64ビット (Windows 10 Proライセンスからのダウングレード)
Windows 8.1 Pro Update 64ビット

- **はじめに**..... 5
本マニュアルの表記や、商標などの情報を記載しています。
最初にご覧ください。
- **本機の機能**..... 27
本機の各部の名称やインターフェイスについて記載しています。
- **セキュリティチップ ユーティリティ**..... 213
セキュリティチップの概要や使い方について記載しています。
- **便利な機能とアプリケーション**..... 261
本機にインストール、または添付されているアプリケーションの概要やインストール、アンインストール方法について記載しています。
- **トラブル解決Q&A**..... 331
本機をお使いになっているときのトラブル事例や解決法について記載しています。
本マニュアルに記載していないトラブル事例や解決法については、121wareの「サービス&サポート」をご覧ください。
- **仕様一覧 (タイプ別仕様詳細)**..... 382
Webにて、仕様の詳細情報を公開しています (インターネットへの接続環境が必要です)。

目次

はじめに	5	NXパッドの使い方.....	85
はじめに.....	6	NXパッドの設定.....	86
本マニュアルの表記について.....	7	マウス	90
「ユーザー アカウント制御」について.....	10	マウスを使用する.....	91
基本操作.....	11	マウスを接続するための設定方法.....	93
サポート技術情報について.....	13	水平スクロール機能の設定を切り替える.....	94
ご注意.....	14	マウスを接続する前の設定に戻す.....	95
Windows 8.1の画面操作について	16	液晶ディスプレイ	96
チャーム (チャーム バー).....	17	使用上の注意.....	97
アプリ バー、ナビゲーション バー.....	19	画面表示の調整.....	98
画面やアプリを切り替える.....	21	液晶ディスプレイの回転.....	99
2つのアプリを並べて表示する.....	24	画面の回転.....	103
アプリを終了する.....	25	表示できる解像度と表示色.....	105
本機の機能	27	ディスプレイストレッチ機能.....	106
各部の名称	28	外部ディスプレイ	107
各部の名称と説明.....	29	使用上の注意.....	108
表示ランプ.....	34	外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.....	109
電源	35	HDMIコネクタ.....	112
電源の入れ方と切り方.....	36	Intel® WiDi.....	115
電源の状態.....	38	外部ディスプレイ接続時の表示機能.....	120
スリープ状態／休止状態使用上の注意.....	39	表示先、表示機能の設定.....	121
スリープ状態.....	41	画面の出力先を切り替える.....	124
休止状態.....	43	ディスプレイに合わせた設定.....	126
電源の設定.....	44	Webカメラ	128
電源の自動操作.....	48	Webカメラについて.....	129
省電力機能	49	SSD	131
省電力機能について.....	50	使用上の注意.....	132
ECOモード機能.....	51	光学ドライブ	133
ピークシフト機能.....	55	使用上の注意.....	134
Intel SpeedStep® テクノロジー.....	58	外付け光学ドライブの取り付け.....	135
バッテリー	59	各部の名称と役割.....	136
バッテリー (二次電池) について.....	60	使用できるディスク.....	137
使用上の注意.....	61	読み込みと再生.....	138
バッテリーの充電.....	62	書き込みとフォーマット.....	140
バッテリーの使い方と設定.....	63	非常時のディスクの取り出し方.....	141
バッテリーリフレッシュ.....	65	SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロット	142
バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール.....	67	使用上の注意.....	143
タッチパネル	72	セットのしかた／取り出し方.....	145
使用上の注意.....	73	サウンド機能	147
タッチパネルでの操作方法.....	74	音量の調節.....	148
タッチパネルの設定.....	76	マイクの設定.....	150
キーボード	78	AudioEngine™.....	151
キーの名称.....	79	LAN機能	153
キーの使い方.....	81	本機を安全にネットワークに接続するために.....	154
キーボードの設定.....	83	使用上の注意.....	156
NXパッド	84	LANへの接続.....	157

LAN機能の設定.	159	セキュリティチップ機能の復元.	250
無線LAN機能.	161	その他の注意事項.	255
概要.	162	本機を修理に出す前の準備.	256
本機を安全にネットワークに接続するために.	164	本機を修理に出した後.	257
無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関		イベントビューアに記録される警告ログに	
するご注意.	166	ついて.	258
使用上の注意.	168	セキュリティチップ ユーティリティのアンイン	
無線LAN機能のオン/オフ.	170	ストール.	259
無線LANの設定と接続.	173	便利な機能とアプリケーション.	261
無線LANに関する用語一覧.	181	アプリケーションの種類と機能.	262
USBコネクタ.	184	アプリケーションのインストール/アンインストールに	
使用上の注意.	185	ついて.	265
USB機器の取り付け/取り外し.	187	Office Personal 2013.	267
Bluetooth機能.	188	Office Home and Business 2013.	272
概要.	189	Office Home & Business Premium.	277
セキュリティに関するご注意.	191	Access Connections.	282
使用上の注意.	192	DeviceLock Lite.	288
Bluetooth機能の設定と接続.	194	Acrobat Reader DC.	290
Bluetooth機能のオン/オフ.	198	ECOモード設定ツール.	293
セキュリティ機能.	200	ピークシフト設定ツール.	295
セキュリティ機能について.	201	画面表示設定切替ツール.	297
スーパバイザパスワード/ユーザパスワード.	202	CyberLink Power2Go.	300
ハードディスクパスワード機能.	203	CyberLink PowerDVD.	303
I/O制限.	204	CyberLink PowerBackup.	308
盗難防止用ロック.	205	セカンドブック グループ.	311
DEP (Data Execution Prevention) 機能.	206	フリック入力補助ツール.	313
暗号化ファイルシステム (EFS)	207	拡張ディスプレイ操作ツール.	316
インテル® アイデンティティ・プロテクション		マカフィー リブセーフ.	319
・テクノロジー.	208	WinZip.	325
ウイルス検出・駆除.	209	OneNote.	329
セキュリティチップ機能.	210	トラブル解決Q&A.	331
NASCA.	211	電源.	332
DeviceLock Lite.	212	「パスワードが正しくありません。入力し直して	
セキュリティチップ ユーティリティ.	213	ください。」と表示された.	333
概要.	214	バッテリー.	334
セキュリティチップ機能を利用する準備.	216	本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに	
セキュリティチップを有効にする.	217	接続してもバッテリーの充電が始まらない.	335
スーパバイザパスワード/ユーザパスワードの		タスク バーの通知領域に電源アイコンが表示さ	
設定.	219	れない.	336
セキュリティチップ ユーティリティのインス		満充電したのに、バッテリー充電ランプが	
トール.	220	点灯する.	337
Security Platformの初期化.	222	バッテリー充電ランプが点滅する.	338
Security Platform ユーザーの初期化.	228	タッチパネル.	339
セキュリティチップ ユーティリティの使い方.	232	タッチした位置と反応する位置がずれる、タッチパネ	
利用できるセキュリティ機能.	238	ルに反応しない領域がある.	340
電子メールの保護機能.	239	表示.	341
ファイルとフォルダの暗号化 (EFS) 機能.	240	外部ディスプレイで画面が流れるように表示さ	
Personal Secure Drive (PSD) 機能.	243	れる.	342
辞書攻撃防御機能.	245	デスクトップ上のアイコンの名前が隠れてしまう	343
セキュリティチップ機能のバックアップと復元.	246	ファイル保存.	344
セキュリティチップ機能のバックアップ.	247	はじめに確認してください.	345

DVD、CDにデータを書き込めない (保存できない)	346	周辺機器	366
LAN機能	347	はじめに確認してください.	367
動作が不安定になった.	348	Bluetooth機能	368
無線LAN機能	349	はじめに確認してください.	369
「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダ ブルクリックしても内容が表示されない.	350	アプリケーション	371
サウンド	351	はじめに確認してください.	372
HDMI接続した機器から音声が出力されない.	352	アプリケーションをインストールできない.	373
印刷	354	アプリケーションを強制的に終了させたい.	374
PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない.	355	アプリケーションが本機で使用できるか 知りたい.	375
セキュリティチップ機能	356	使用しているWindowsへの対応が明記されていな いWindows用アプリケーションを使用したい.	376
パスワードを忘れてしまった.	357	Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術 情報について知りたい.	377
「Security Platform サービスとの接続に失敗しま した。」と表示される.	359	再セットアップ	378
SSD	360	「再セットアップをすることはできません。」と表示 される.	379
領域作成できる容量が、カタログなどに記載され ている値より少ない.	361	その他	380
光学ドライブ	362	クリップなどの異物が本体内部に入って しまった.	381
はじめに確認してください.	363	仕様一覧 (タイプ別仕様詳細)	382
DVD、CDにデータを書き込めない (保存できない)	364	仕様一覧 (タイプ別仕様詳細)	383
ドライブ文字がおかしい.	365		

はじめに

[010000-28]

▶ はじめに.....	6
▶ 本マニュアルの表記について.....	7
▶ 「ユーザー アカウント制御」について.....	10
▶ 基本操作.....	11
▶ サポート技術情報について.....	13
▶ ご注意.....	14
▶ Windows 8.1の画面操作について.....	16

はじめに

[010001-00]

本マニュアルには、本機の機能についての説明、添付またはインストールされているアプリケーションの情報、サポートに関する情報、トラブル発生時などの対応方法を記載したQ&Aなど、本機を利用する上での情報が記載されています。本マニュアルに記載していないトラブル発生時などの対応方法については、121wareの「サービス&サポート」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

本マニュアルは、Windowsの基本的な操作がひと通りでき、アプリケーションなどのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に記載されています。

もし、あなたがコンピュータに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などでひと通り経験してから、本マニュアルをご利用になることをおすすめします。

本機の仕様、アプリケーションについては、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。




<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

本マニュアルの表記について

[010003-28]

本マニュアルで使用しているアイコンや記号、アプリケーション名などの正式名称、表記について、下記をご覧ください。

本マニュアルで使用しているアイコンの意味

アイコン	意味
 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
 参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれているところを示しています。

本マニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、Windows 8.1、Windows 8.1 Pro、Windows 8.1 Pro 64ビット	Windows 8.1 Pro Update 64ビット (Windows 10 Proライセンスからのダウンロード) Windows 8.1 Pro Update 64ビット
Internet Explorer、Internet Explorer 11	Internet Explorer 11
Microsoft IME	Microsoft® IME 2012
Windows Media Player	Microsoft® Windows Media® Player 12
Office Personal 2013	Microsoft Office Personal 2013
Office Home and Business 2013	Microsoft Office Home and Business 2013
Office Home & Business Premium	Office Home & Business Premium プラス Office 365 サービス
Acrobat Reader DC	Adobe® Acrobat® Reader® DC
NASCA	NEC Authentication Agent
CyberLink PowerDVD	CyberLink PowerDVD
CyberLink Power2Go	CyberLink Power2Go 8
CyberLink PowerBackup	CyberLink PowerBackup 2.6
YouCam 5 BE	CyberLink YouCam 5 BE

WinZip	WinZip® 19
--------	------------

■ 本マニュアルで使用している表記の意味

本文中の表記	意味
本機、本体	本マニュアルの対象機種を指します。 特に周辺機器などを含まない対象機種を指す場合、「本体」と表記します。
光学ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブを指します。書き分け る必要のある場合は、そのドライブの種類を記載します。
光学ドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブが添付されているモデル を指します。
DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブが添付されているモデルを指します。
DVD-ROMドライブモデル	DVD-ROMドライブが添付されているモデルを指します。
ワイヤレス機能	無線LAN機能、Bluetooth機能を指します。ご購入時に選択したモデルによって異 なります。
Webカメラ搭載モデル	Webカメラが搭載されているモデルを指します。
Office Personal 2013モデル	Office Personal 2013のセットアップ モジュールがあらかじめインストールされ ているモデルを指します。
Office Home and Business 2013モデル	Office Home and Business 2013のセットアップ モジュールがあらかじめイン ストールされているモデルを指します。
Office Home & Business Premiumモデル	Office Home & Business Premiumのセットアップ モジュールがあらかじめイン ストールされているモデルを指します。
アプリケーションディスク	本機に添付されているアプリケーションを格納したディスクを指します。
CyberLink PowerDVD ディスク	「CyberLink PowerDVD ディスク」または「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup ディスク」を指します。
CyberLink Power2Go ディスク	「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup デ ィスク」を指します。
CyberLink PowerBackup ディスク	「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup デ ィスク」を指します。
SDカード、SDメモリーカード	「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を指し ます。特定のSDカードを指す場合、個別に記載します。
BIOSセットアップユーティリティ	本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では 「Aptio Setup Utility」と表示されます。
「コントロール パネル」を表示し、 「システムとセキュリティ」→「管 理ツール」→「システム情報」	「コントロール パネル」を表示し、「システムとセキュリティ」→「管理ツール」 →「システム情報」を順にクリックする操作を指します。
チャーム バー	チャームの載った右端から表示されるバーを指します。
[]	[] で囲んである文字はキーボードのキーを指します。 【Ctrl】 + 【Y】 と表記してある場合、【Ctrl】 キーを押したまま【Y】 キーを押す ことを指します。

『 』	『 』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。
ECOボタン	【Fn】 + 【F4】を指します。

■ 本マニュアルで使用している画面、記載内容について

- 本マニュアルに記載の図や画面は、モデルによって異なることがあります。
- 本マニュアルに記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」について

[010005-08]

アプリケーションを表示したり、本機を操作したりしているときに「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。

「ユーザー アカウント制御」は、コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」によって、本機のシステムに影響を及ぼす可能性のある操作が行われるのを防ぐため、これらの操作がユーザーが意図して行った操作によるものかを確認するためのものです。

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。



チェック

「ユーザー アカウント制御」画面で管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーのパスワード入力が求められる場合があります。その場合は、画面の内容を確認し入力を行ってください。

基本操作



[010006-08]

- ▶ アプリ画面の開き方. 11
- ▶ コントロールパネルの開き方. 11
- ▶ デバイスマネージャの開き方. 12

アプリ画面の開き方

メールやフォトなどのアプリを使用するときは、はじめにアプリ画面を表示します。

タッチ操作の場合

- 1** デスクトップにある「スタート」ボタン () をタップし、スタート画面を表示する
- 2** スタート画面を上をスライド、またはスタート画面にある  をタップ
アプリ画面が表示されます。



メモ

スタート画面からは、手順2の操作を行ってください。





参照

タッチパネルの操作について

「本機の機能」 - 「タッチパネル」 - 「タッチパネルでの操作方法 (P. 74)」

マウス操作の場合

- 1** デスクトップにある「スタート」ボタン () をクリックしてスタート画面を表示し、  をクリック
アプリ画面が表示されます。



メモ

スタート画面からは、  をクリックします。

コントロールパネルの開き方

コントロールパネルは、Windowsの各機能や画面の表示のしかた、アプリケーションのインストール/アンインストールなど、さまざまな設定ができます。

1 デスクトップでチャーム バーを表示し、「設定」をクリック

2 「コントロール パネル」をクリック

コントロール パネルが表示されます。

■ デバイス マネージャの開き方

デバイス マネージャは、本機を構成している部品やディスプレイなどの周辺機器が正常に認識されていることを確認したり、ドライバの更新をしたりすることができます。

1 デスクトップでチャーム バーを表示し、「設定」をクリック

2 「コントロール パネル」をクリック

コントロール パネルが表示されます。

3 「システムとセキュリティ」をクリック

4 「システム」をクリック

5 「デバイス マネージャー」をクリック

「デバイス マネージャー」が表示されます。

サポート技術情報について

[010007-00]

マイクロソフトで確認された問題の説明や解決方法がサポート技術情報として公開されています。
サポート技術情報を参照するには、「マイクロソフト サポート」にアクセスし該当する文書番号を入力して検索してください。

マイクロソフト サポート
<http://support.microsoft.com/>



チェック

サポート技術情報のタイトルや内容は変更される場合があります。

ご注意

[010004-28]

1. 本マニュアルの内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
2. 本マニュアルの内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 本マニュアルの内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、または121コンタクトセンターへご連絡ください。
4. 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、3項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
5. 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
6. 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種に限り、当社の定めるサービス対象地域から日本への引取修理サービスを行います。
サービスの詳細や対応機種については、以下のホームページをご覧ください。

<http://121ware.com/navigate/rescue/ultracare/jpn/index.html>

7. 本機の内蔵SSDにインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のDVD-ROM、CD-ROMは、本機のみでしかご使用になれません（詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください）。
8. ソフトウェアの全部または一部を著作権者の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
9. ハードウェアの保守情報をセーブしています。
10. 本製品には、Designed for Windows® programのテストにパスしないソフトウェアを含みます。
11. 本マニュアルに記載されている内容は制作時点のもので、お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。（ただし、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種については、日本への引取修理サービスを実施致します。）

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の可否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC*¹ will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.

NEC*¹ does not provide maintenance service*¹ or technical support for this product outside Japan. (Only some products which are eligible for Ultracare Services can be provided with acceptance service of repair inside Japan.)

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.

Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1:NEC Personal Computers, Ltd.

* * *

Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows MediaおよびWindowsのロゴは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

インテル、Intel、Intel SpeedStep、インテル Coreはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

McAfee、マカフィーは、米国法人McAfee, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、およびReaderは合衆国およびその他の国におけるAdobe Systems Incorporatedの商標または登録商標です。Bluetoothワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.の所有であり、NECパーソナルコンピュータはライセンスに基づきこのマークを使用しています。

HDMI、High-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi CERTIFIEDロゴ、Wi-Fi CERTIFIED、WPAおよびWPA2は、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。

PS/2は、IBM社が所有している商標です。

UltraLiteはNECパーソナルコンピュータ株式会社の登録商標です。

DeviceLockおよびDeviceLockロゴは、DeviceLock, Inc.の登録商標です。

Access Connectionsは、米国とその他の国々のいずれかまたはその両方におけるLenovoの商標です。

WinZip は WinZip International LLC の登録商標です。

Corel、Corel のロゴはCorel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

© NEC Personal Computers, Ltd. 2015

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

Windows 8.1の画面操作について

[010100-08]

Windows 8.1のスタート画面やアプリの画面での基本操作などを紹介します。

➤ チャーム (チャーム バー)	17
➤ アプリ バー、ナビゲーション バー	19
➤ 画面やアプリを切り替える	21
➤ 2つのアプリを並べて表示する	24
➤ アプリを終了する	25

チャーム (チャーム バー)

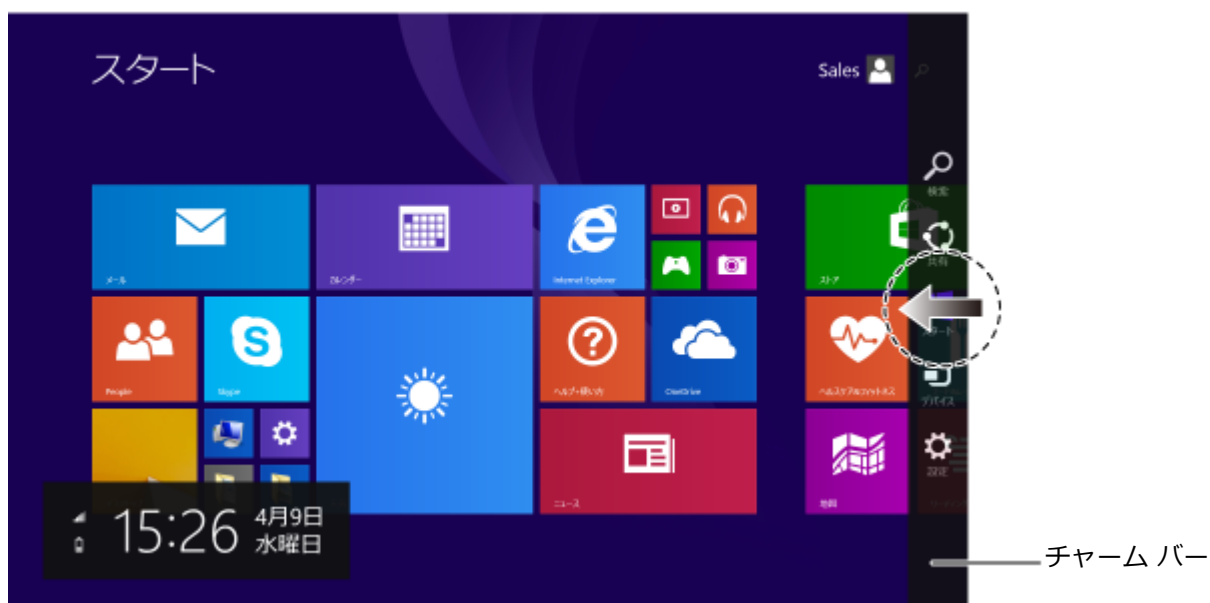
[010101-28]

チャーム バーは、よく使う機能を集めたメニューです。表示しているアプリに応じて、いろいろな機能を利用できます。

チャーム バーを表示する

タッチ操作の場合

チャーム バーを表示するには、画面の右端から、左にスワイプします。



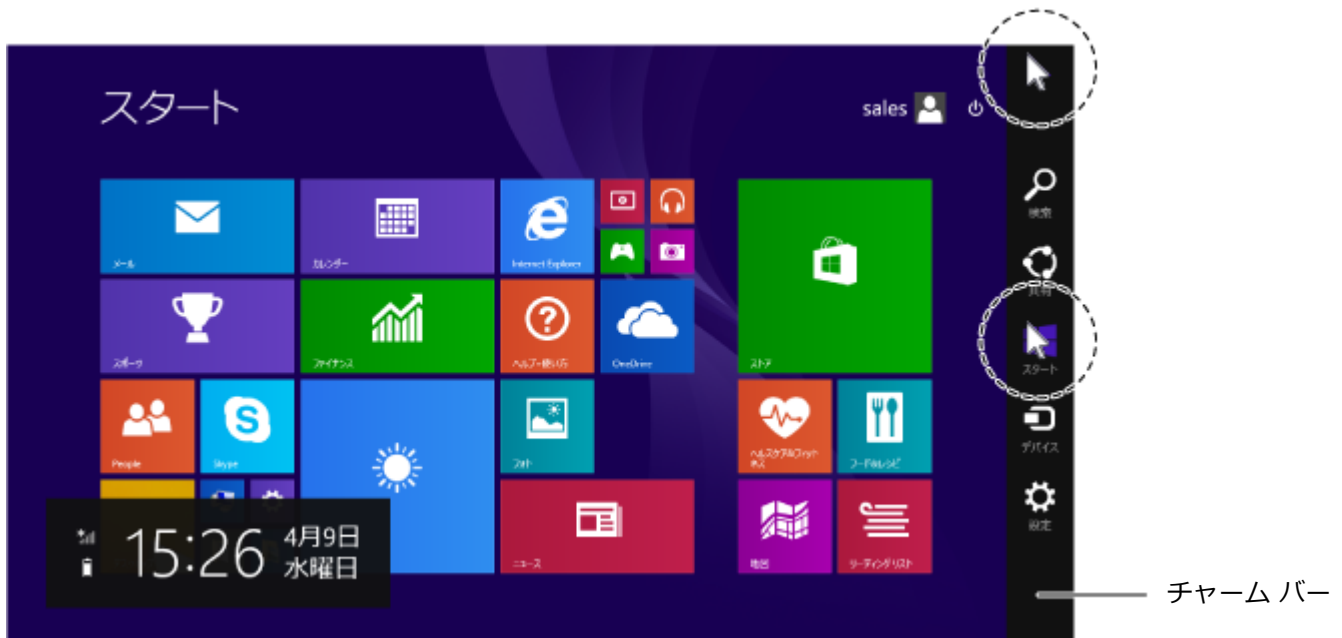
参照


タッチパネルの操作について

「本機の機能」 - 「タッチパネル」 - 「タッチパネルでの操作方法 (P. 74)」

マウス操作の場合

チャーム バーを表示するには、右上の隅にマウスポインタを合わせ、下に動かします。








 **メモ**

チャーム バーを表示すると、画面の左下に次の情報も表示されます。

- 時間・日付
- ネットワーク状態（電波強度など）
- バッテリーの残量（バッテリー使用時）

チャーム バーのアイコン

アイコン	説明
	検索とアプリの表示に使います。検索対象はアプリによって変わります。
	ファイルや情報を他のアプリで利用するときに使います。
	スタート画面を表示します。
	他の機器にデータを送ります。印刷するときなどに使います。
	表示しているアプリの設定を行います。スタート画面では「Windows 全般の設定」ができます。

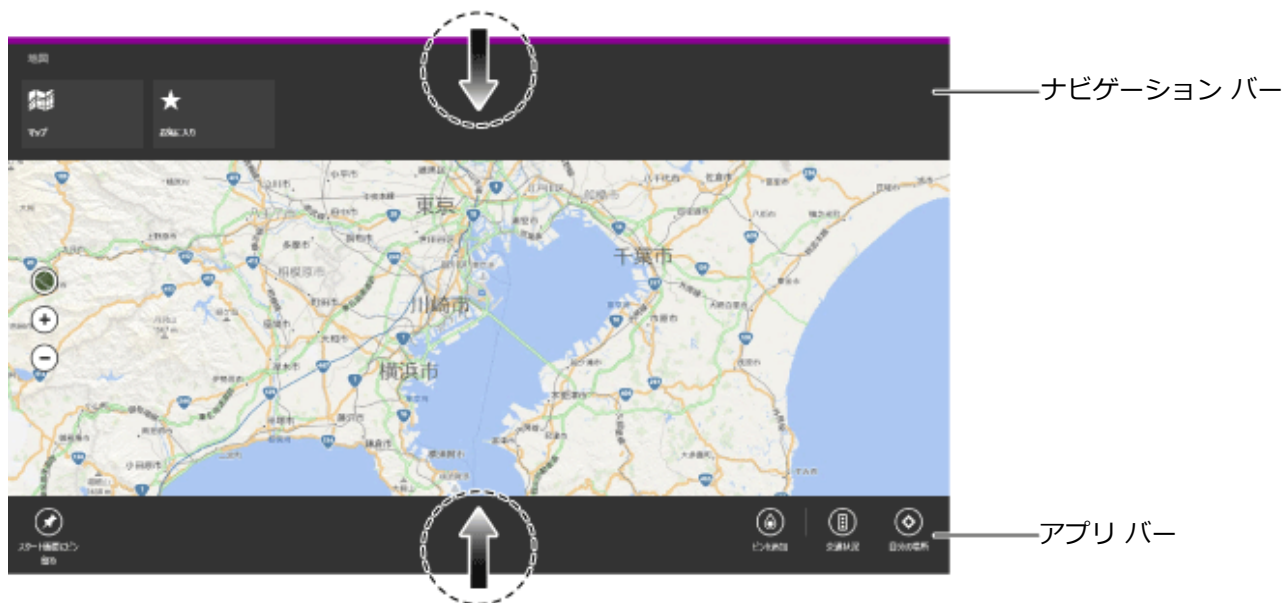
アプリバー、ナビゲーションバー

[010102-28]

アプリバーとナビゲーションバーは、表示しているアプリに対してさまざまな操作を行うためのバーです。アプリバーは画面下側に、ナビゲーションバーは画面上側に表示され、それぞれが表示されるかどうかはアプリによって異なります。表示されるメニューや機能はアプリの状況により変化します。

タッチ操作の場合

アプリバーやナビゲーションバーを表示するには、アプリの画面の上端または下端から内側へスワイプします。



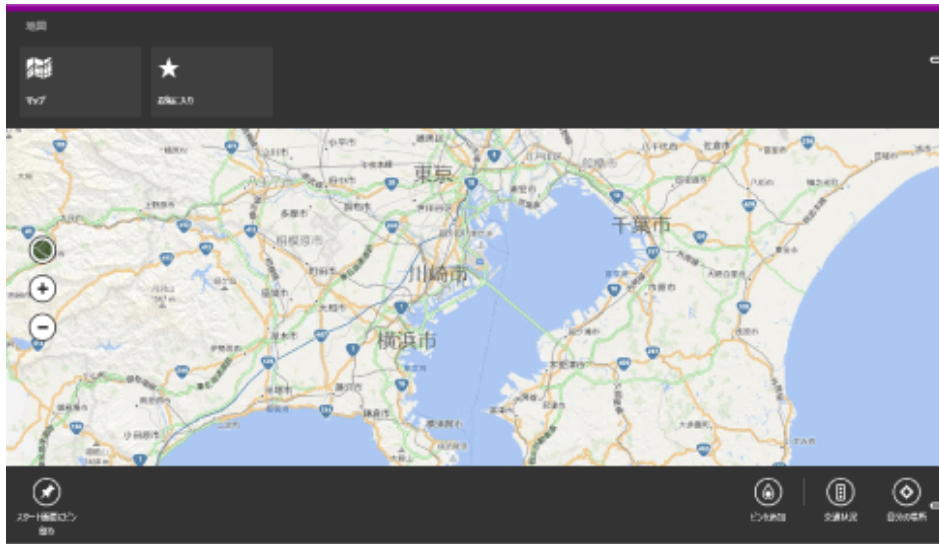
参照

タッチパネルの操作について

「本機の機能」 - 「タッチパネル」 - 「タッチパネルでの操作方法 (P. 74)」

マウス操作の場合

アプリバーやナビゲーションバーを表示するには、アプリの画面の任意の位置でマウスを右クリックします。



ナビゲーションバー

アプリバー

画面やアプリを切り替える

[010103-28]

Windows 8.1では、いろいろなアプリを切り換えて使うことができます。
ここでは画面やアプリの切り換えの主な方法を紹介します。

最近使用したアプリを順番に切り替える

二つのアプリを切り替えるときに便利です。

タッチ操作の場合

画面の左端から右へスワイプします。スワイプするたびにアプリが順番に切り換わります。



参照

タッチパネルの操作について

「本機の機能」 - 「タッチパネル」 - 「タッチパネルでの操作方法 (P. 74)」

マウス操作の場合

左上の隅にマウスポインタを合わせてクリックします。クリックするたびにアプリが順番に切り換わります。



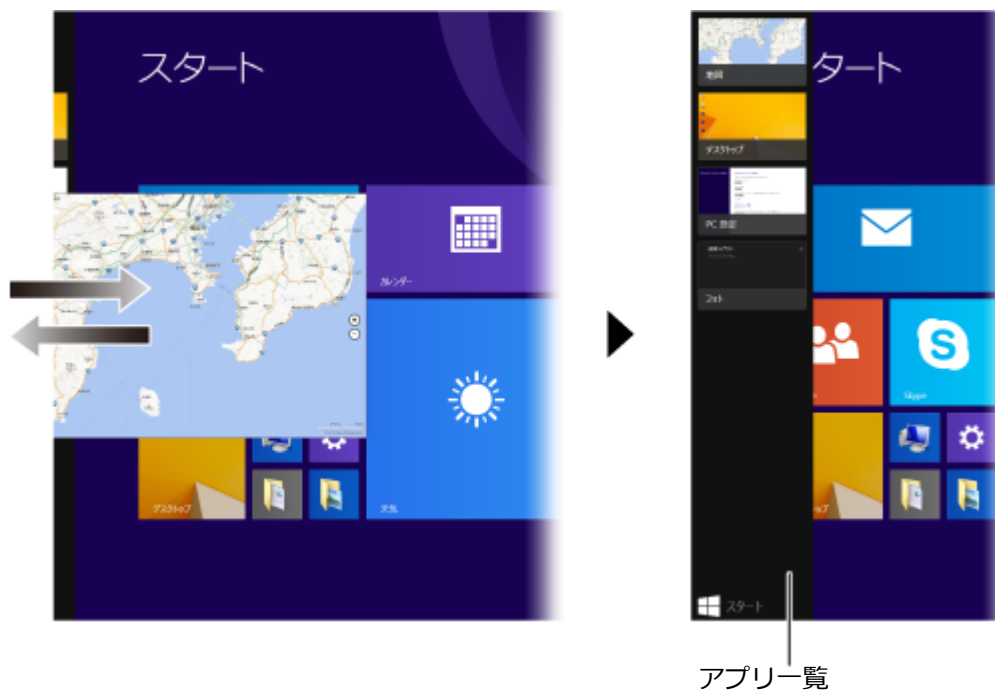
最近使用したアプリをアプリ一覧から選ぶ

二つ以上のアプリを使用していて、特定のアプリに切り替えたいときに便利です。

タッチ操作の場合

最近使用したアプリの一覧を表示するには、画面の左端から右へスライドし、一旦指をとめ、そのまま画面から離さずに左端へ戻します。

最近使用したアプリをアプリ一覧にあるサムネイル（縮小画像）から選びます。



参照

タッチパネルの操作について

「本機の機能」 - 「タッチパネル」 - 「タッチパネルでの操作方法 (P. 74)」

マウス操作の場合

最近使用したアプリの一覧を表示するには、左上の隅にマウスポインタを合わせ、下に動かします。
最近使用したアプリをアプリ一覧にあるサムネイル（縮小画像）から選びます。



2つのアプリを並べて表示する

[010104-28]

2つのアプリを、画面の左右に並べて表示できます。これを「スナップする」といいます。境界線をスライド（またはドラッグ）すると、画面の分割位置を変えるなどの調整ができます。

2つの画面にする

2つの画面にするには、アプリのサムネイルを画面の左に表示（「最近使用したアプリをアプリ一覧から選ぶ (P. 22)」）してから、アプリのサムネイルを目的の位置までドラッグまたはスライドし、区切り線が表示されたら指を離します。



区切り線



メモ

- 2つのアプリを並べて表示をやめたいときは、各アプリを終了します。
- スナップできるアプリの最大数は、ディスプレイのサイズと画面の解像度によって異なります。



参照

- **アプリの終了について**
「アプリを終了する (P. 25)」
- **タッチパネルの操作について**
「本機の機能」 - 「タッチパネル」 - 「タッチパネルでの操作方法 (P. 74)」

アプリを終了する

[010105-28]

タッチ操作の場合

アプリを終了するには、画面の上端を、画面の下端までドラッグまたはスライドします。画面の下半分が下端にかくれたら、2秒間そのままにします。小さな画像が回転したら指を離します。



メモ

画面の下端で2秒間待たずに、枠外までスライド（またはドラッグ）すると、アプリをサスペンド（一時停止）できます。



参照

タッチパネルの操作について

「本機の機能」 - 「タッチパネル」 - 「タッチパネルでの操作方法 (P. 74)」


マウス操作の場合

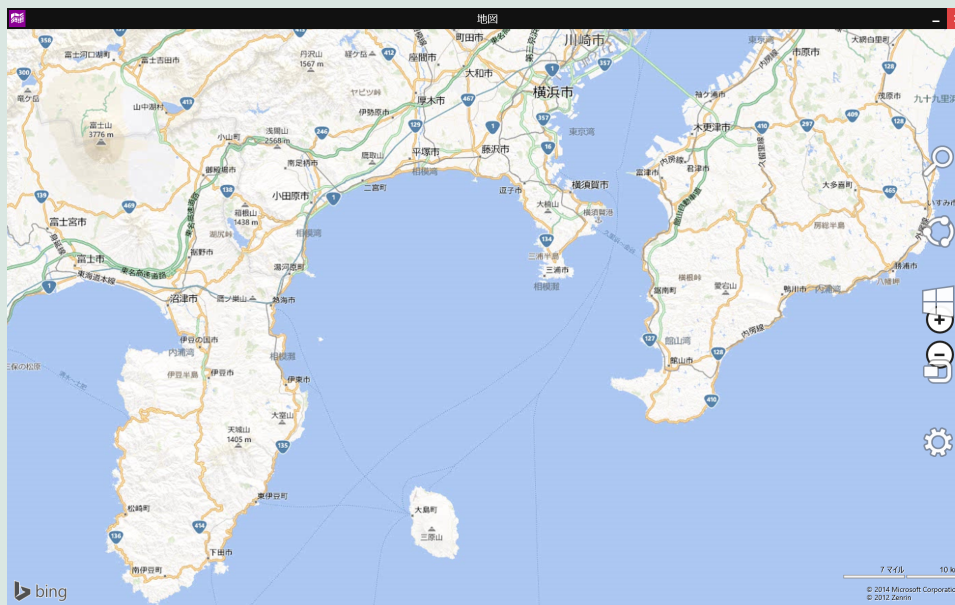
アプリを終了するには、画面の上端を、画面の下端までドラッグします。画面の下半分が下端にかくれたら、2秒間そのままにします。小さな画像が回転したらマウスから指を離します。



メモ

アプリをサスペンド（一時停止）したい場合は、次のいずれかの方法があります。

- 画面の下端で2秒間待たずに、枠外までドラッグする。
- 画面の右上へマウスポインタを移動し、が表示されたらクリックする。



各部の名称	28
電源	35
省電力機能	49
バッテリー	59
タッチパネル	72
キーボード	78
NXパッド	84
マウス	90
液晶ディスプレイ	96
外部ディスプレイ	107
Webカメラ	128
SSD	131
光学ドライブ	133
SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロット	142
サウンド機能	147
LAN機能	153
無線LAN機能	161
USBコネクタ	184
Bluetooth機能	188
セキュリティ機能	200

各部の名称

[020100-28]

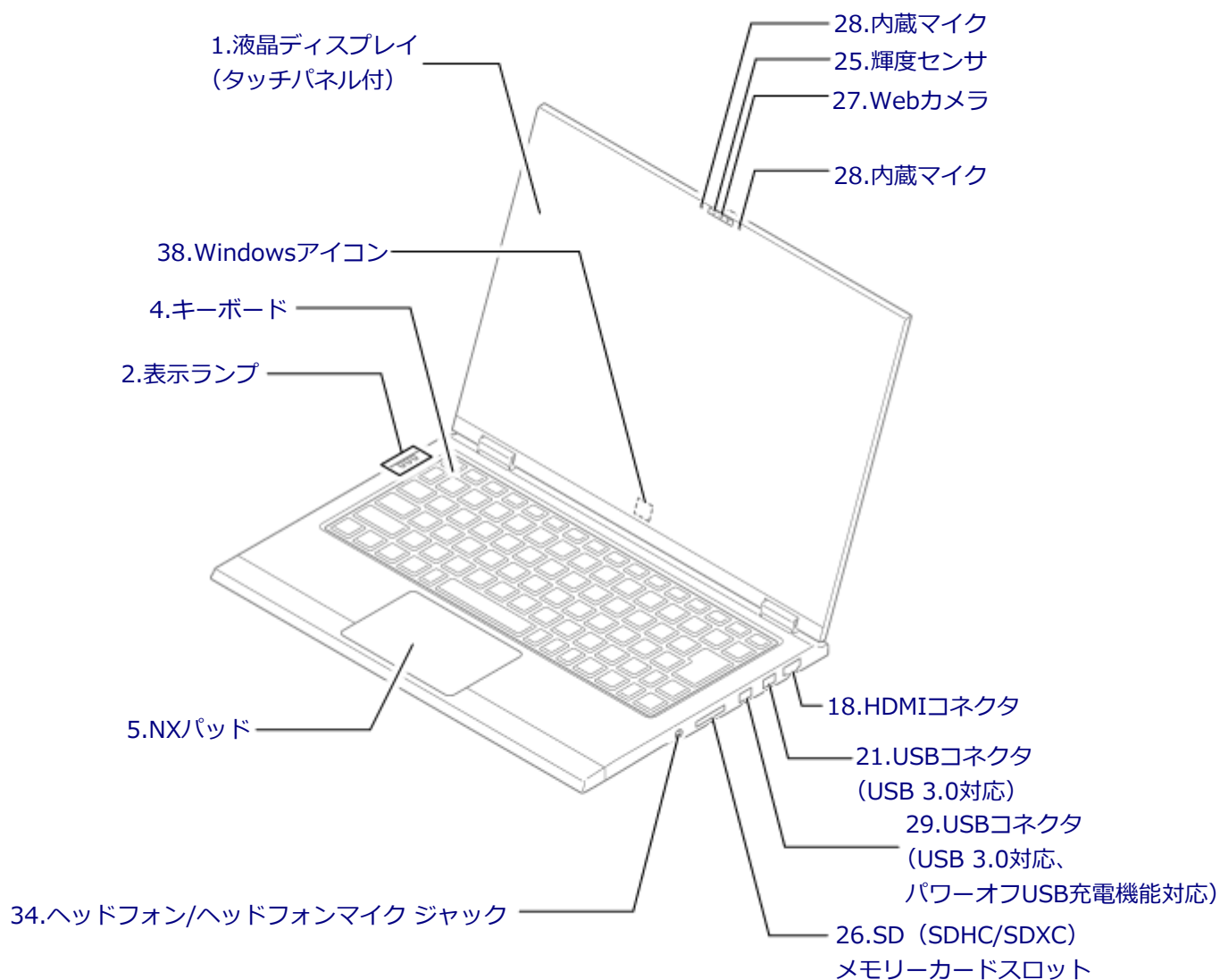
各部の名称と説明.....	29
表示ランプ.....	34

各部の名称と説明

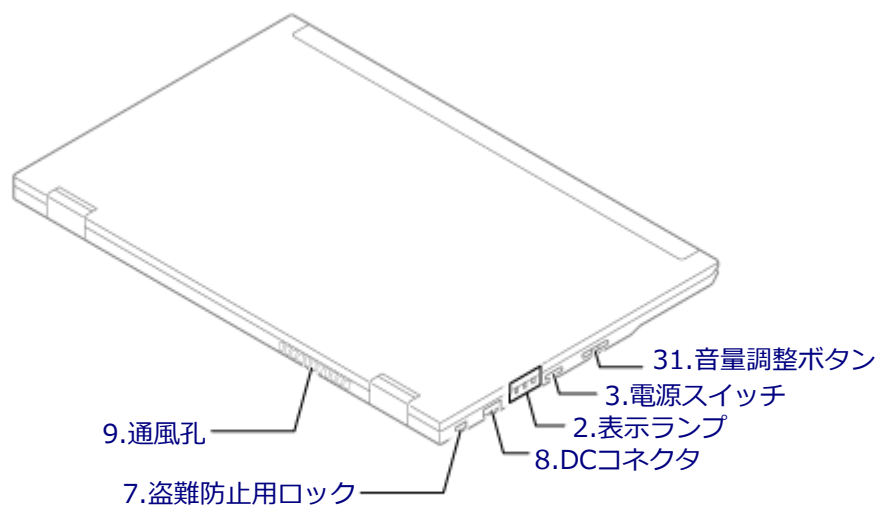
[020101-28]

各部の名称

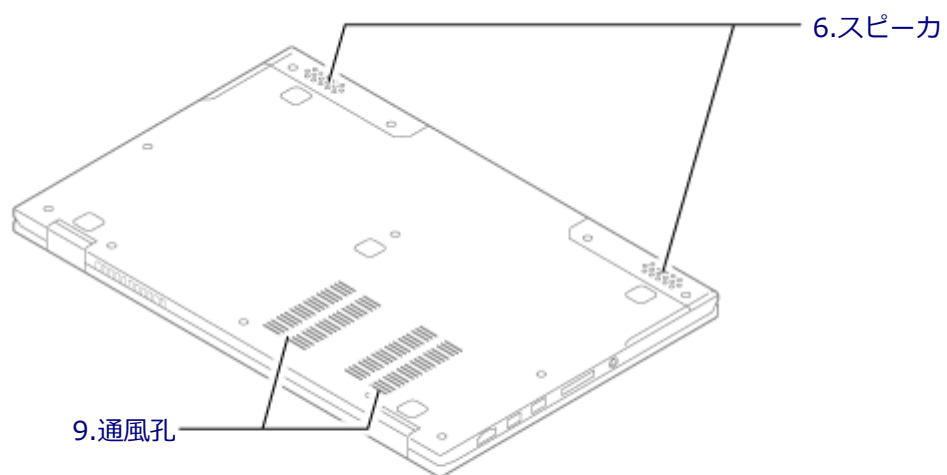
本体前面／右側面



本体背面／左側面



本体底面



各部の説明

1.液晶ディスプレイ（タッチパネル付）

本機のディスプレイです。タッチパネルが搭載され、Windowsの操作を指で行うことができます。

→「液晶ディスプレイ (P. 96)」

→「タッチパネル (P. 72)」

2.表示ランプ

本機の動作状態を表します。

→「表示ランプ (P. 34)」

3.電源スイッチ (🔌)

電源のオン/オフや電源状態の変更などで使用するスイッチです。

→「電源 (P. 35)」

4.キーボード

文字の入力や画面の操作をします。

→「キーボード (P. 78)」

5.NXパッド

Windowsでマウスカーソルの移動やクリックなどの操作をする際に使用します。

→「NXパッド (P. 84)」

6.スピーカ

内蔵のステレオスピーカです。

→「サウンド機能 (P. 147)」

7.盗難防止用ロック (🔒)

別売のセキュリティケーブルを取り付けることができます。

→「セキュリティ機能 (P. 200)」

8.DCコネクタ (==)

添付のACアダプタを接続するための端子です。

9.通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔です。



チェック

布や手などでふさがないようにしてください。

18.HDMIコネクタ

HDMI対応の大画面テレビや、HDMI端子を持つ外部ディスプレイなどを接続するためのコネクタです。
→「外部ディスプレイ (P. 107)」

21.USBコネクタ (USB 3.0対応) (SS⇄)

USB機器を接続するコネクタです。このUSBコネクタは、USB 3.0、USB 2.0およびUSB 1.1の機器に対応しています。USB 3.0の転送速度を出すためには、USB 3.0対応の機器を接続する必要があります。
→「USBコネクタ (P. 184)」

25.輝度センサ

画面の明るさを自動調整する機能を使用するときに、周辺の明るさを検知するためのセンサです。

26.SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロット

SDメモリーカードを読み書きするためのスロットです。
→「SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロット (P. 142)」

27.Webカメラ (Webカメラが搭載されているモデルのみ)

テレビ電話をするときなどに使用します。Webカメラ使用時は、Webカメラ横のランプが点灯します。
→「Webカメラ (P. 128)」

28.内蔵マイク

テレビ電話をするときなどに使用するマイクです。



チェック

このマイクを使用して録音している場合、録音している音を同時にスピーカなどで再生することはできません。

29.USBコネクタ (USB 3.0対応、パワーオフUSB充電機能対応) (SS⇄)

USB機器を接続するコネクタです。このUSBコネクタは、USB 3.0、USB 2.0およびUSB 1.1の機器に対応しています。USB 2.0の転送速度を出すためには、USB 2.0対応の機器を接続する必要があります。USB 3.0の転送速度を出すためには、USB 3.0対応の機器を接続する必要があります。
→「USBコネクタ (P. 184)」

またこのUSBコネクタは、パワーオフUSB充電機能に対応しています。USBケーブルを使って充電できる機器を充電するとき、このUSBコネクタでは電源が切れた状態でも充電できます。
この機能を使用するには、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューで設定が必要です。



参照

「Advanced」メニューの設定について

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Advanced」メニュー

31.音量調整ボタン

内蔵スピーカや、ヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャックから出力される音量を調節するためのボタンです。+を押すと音量が大きくなり、-を押すと音量が小さくなります。

→「サウンド機能 (P. 147)」

34.ヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャック (🎧)

ヘッドフォンやヘッドフォンマイク (4極 (CTIA) ミニプラグ)、または外付けスピーカやオーディオ機器を接続し、音声信号を出力、入力するための端子です。

→「サウンド機能 (P. 147)」



チェック

入力機能としてはヘッドフォンマイク (4極 (CTIA) ミニプラグ) のみ使用できます。市販のステレオマイクやモノラルマイクは使用できません。

38.Windowsアイコン

Windows使用時にタップすると、キーボードで【】を押したときと同様に、スタート画面を表示します。

表示ランプ

[020102-28]

🔋 電源ランプ

ランプの状態		本機の状態
青	点灯	電源が入っている
	点滅	スリープ状態
オレンジ	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅※1	スリープ状態でバッテリー容量が少ない
	速い点滅※2	バッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

※1 約3秒に1回点滅

※2 約2秒に1回点滅

🔋 バッテリー充電ランプ

ランプの状態		本機の状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー※1
消灯		本機がAC電源に接続されていない、またはバッテリー充電完了※2

※1 バッテリー充電時のエラー、バッテリーの寿命、または劣化時にエラーとなります。

※2 すでにバッテリーが満充電されている場合や、満充電に近い状態の場合は、ランプが点灯せず、それ以上充電できない場合があります。

🔑 キャップスロックキーランプ

ランプの状態	本機の状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている（英字を入力すると大文字になります。）
消灯	【Caps Lock】がロックされていない（英字を入力すると小文字になります。）

本機の電源の入れ方と切り方、スリープ状態や休止状態などについて説明しています。

▶ 電源の入れ方と切り方.....	36
▶ 電源の状態.....	38
▶ スリープ状態／休止状態使用上の注意.....	39
▶ スリープ状態.....	41
▶ 休止状態.....	43
▶ 電源の設定.....	44
▶ 電源の自動操作.....	48

電源の入れ方と切り方

[020301-28]

電源を入れる

電源を入れる際は、次の手順に従って正しく電源を入れてください。



チェック

- 光学ドライブなどにディスクがセットされた状態で電源を入れると、Windowsが起動しない場合があります。その場合は、セットされているディスクを取り出してから、電源を入れなおしてください。
- いったん電源を切った後で、電源を入れなおす場合は、電源を切ってから5秒以上間隔をあけて電源を入れてください。
- ユーザー選択画面が表示された場合は、サインインするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

1 周辺機器の電源を入れる

2 本機の電源スイッチを押す

電源を切る

電源を切る際は、次の手順に従って正しく電源を切ってください。



チェック

- Windowsやアプリケーションの表示中や、アクセスランプなどが点灯している場合は、本機の電源を切らないでください。
- 通信を行っている場合は、通信が終了していることを確認してから電源を切ってください。通信中に電源を切ると、通信中のデータが失われる場合があります。

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 スタート画面でをクリック

3 「シャットダウン」をクリック

シャットダウン処理終了後、電源が自動で切れます。



チェック

シャットダウン処理中は、電源スイッチを押さないでください。また、シャットダウン処理中に液晶ディスプレイを閉じると設定によってはスリープ状態または休止状態に移行してしまう場合があります。

4 電源ランプが消灯し、本機の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る

「高速スタートアップ」について

「高速スタートアップ」とは、電源の切れた状態からすばやく起動するための機能です。工場出荷時の設定では「高速スタートアップ」の機能が有効になっています。

◆「高速スタートアップ」の機能を無効にする

周辺機器の取り付け／取り外しをする際は、次の手順で「高速スタートアップ」の機能を無効にし、シャットダウンしてから行ってください。

チェックを外さずに周辺機器の取り付け／取り外しを行った場合、周辺機器を認識しないことがあります。

1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」の「電源ボタンの動作の変更」をクリック

3 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリック

4 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする(推奨)」のチェックを外す

5 「変更の保存」ボタンをクリック

電源の状態

[020302-28]

本機の電源の状態には次のように「電源が入っている状態」「スリープ状態」「休止状態」「電源が切れている状態」の4つの状態があります。

- **電源が入っている状態**

通常、本機を使用している状態です。

- **スリープ状態**

作業中のメモリの状態を保持したまま、SSDやディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、メモリの状態を保持しているので、すぐに作業を再開できます。

- **ハイブリッドスリープ**

スリープ状態に移行する際に、SSDにもメモリの情報をすべて保存するスリープ状態です。SSDにもメモリの情報が保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもSSDから復帰することができます。

- **休止状態**

メモリの情報をすべてSSDに保存してから、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元します。

- **電源が切れている状態**

本機の電源を完全に切った状態です。

電源の状態は、本機の電源ランプで確認することができます。



参照

電源ランプについて

「各部の名称」の「[表示ランプ \(P. 34\)](#)」

スリープ状態または休止状態を使用する場合の注意

- 本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがありますので、次のような場合は、スリープ状態または休止状態にしないでください。
 - プリンタへ出力中
 - 通信を行うアプリケーションを実行中
 - LANまたは無線LANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
 - 音声または動画の再生中
 - SSD、DVD、CDなどにアクセス中
 - 「システムのプロパティ」画面を表示中
 - Windowsの起動／終了処理中
 - スリープ状態または休止状態に対応していないUSB機器などの周辺機器やアプリケーションを使用中
- ハイブリッドスリープを使用しない設定にしている場合、スリープ状態のときに次のことが起こると、作業中のデータが失われますので、ご注意ください。
 - バッテリーのみで使用している状態で、バッテリーが切れた
 - バッテリー駆動に十分なバッテリー残量が無いときに、停電やACアダプタが抜けるなどの理由で、バッテリーのみで使用している状態になった
 - 電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った
- スリープ状態または休止状態への移行、復帰などの電源状態の変更は、5秒以上の間隔をあけてから行ってください。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスリープ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめ、お使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- 通信を行うアプリケーションを使用中の場合は、通信を行うアプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
- バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます。



参照

バッテリーについて

「バッテリー」の「[バッテリーの使い方と設定 \(P. 63\)](#)」

- スリープ状態または休止状態への移行中は、各種ディスク、SDメモリーカードなどの各種メモリーカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スリープ状態または休止状態中に、周辺機器の取り付けや取り外しなどの機器構成の変更を行うと、正常に復帰できなくなることがあります。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を外してください。USB機器を接続した状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。

- スリープ状態時や休止状態時、スリープ状態や休止状態への移行中、スリープ状態や休止状態からの復帰中は、USB機器を抜き差ししないでください。
- 「電源オプション」で各設定を変更する場合は、管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。
- 光学ドライブにディスクをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにディスクから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、ディスクを取り出してください。
- 光学ドライブにPhoto CDをセットしたままスリープ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。
- スリープ状態または休止状態から復帰したときに、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイが逆になったり、外部ディスプレイの設定情報を読み込めない場合があります。外部ディスプレイを再設定してください。
- スリープ状態または休止状態からの復帰を行った場合、本体は復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、NXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- 次のような場合には、復帰が正しく実行されなかったことを表しています。
 - アプリケーションが動作しない
 - スリープ状態または休止状態にする前の内容を復元できない
 - NXパッド、キーボード、電源スイッチを操作しても復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用しているときは、スリープ状態または休止状態にしないでください。電源スイッチを押しても復帰できなかったときは、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップユーティリティの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再度設定してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」-「BIOSセットアップユーティリティについて」

スリープ状態

[020304-28]

作業中のメモリの内容を保持したまま、SSDやディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、内容が保持されているので、すぐに作業を再開できます。



チェック

- スリープ状態への移行およびスリープ状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔を空けて行ってください。
- 本機を長時間使用しない場合は電源を切るか、ACアダプタを接続したうえでスリープ状態にしてください。バッテリーのみで長時間スリープ状態にしておくと、バッテリー残量がなくなることがあります。
- ハイブリッドスリープを使用しない設定にしている場合、スリープ状態でバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われたり、データが壊れたりすることがあります。

スリープ状態にする

工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動でスリープ状態にするには、次の方法があります。

「電源」からスリープ状態にする

1 チャーム バーを表示し、「設定」をクリック

2 をクリック

3 「スリープ」をクリック

Windowsが終了し、スリープ状態になります。Windowsの終了処理中は電源スイッチを押したり、液晶ディスプレイを閉じたりしないでください。

本機がスリープ状態になると、電源ランプが点滅します。

液晶ディスプレイを閉じる

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチでスリープ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れて、保存していないデータは失われてしまいます。

スリープ状態から復帰する

スリープ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、サインインするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。
- スリープ状態で長時間経過した場合やバッテリー残量が少なくなった場合、自動的に本機が休止状態になっている場合があります。その場合は、電源スイッチで復帰させてください。

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチを押して復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けしないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源が切れ、保存していないデータが失われます。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイを閉じてスリープ状態にした場合は、液晶ディスプレイを開くことでスリープ状態から復帰できます。

USBマウスを操作する

設定を行うことで、USBマウス接続時、USBマウスを操作することでスリープ状態から復帰できます。



チェック

USBマウス操作でスリープ状態から復帰できない場合は、他の方法でスリープ状態から復帰を行ってください。

ハイブリッドスリープ

スリープ状態に移行する際に、SSDにもメモリの情報をすべて保存するスリープ状態です。SSDにもメモリの情報が保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもSSDから復帰することができます。



チェック

工場出荷時は、ハイブリッドスリープを使用しない設定になっています。使用するには設定の変更が必要です。



参照

電源プランの設定の変更について
「電源の設定 (P. 44)」

休止状態

[020305-28]

メモリの情報をすべてSSDに保存し、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元しますので、本機での作業を長時間中断する場合、消費電力を抑えるのに有効です。



チェック

休止状態への移行および休止状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

休止状態にする

工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の手順で行います。

1 チャームバーを表示し、「設定」をクリック

2 をクリック

3 「休止状態」をクリック

休止状態への移行処理後、電源が自動で切れます。電源スイッチを押さないでください。本機が休止状態になると、電源ランプが消灯します。



チェック

工場出荷時は「電源」のメニューに「休止状態」は表示されません。「休止状態」を表示するには、「電源の設定」の「[電源メニューに休止状態を表示させる \(P. 46\)](#)」の手順で設定を変更してください。

休止状態から復帰する

休止状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、電源スイッチを押してください。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、サインインするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

電源の設定

[020306-28]

電源の設定は、Windowsの「電源オプション」で行います。

「電源オプション」では、あらかじめ設定されている電源プランから使用するプランを選択するほか、新規のプランを作成することができます。

また、プランごとに電源の状態を変更する操作の設定や、電源の状態が変更されるまでの時間を設定することができます。

電源プランの選択

設定されている電源プランから選択する場合は、次の手順で行います。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 表示されているプランから使用したいプランを選択する

表示されているプラン以外から選択したい場合は、「追加プランの表示」をクリックし、表示されたプランから選択してください。

4 ボタンをクリック

以上で電源プランの選択は完了です。

電源プランの設定の変更

すでに登録されている電源プランの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 設定を変更したいプランの「プラン設定の変更」をクリック

4 表示された画面で設定を行う

電源の種類ごとに設定できます。

項目	説明
ディスプレイの電源を切る	指定した時間、何も入力がない場合、ディスプレイの電源を切ります。

コンピューターをスリープ状態にする	指定した時間、何も入力がない場合、本機がスリープ状態になります。
プランの明るさを調整	ディスプレイの輝度を設定します。



チェック

設定時間を変更したときに、「コンピューターをスリープ状態にする」時間が「ディスプレイの電源を切る」時間よりも短くならないように、設定時間が自動的に変更される場合があります。個別に設定する場合は「詳細な電源設定の変更」をクリックして設定してください。



メモ

- 「詳細な電源設定の変更」をクリックすると、電源プランごとに詳細な設定が行えます。
- 「このプランの既定の設定を復元」を選択すると、設定値が既定の値に戻ります。

5 「変更の保存」 ボタンをクリック

以上で電源プランの設定の変更は完了です。

電源プランの作成

新規の電源プランを作成する場合は、次の手順で行います。

- 1 「コントロール パネル (P. 11)」 を表示する
- 2 「システムとセキュリティ」 をクリックし、「電源オプション」 をクリック
- 3 左のメニューから「電源プランの作成」 をクリック
- 4 表示される電源プランから作成したいプランに近いプランを選択する
- 5 「プラン名」 欄に作成する電源プラン名を入力し、「次へ」 ボタンをクリック
- 6 表示される画面で設定を行う
- 7 「作成」 ボタンをクリック

以上で電源プランの作成は完了です。

作成した電源プランは、「電源プランの選択 (P. 44)」 の手順で選択できます。

電源の状態を変更する操作の設定

電源スイッチを押す、液晶ディスプレイを閉じるなどの操作により移行する電源の状態を変更する場合は、次の手順で行います。



チェック

この手順で設定を行った場合、現在登録されているすべての電源プランの設定が変更されます。電源プランごとに設定を行いたい場合は、それぞれの電源プランの設定画面の「詳細な電源設定の変更」から行ってください。

1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」の「電源ボタンの動作の変更」をクリック

3 「電源ボタンとカバーの設定」欄で、動作を設定する

- 電源スイッチを押すことで移行する電源の状態を設定する場合
「電源ボタンを押したときの動作」欄で設定します。
- 液晶ディスプレイを閉じることで移行する電源の状態を設定する場合
「カバーを閉じたときの動作」欄で設定します。



チェック

工場出荷時の設定は次のようになっています。

- 「電源ボタンを押したときの動作」：「スリープ状態」
- 「カバーを閉じたときの動作」：「スリープ状態」

4 「変更の保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

電源メニューに休止状態を表示させる



をクリックすると表示されるメニューに「休止状態」を追加する場合は次の手順で行います。

1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」の「電源ボタンの動作の変更」をクリック

3 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリック

4 「シャットダウン設定」の「休止状態」にチェックを付ける

5 「変更の保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

電源の自動操作

[020307-28]

タイマによって、自動的に電源の操作を行うことができます。



チェック

タイマの自動操作によるスリープ状態からの復帰を行った場合、本体はスリープ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、NXパッドなどのポインティングデバイス进行操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

タイマ機能（電源オプション）

設定した時間を経過しても、NXパッドやキーボードからの入力やSSDへのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スリープ状態、休止状態にすることができます。

工場出荷時は次のように設定されています。

使用している電源	電源プランの名称	ディスプレイの電源を切る	SSDの電源を切る	スリープ状態にする	休止状態にする
AC電源	標準	約10分	約10分	約25分	なし
バッテリー		約2分	約3分	約5分	約15分



メモ

工場出荷時は、省電力のためスリープ状態になるように設定してあります。

本機の省電力機能について説明しています。

▶ 省電力機能について.....	50
▶ ECOモード機能.....	51
▶ ピークシフト機能.....	55
▶ Intel SpeedStep® テクノロジー.....	58

省電力機能について

[020401-28]

Windowsには、一定時間本機を使用していない場合などに電源の状態を変更し、消費電力を抑えるように設定できる電源管理機能があります。

また、Windowsの電源管理機能に加え、本機には次の省電力機能があります。

- **ECOモード機能**

ECOボタンまたはホットキーを押すことで、簡単にECOモード機能のモードを切り替えることができます。

- **ピークシフト機能**

設定した時間帯の間、バッテリーにより動作し、AC電源の使用を控えることで、電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を他の時間帯に移行することができます。

- **Intel SpeedStep® テクノロジー**

処理の負荷などによって、CPUの動作性能を切り替える機能です。



参照



- **Windowsの電源管理機能について**
「電源 (P. 35)」
- **ECOモード機能について**
「ECOモード機能 (P. 51)」
- **ピークシフト機能について**
「ピークシフト機能 (P. 55)」
- **Intel SpeedStep® テクノロジーについて**
「Intel SpeedStep® テクノロジー (P. 58)」

ECOモード機能

[020402-28]

本機では、2つの省電力設定から利用シーンにあわせて、最適な設定に切り替えることができます。工場出荷時の設定では、ECOモード機能で切り替えることのできるモードには次の2つがあり、「標準」が選択された状態になっています。

◆モードの種類

モード	通知領域のアイコンおよび色	説明
標準	 (青)	本機のパフォーマンスを優先させる設定ですが、操作がない状態で一定の時間が経過した場合、スリープ状態に移行します。電源プランは「標準」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は56%に設定されています。
ECO	 (緑)	電力をもっとも節約する設定で、標準よりも早い時間でスリープ状態に移行します。電源プランは「ECO」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は10%に設定されています。



チェック

- 表中のアイコンは工場出荷時の設定のもので、実際に表示されるアイコンはモードに割り当てている電源プランにより異なります。
- 電源プラン「ECO」は固定的に割り当てられるモードのため変更はできません。
- Windowsのサインイン画面が表示されている場合、ECOボタン、または設定したホットキーを押してもモードは変更されません。
- 電源プランの自動切替の実行中は、ECOボタンや設定したホットキーでの電源プランの切り替えはできません。
- 省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「標準」などの性能を優先するモードを選択してください。

モードを切り替える

1 ECOボタンを押す




参照

キーの使い方について

「キーボード」の「キーの使い方 (P. 81)」



チェック

- 現在のモードは、タスクバーの通知領域の  をクリックすると表示されるアイコンで確認できます。また、通知領域に表示されたアイコンを選択し、クリックをしてもモードを切り替えることができます。
- 指定したホットキーにモードの切り替えの機能を割当てることができます。
「ホットキーの設定 (P. 53)」

ECOモード機能の設定

モードの設定の変更

ECOモード機能で切り替える各モードの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「ECOモード設定ツール」をクリック

2 表示される画面で設定を行う

- **電源プラン**
変更可能なモードに割り当てる電源プランを選択します。
- **「電源プランのカスタマイズ」ボタン**
コントロールパネルの電源オプションが表示されます。
- **「初期設定に戻す」ボタン**
2つのモードと電源プランの組み合わせを、工場出荷時の設定に戻します。

3 「OK」ボタンをクリック



チェック

- ECOボタンの各モードに設定している電源プランを削除した場合、削除した電源プランを選択していたモードには「設定なし」が設定されます。
- 「初期設定に戻す」ボタンで工場出荷時の設定に戻したときに、工場出荷時の設定で使用している電源プランが削除されていた場合も「設定なし」が設定されます。

以上で設定は完了です。

自動切替設定

電源プランを自動的に切り替える期間と時間帯の設定ができます。
設定した時間帯に応じて、本機の電源プランを変更し、消費電力を抑えることができます。



チェック

- 電源プランの自動切替の実行中は、ECOボタンや設定したホットキーでの電源プランの切り替えはできません。
- 電源プランの自動切替の実行中に、手動でECOボタンやWindowsの「電源オプション」などで電源プランを切り替えた場合は、自動切替時間の終了後もその電源プランを維持します。
- ECOモード設定の切り替わりには、数分かかる場合があります。


1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「ECOモード設定ツール」をクリック

2 「電源モード自動切替の設定」ボタンをクリック

「ECOモード設定ツール(自動切り替え設定)」画面が表示されます。

3 自動切替の設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
時間帯により切り替える	チェックを付けると、時間帯に応じて、電源プランを切り替えます。
使用期間	電源プランの自動切り替えを使用する期間の開始日、終了日を設定します。それぞれの欄の▼をクリックし、表示されるカレンダーから日付を選択してください。 さらに、各モードに時間帯を設定して電源プランの自動切替を実行します。設定した時間帯は、使用できる電源プランが制限されます。  をクリックし、開始時刻、終了時刻を設定します。

4 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

ホットキーの設定

ECOボタンとは別に、モードの切り替えに使用するホットキーを1つ設定できます。ホットキーの設定は、次の手順で行います。

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「ECOモード設定ツール」をクリック

2 「ホットキーの設定」ボタンをクリック

3 使用するホットキーを選択し、「OK」ボタンをクリック



メモ

- ホットキーには、次のキーが設定できます。
 - 【Alt】 + 【F1】 ~ 【F3】
 - 【Alt】 + 【F5】 ~ 【F12】
 - 【Ctrl】 + 【F1】 ~ 【F12】
- 「初期設定に戻す」ボタンをクリックすると、ホットキーの設定を工場出荷時の状態に戻します。

以上で設定は完了です。

ピークシフト機能

[020405-28]

電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を、他の時間帯に移行することをピークシフトといいます。本機は、「ピークシフト設定ツール」で設定を行うことで「ピークシフト機能」を使用できます。

使用上の注意

- ピークシフト機能の実行には、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続しておく必要があります。
- ピークシフト機能の実行には、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」がインストールされている必要があります。
- ピークシフト機能実行中に ACアダプタを本機、またはACコンセントから取り外したり、本機をスリープ状態や、休止状態にする、シャットダウンを行うとピークシフト機能は中断します。
- ピークシフト機能の設定はユーザーごとに設定可能ですが、同時に実行できるピークシフト機能は1つのみです。ユーザーの切り替えを使用して複数のユーザーがサインインしている状態で、いずれかのユーザーが設定したピークシフト機能が実行中の場合、他の設定によるピークシフト機能は正常に動作しません。
- ピークシフト機能実行中に「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」でバッテリーのリフレッシュを実行すると、ピークシフト機能が正常に動作しないことがあります。
- 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」で、著しい劣化と診断され「警告」と表示されたバッテリーは充電できません。ただちに新しいバッテリーに交換してください。また、劣化したバッテリーのまま、ピークシフト機能を使用しないでください。



チェック

バッテリーの交換については、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。

- テキストやその他の項目の大きさを変更している場合、「ピークシフト設定ツール」の設定項目が表示されない場合があります。その場合は、次の手順でテキストなどの大きさを変更してから、設定を行ってください。

1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する

2 「デスクトップのカスタマイズ」をクリック

3 「ディスプレイ」の「テキストやその他の項目の大きさの変更」をクリック

4 「すべてのディスプレイで同じ拡大率を使用する」にチェックを付けてから、「小 - 100%」を選択し「適用」ボタンをクリック

5 サインアウトを促すメッセージが表示されたら、「今すぐサインアウト」ボタンをクリック

再度サインインし、「ピークシフト機能の設定 (P. 56)」へ進んでください。

- 「バッテリー駆動に切り換える」「バッテリーへの充電を控える」の時間帯を長時間に設定した場合、バッテリーの充電量が不足します。バッテリーの充電時間が最低5時間は確保されるように「バッテリー駆動に切り換える」「バッテリーへの充電を控える」の時間帯を19時間以上には設定しないようにしてください。

- バッテリへの充電を行わない時間の開始・終了は、本機の運用状況により若干の誤差が発生する場合があります。

ピークシフト機能の設定






ピークシフト設定ツールで、ピークシフト機能に関する各種設定を行うことができます。
ピークシフト機能の設定は、次の手順で行います。

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「ピークシフト設定ツール」をクリック

「ピークシフト設定ツール」が表示されます。

2 ピークシフト機能の設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
使用期間	ピークシフト機能を使用する期間の開始日、終了日を設定します。 それぞれの欄の  をクリックし、表示されるカレンダーから日付を選択してください。
バッテリー駆動に切り換える (更にバッテリー充電を控える)	チェックを付けると、時間帯を指定してピークシフト機能を使用します。 ● 「開始」「終了」  をクリックし、開始時刻、終了時刻を設定します。終了時刻は、「バッテリーへの充電を控える」で設定している時間帯の範囲内になります。
バッテリーの残容量が次を切ったら、AC電源駆動に切り換えます。	ピークシフト実施中に、バッテリー駆動からAC電源による駆動に切り換えるバッテリーの残容量を10%~100%の間で設定します。  をクリックし、設定を行ってください。
バッテリー駆動する開始時間をランダムに分散させる。	チェックを付けると、バッテリー駆動を開始/終了する時間を分散させます。  チェック 終了時間の分散により設定画面で設定した終了時間を越えることがあります。
バッテリーへの充電を控える	設定した時間帯はバッテリー充電を行いません。 ● 「終了」  をクリックし、バッテリーへの充電を控える時間帯の終了時刻を設定します。開始時刻はバッテリー駆動開始時刻と同じ時間になります。
スリープ、電源オフ中に、AC電源からバッテリーへ充電を行わない。	チェックを付けると、ピークシフト実施中に本機がスリープ状態や休止状態、電源オフになってもバッテリーの充電を行いません。
設定変更には管理者権限が必要	チェックを付けると、管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーのみが、ピークシフト機能の設定を変更できるようになります。

3 「OK」ボタンをクリック

設定が保存され、「ピークシフト設定ツール」が閉じます。





メモ

「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を変更しないで「ピークシフト設定ツール」画面を閉じます。

以上でピークシフト機能の設定は完了です。

ピークシフト機能の動作状況は、ピークシフトの実施時間になるとタスクバーの通知領域に表示されるアイコンで確認できます。

通知領域のアイコン	説明
	ピークシフトが実施され、バッテリーのみで動作しています。
	バッテリー残量が「ピークシフト停止バッテリー残容量」以下などの理由で、AC電源で動作しています。

Intel SpeedStep® テクノロジー

[020404-28]

Intel SpeedStep® テクノロジーに対応したCPUが搭載されているモデルでは、電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

Intel SpeedStep® テクノロジーへの対応については、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

設定を変更する場合は、「電源プランの設定の変更」の手順3で「詳細な電源設定の変更」をクリックし、表示される画面の「プロセッサの電源管理」の各項目で設定を行います。



参照

電源プランの設定の変更について

「電源の設定」 - 「電源プランの設定の変更 (P. 44)」

本機のバッテリー（二次電池）の使い方やバッテリーリフレッシュなどについて説明しています。

▶ バッテリー（二次電池）について.....	60
▶ 使用上の注意.....	61
▶ バッテリーの充電.....	62
▶ バッテリーの使い方と設定.....	63
▶ バッテリーリフレッシュ.....	65
▶ バッテリー・リフレッシュ&診断ツール.....	67

バッテリー（二次電池）について

[020501-28]

- 本機はリチウムイオン電池を内蔵しています。バッテリーの交換については、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。
- バッテリーについてはJEITA（一般社団法人 電子情報技術産業協会）の「PC用バッテリー関連Q&A集」（<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14>）もあわせてご覧ください。
- 本機に使用しているリチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。



使用上の注意

[020502-28]

- SSDなどへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、SSDなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。
- 充電を行う際にはできるだけ満充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- バッテリー残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリーリフレッシュを実行してください。
- 満充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）にしても使用できる時間が短くなった場合は、バッテリーリフレッシュを行ってください。



参照

バッテリーリフレッシュについて

「[バッテリーリフレッシュ \(P. 65\)](#)」

- 本機を長期間使用しない場合は、バッテリー残量を50%程度にして、涼しいところに保管しておくことでバッテリーの寿命を長くすることができます。
- バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、スリープ状態や休止状態を利用したり、本機の省電力機能を使用してください。



参照

- **スリープ状態／休止状態について**

「[電源 \(P. 35\)](#)」

- **省電力機能について**

「[省電力機能 \(P. 49\)](#)」

- バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2～3か月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリーの充電

[020504-28]



チェック

購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ず満充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。本機の電源を入れて使用していても充電されます。



メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

バッテリーの充電時間については、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプで確認することができます。



参照

バッテリー充電ランプについて
「表示ランプ (P. 34)」



バッテリーの使い方と設定

[020505-28]

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は次の方法で確認できます。

タスク バーの通知領域で確認する

タスク バーの通知領域の  または  をクリックすると、現在のバッテリー残量と電源プランが表示されます。

電源ランプで確認する

電源ランプの状態で、バッテリー残量を確認できます。



参照

電源ランプについて
「表示ランプ (P. 34)」

バッテリー残量による動作の設定

バッテリー残量が一定の値以下になったときに通知したり、自動的にスリープ状態や休止状態になるように設定できます。



チェック

- 工場出荷時の状態では、バッテリー残量が10%以下になったときに通知し、5%以下になったときに再度通知し、自動的に休止状態になるように設定されています。
- バッテリー残量による動作は、電源プランごとに設定します。

バッテリー残量による動作の設定を変更するには、次の手順で行います。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 設定を変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリック

4 「詳細な電源設定の変更」をクリック

5 「バッテリー」をダブルクリック

6 「バッテリー」以下に表示される項目で設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
バッテリー切れの動作	バッテリー残量が「バッテリー切れのレベル」以下になったときに行う動作を設定します。
低残量バッテリーのレベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、「低残量バッテリーの動作」を開始します。
バッテリー切れのレベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、「バッテリー切れの動作」を開始します。
低残量バッテリーの通知	バッテリー残量が「低残量バッテリーのレベル」以下になったときに通知するかどうかを設定します。
低残量バッテリーの動作	バッテリー残量が「低残量バッテリーのレベル」以下になったときに行う動作を設定します。
省電源移行バッテリー レベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、Windowsが省電源モードで動作するようになります。

7 「OK」ボタンをクリック

以上で設定の変更は完了です。

■ バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。バッテリー充電ランプが点灯し、バッテリーの充電が始まります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用できます。

ACコンセントが使えない場合

本機を休止状態にするか、使用中のアプリケーションを終了して本機の電源を切ってください。

バッテリー残量が少ない状態で、ACコンセントから電源を供給しないまま本機を使用していると、バッテリー残量に応じて電源プランで設定されている動作が実行されます。

バッテリーリフレッシュ

[020506-28]

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のような場合には、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- バッテリーでの駆動時間が短くなった
- 購入直後や長期間バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下している
- バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーリフレッシュの実行



メモ

本機は、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」でWindows上からバッテリーリフレッシュを実行することができます。



参照

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールについて
「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール (P. 67)」

BIOSセットアップユーティリティからバッテリーリフレッシュを実行するには、次の手順で行います。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**
- 2 本機にACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードのプラグをACコンセントに接続する**

- 3 バッテリーを満充電（バッテリー充電ランプが消灯した状態）にする**

- 4 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す**

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて
『システム設定』の「システム設定」-「BIOSセットアップユーティリティについて」

- 5 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す**

- 6 「Exit」メニューの「Battery Refresh」を選択し、【Enter】を押す**

7 「Do you want to refresh battery?」と表示されたら、「Yes」を選択し【Enter】を押す

バッテリーリフレッシュが始まります。



チェック

バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

バッテリーリフレッシュが完了しバッテリー内の電力がなくなると、自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

以上でバッテリーリフレッシュは完了です。

■ バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するには、次の方法があります。

- **【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 を押す**

本機が再起動します。

- **電源スイッチを押す**

本機の電源が切れます。

- **【Esc】 を押す**

選択画面が表示されるので、【↑】【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選択し、【Enter】を押してください。バッテリーリフレッシュが中断し、本機が再起動します。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツール

[020507-28]

「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を使用することで、バッテリーのリフレッシュと性能診断、バッテリーのリフレッシュと診断の自動実行ができます。



チェック

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールがインストールされていない場合、ピークシフト機能は使用できません。また、著しく劣化したバッテリーの充電停止機能も使用できません。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの表示

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの表示は次の手順で行います。

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」をクリック

2 バッテリリフレッシュや性能診断についての概要を説明する画面が表示された場合は、「次へ」ボタンをクリック



メモ

- 「起動時にこの画面を表示しない」にチェックを付けてから「次へ」ボタンをクリックすると、概要説明画面を次回から表示しなくなります。
- 概要説明画面は、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を表示して、「はじめにお読みください」ボタンをクリックしても表示されます。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールや診断結果については、バッテリー・リフレッシュ&診断ツールを表示し、「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されるヘルプをご覧ください。

バッテリーのリフレッシュと性能診断を実行する

バッテリーのリフレッシュと性能診断は、次の手順で行います。



チェック

バッテリーのリフレッシュと性能診断を行う場合には、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続しておく必要があります。

1 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を表示する

2 「開始」ボタンをクリック

確認画面が表示されます。

3 内容を確認し、「はい」ボタンをクリック

バッテリーのリフレッシュが開始されます。

バッテリーのリフレッシュ終了後、性能診断が行われます。



メモ

確認画面、および実行中の画面で「終了後、自動的にスリープ状態にする」にチェックを付けると、バッテリーのリフレッシュと性能診断が終了した後、本機がスリープ状態になります。



チェック

- バッテリーのリフレッシュを中断する場合は、「中止」ボタンをクリックし、画面の指示に従ってください。また、バッテリーのリフレッシュを中断した場合、性能診断は行われません。
- 「バッテリー状態」に「劣化」と表示された場合、バッテリーの交換をおすすめします。
- 「バッテリー状態」に「警告」と表示された場合、バッテリーを交換してください。また、バッテリーへの充電やバッテリーリフレッシュは、安全のため行えなくなります。
- バッテリーの交換については、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。

バッテリーのリフレッシュと性能診断を自動実行する

バッテリーのリフレッシュと性能診断の自動実行は、次の手順で設定します。



チェック

バッテリーのリフレッシュと性能診断を自動実行する場合には、設定した時間に本機が以下の状態であることが必要です。

- 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続されている。
- 電源がシャットダウンされていない（起動中、スリープ状態、休止状態の場合は実行可能です）。
- 管理者（Administrator）権限を持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーでサインインしている。
- 管理者（Administrator）権限を持ち、Windows パスワードを持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーでサインインしている。

1 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を表示する

2 「次回開始日時の設定」ボタンをクリック

3 「次回の実行日時を指定する」を選択し、実行時間を設定する

必要に応じて以下の項目も設定してください。

- 「Windows パスワード」
Windows のサインインパスワードを設定している場合は、この欄にパスワードを入力する
- 「終了後、自動的にスリープ状態にする」
自動実行終了後、本機をスリープ状態にする場合にはチェックを付ける



チェック

管理者 (Administrator) 権限を持たないユーザーで設定を行っている場合、「Windows パスワード」欄は表示されません。

4 「OK」ボタンをクリック

以上でバッテリーのリフレッシュと性能診断の自動実行の設定は完了です。

■ バッテリーの充電モードを設定する

バッテリーの充電モードを設定できます。



チェック

充電モードの設定は、バッテリー・リフレッシュ&診断ツールでのみ変更可能です。



メモ

- 現在内蔵しているバッテリーの充電モードは、バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの「現在のモード」欄で確認できます。
- バッテリーは、使い続けていくうちに、バッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間が以前よりも短くなっていきます。このようなときは、バッテリーのリフレッシュを実行することでバッテリーの性能を回復できます。

1 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を表示する

2 「充電モードの設定」ボタンをクリック

3 設定するモードを選択する

設定可能なモードは次のとおりです。

モード	説明
フル充電モード	100%まで充電する通常モードです。
8割充電モード	充電を80%までにすることで、バッテリーの劣化を抑えるモードです。
5割充電モード	50%まで充電します。

4 「OK」ボタンをクリック

以上で充電モードの設定は完了です。

■ バッテリ・リフレッシュ&診断ツールのアンインストール

バッテリ・リフレッシュ&診断ツールのアンインストールは、次の手順で行います。



チェック

アンインストールは管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。

- 1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する
- 2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック
- 3 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック
- 4 「バッテリ・リフレッシュ&診断ツールをアンインストールしますか?」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリック

以上でバッテリ・リフレッシュ&診断ツールのアンインストールは完了です。

■ バッテリ・リフレッシュ&診断ツールの再インストール

アンインストールした「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」を再インストールする場合は、次の手順で行います。



チェック

- インストールには光学ドライブが必要です。
- インストールは管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。

- 1 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 2 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Nxsetup.exe



メモ

光学ドライブがDドライブ以外の場合は、先頭の「D」を、お使いの光学ドライブのドライブ文字に置き換えて入力してください。

4 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を選択し、「インストール」をクリック

5 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツールファイル使用中」画面が表示された場合は、「NEC Battery Refresh Utility-Scheduler (Process Id: XXXX)」をクリックし、「継続」ボタンをクリック

6 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、「はい」ボタンをクリック

Windowsが自動的に再起動します。



チェック

メッセージが表示されない場合は、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動してください。

以上でバッテリー・リフレッシュ&診断ツールの再インストールは完了です。

本機のタッチパネル機能について説明しています。

▶ 使用上の注意.....	73
▶ タッチパネルでの操作方法.....	74
▶ タッチパネルの設定.....	76

使用上の注意

[023001-28]

- 必要以上に強い力でタッチしないでください。故障の原因になります。
- 画面上に物を置くなど、長時間同じ位置に重量負荷をかけないようにしてください。画面がたわみ、故障の原因になります。
- 汚れた指でタッチしないでください。画面に汚れが付着して見にくくなる可能性があります。
- 万が一タッチパネルが割れた場合は指で触れたりせずに修理を依頼してください。
- タッチパネルの表面にフィルムなどを貼らないでください。また、汚れや水滴が付着した場合は柔らかい布で取り除いてください。タッチ操作が正常に行えなくなる可能性があります。
- 指の状態（乾燥している、汗や水で濡れているなど）によっては、タッチ操作が正常に行えなくなる可能性があります。
- 他の電気機器から離してお使いください。そばに置いて使用していると、タッチパネルの動作が不安定になることがあります。
- ACアダプタは、他の電気機器と同じACコンセントに接続しないでください。他の電気機器からノイズを受けて、タッチパネルの動作が不安定になることがあります。
やむなく同じコンセントに接続していて、他の電気機器にアース線がある場合は、必ずアース線を接続してください。

タッチパネルでの操作方法

[023002-28]

本機のタッチパネルでの操作と対応するマウス操作について説明します。



メモ

操作をするときは指先で触れるようにし、また、2本の指で操作する場合は、1本目の指で画面に触れてから、2本目の指の操作を行ってください。

操作名	操作イメージ	説明	同じ動作をするマウス操作
タップ		画面上の対象に指1本で軽く触れ、指を離します。 アイコンや項目の選択や、ボタンを押すときに使用します。	クリック
長押し (プレス アンド ホールド)		指1本で画面上の対象に触れ続け、四角が表示された後に指を離します。 右クリックメニューが表示されます。	右クリック
ダブル タップ		画面上の対象を指で2回連続でタップします。 ダブルクリックと同様に、フォルダを開いたり、プログラムを実行するときに使用します。	ダブル クリック
ドラッグ		画面上の対象に触れ、指を離さずに目的の場所まで動かして指を離します。 アイコンの移動や範囲選択などで使用します。	ドラッグ
スライド (パン)		指を画面上に軽くタッチした状態で動かします。 画面に表示しきれない大きなページや画像データを動かし、隠れていた部分を表示することができます。	スクロール

<p>スワイプ (フリック)</p>		<p>画面に触れ、指を払うように動かします。 指を動かした方向に表示内容がスクロールさせたり、ページをめくることができます。 アプリケーションが対応している場合のみ有効です。</p>	<p>—</p>
<p>ピンチ/ ストレッチ (ズーム)</p>		<p>ピンチによる縮小をする場合は、指1本で画面に触れたまま、別のもう1本の指で画面に触れ、2本の指先でつまむように動かします。 ストレッチによる拡大をする場合は、逆に2本の指先を開くように動かします。 アプリケーションが対応している場合のみ有効です。</p>	<p>【Ctrl】 + スクロールホイール</p>
<p>回転</p>		<p>指1本で画面に触れたまま、もう1本の指で画面に触れ、最初に触れた指を中心にして円を描くように動かします。 アプリケーションが対応している場合のみ有効です。</p>	<p>—</p>

タッチパネルの設定

[023004-28]

操作や表示などの設定

ダブルタップなどの操作に関する設定や、タッチパネル操作時の表示について設定できます。

ダブルタップなどの操作に関する設定をする

- 1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「ペンとタッチ」をクリック
- 3 「タッチ」タブで設定を行う
ダブルタップや長押しの設定ができます。
- 4 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

タッチパネル操作時の表示、画面の回転に関する設定をする

- 1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC 設定」をクリック
- 3 次のタブで設定を行う

- 「画面」タブ
画面の回転についての設定などができます。



チェック

「調整」をクリックしてタッチする位置の調整をしないでください。調整をすると、タッチの反応位置がずれてしまうことがあります。
調整してしまった場合は、「画面」タブの「リセット」をタップして、ご購入時の設定に戻してください。

- 「その他」タブ
きき手などの設定ができます。

4 「OK」 ボタンをクリック

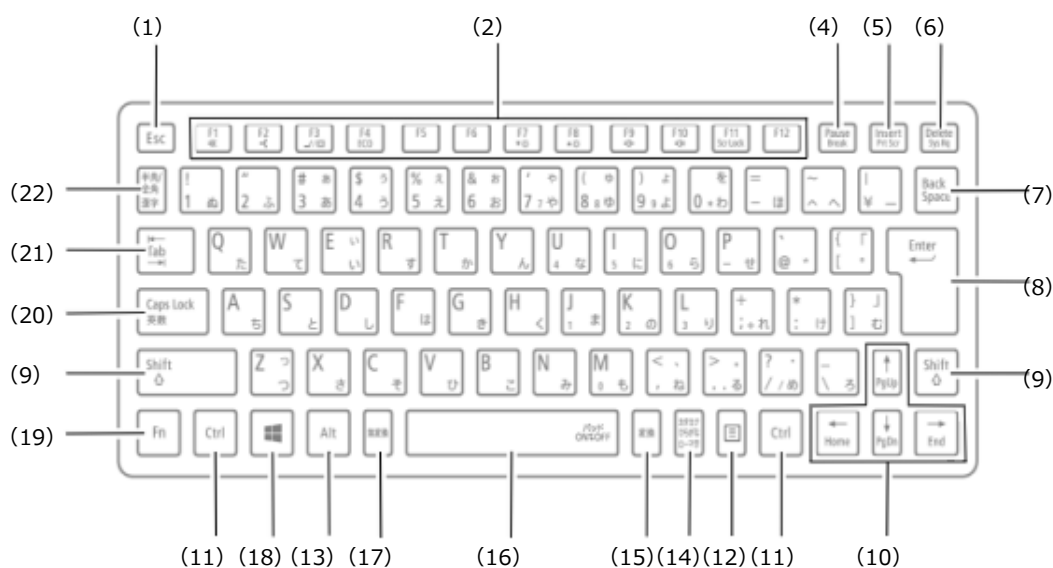
以上で設定は完了です。

本機のキーボードのキーの名称や、キーの使い方について説明しています。

▶ キーの名称.....	79
▶ キーの使い方.....	81
▶ キーボードの設定.....	83

キーの名称

[020603-28]



番号	マニュアルでの表記	名称
(1)	【Esc】	エスケープキー
(2)	【F1】～【F12】	ファンクションキー
(4)	【Pause】	ポーズキー
(5)	【Insert】	インサートキー
(6)	【Delete】	デリートキー
(7)	【Back Space】	バックスペースキー
(8)	【Enter】	エンターキー（リターンキー）
(9)	【Shift】	シフトキー
(10)	【↑】【↓】【→】【←】	カーソルキー
(11)	【Ctrl】	コントロールキー
(12)	【  】	アプリケーションキー
(13)	【Alt】	オルトキー
(14)	【カタカナ ひらがな】	かなキー
(15)	【変換】	変換キー
(16)	スペースキー	スペースキー
(17)	【無変換】	無変換キー
(18)	【  】	Windowsキー

(19)	【Fn】	エフエヌキー
(20)	【Caps Lock】	キャップスロックキー
(21)	【Tab】	タブキー
(22)	【半角/全角】	半角/全角キー

日本語入力のオン/オフ

本機は、工場出荷時、日本語入力システムとしてMicrosoft IMEが設定されています。
工場出荷時の状態で日本語入力のオン/オフを切り替えるには【半角/全角】または【Caps Lock】を押してください。

ホットキー機能（【Fn】の使い方）

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定を変更したり、キーの役割を変えることができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは【Fn】と同じ色でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機能	説明
【Fn】 + 【F1】	音声のオン/オフ（ミュート機能） 	音声のオン/オフを切り替えます。
【Fn】 + 【F2】	ワイヤレススイッチ 	ワイヤレス機能のオン/オフを切り替えます。詳しくは「 無線LAN機能 (P. 161) 」、「 Bluetooth機能 (P. 188) 」をご覧ください。
【Fn】 + 【F3】 ※1	画面表示先の切り替え 	市販の外部ディスプレイを接続しているときに、パソコンの画面を表示するディスプレイを切り換えます。 詳しくは「 画面の出力先を切り替える (P. 124) 」をご覧ください。
【Fn】 + 【F4】 ※3	ECOボタン（ECO）	ECOモードを切り替えます。詳しくは「 ECOモード機能 (P. 51) 」をご覧ください。
【Fn】 + 【F7】	輝度を下げる 	液晶ディスプレイの輝度が下がります（11段階）。
【Fn】 + 【F8】	輝度を上げる 	液晶ディスプレイの輝度が上がります（11段階）。
【Fn】 + 【F9】	音量を下げる 	スピーカの音量を下げます。
【Fn】 + 【F10】	音量を上げる 	スピーカの音量を上げます。
【Fn】 + 【F11】 ※2	スクロールロック	【Scr Lock】として機能します。
【Fn】 + 【Insert】	プリントスクリーン	【Prt Scr】として機能します。
【Fn】 + 【Pause】	Break	【Break】として機能します。
【Fn】 + 【Delete】	システムリクエスト	【Sys Rq】として機能します。
【Fn】 + 【↑】	Page Up	【Pg Up】として機能します。
【Fn】 + 【↓】	Page Dn	【Pg Dn】として機能します。
【Fn】 + 【←】	Home	【Home】として機能します。
【Fn】 + 【→】	End	【End】として機能します。
【Fn】 + スペースキー ※4	NXパッドのオン/オフ	NXパッドのオン/オフを切り替えます。

【Fn】 + 	右Windows	右  として機能します。
--	----------	---

- ※1 外部ディスプレイを接続していない場合は動作しません。
- ※2 本機の電源を切ったり、再起動を行った場合、設定した内容は解除されます。
- ※3 「ECOモード設定ツール」をアンインストールした場合は動作しません。
- ※4 NXパッドのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に変更した場合は動作しません。

キーボードの設定

[020605-28]

Windowsでキーボードをより使いやすく設定することができます。



参照

キーボードの設定について
Windowsのヘルプ

本機のNXパッドの使い方や拡張機能の設定、NXパッドのドライバを変更する方法などについて説明しています。

▶ NXパッドの使い方.....	85
▶ NXパッドの設定.....	86

NXパッドでの操作

工場出荷時の状態で使用できるNXパッドでの操作には、次のようなものがあります。

操作名称	操作説明
マウスポインタの移動	パッドに触れ、マウスポインタを動かしたい方向に指を動かします。
クリック	パッドの右下以外の部分を押し込んで、すぐに離します。
右クリック	パッドの右下部分を押し込んで、すぐに離します。
ダブルクリック	アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせてからクリックの操作を2回続けてすばやくクリックします。
ドラッグ	アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせ、パッドを押し込んだままパッド上で指を動かします。
スクロール	スクロールバーが表示されているアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。触れる位置は少し離してください。 そのまま、スクロールバーを動かしたい逆方向に2本の指を動かします。
ズーム	拡大／縮小の操作を行いたいアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。 そのまま、指先の間を広げたり狭めたりすることで、拡大／縮小ができます。
回転	回転の操作を行いたいアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。 そのまま、2つの指をひねるように回転させます。



チェック

スクロールやズーム、回転は、対応していないアプリケーションでは使用できません。



メモ

- パッドを指先で軽くたたくとクリックと同じ操作になります。また、2回続けてすばやくパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいてクリックやダブルクリックの操作をすることを「タップ」や「ダブルタップ」と呼びます。
- クリックボタンを使わずに、アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせてから2回続けてすばやくパッドをたたき、指を動かすと、ドラッグの操作になります。

NXパッドの設定

[020803-28]

NXパッドのボタンやポインタの動作などの設定は「マウスのプロパティ」で行います。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」の各タブをクリックし、NXパッドの設定ができます。

マルチタッチやジェスチャーなどの機能の設定

マルチタッチやジェスチャー、スクロールなどの機能の設定は、「マウスのプロパティ」の「NX パッド」タブから「Elan Smart-Pad」画面を表示して行います。

「Elan Smart-Pad」画面の表示は、次の手順で行います。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

3 「NX パッド」タブをクリック

4 「NX パッド」タブ内の「オプション」ボタンをクリック

NXパッドの「Elan Smart-Pad」画面が表示されます。



チェック

【Fn】 + 【Space】でNXパッドを無効にしていた場合、「オプション」ボタンは操作できません。


設定できる項目


「オプション」画面では、次の項目の設定ができます。


	項目	説明
一本指	タッピング	有効にすると、タップ操作が使用可能になります。
	一本指	クリック/選択の操作が使用可能になります。

	二本指	二本指を使ったタップ操作が可能になります。ご使用になりたい機能をドロップダウンメニューから選択してください。
	三本指	三本指を使ったタップ操作が可能になります。ご使用になりたい機能をドロップダウンメニューから選択してください。
クリック		パッドを押し込む操作がクリックとして機能します。
	一本指	クリック/選択の操作が使用可能になります。
	二本指	二本指を使ったクリック操作が可能になります。ご使用になりたい機能をドロップダウンメニューから選択してください。
	三本指	三本指を使ったクリック操作が可能になります。ご使用になりたい機能をドロップダウンメニューから選択してください。
	左隅	パッドの左下隅を使ったクリック/選択が可能になります。
	右隅	パッドの右下隅を使ったポップアップメニューが可能になります。
ドラッグ&ドロップ		有効にすると、ドラッグおよびドロップの操作が使用可能になります。操作の設定については、以下の項目から選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ● スクリーンから指を離すとフレーム選択が解除されます ● もう一度タッピングしてリリース ● 一定時間遅延後リリース
エッジスクロール		パッドの右端や下端をなぞることでスクロールができるスクロール領域が使用可能になります。操作の設定については、以下の項目から選択してください。
	縦方向スクロール	縦方向へのスクロールが使用可能になります。
	横方向スクロール	横方向へのスクロールが使用可能になります。
	スクロールエリア	新しいスクロールエリアを設定できます。縦方向または横方向のスクロールが有効なときのみ、操作が可能になります。
	スクロール速度	スクロール速度を設定できます。縦方向または横方向のスクロールが有効なときのみ、操作が可能になります。
	円形スクロール	指で円を描く動作により、連続スクロールを可能にします。縦方向または横方向のスクロールが有効なときのみ、操作が可能になります。
	連続スクロール	ウィンドウを、縦または横にスクロールし続けることができます。縦方向または横方向のスクロールが有効なときのみ、操作が可能になります。
エッジスワイプ		有効にすると、エッジスワイプのジェスチャーが使用可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 左エッジスワイプ ● 右エッジスワイプ ● 上エッジスワイプ
マルチ指	ズーム	有効にすると、ズームイン/ズームアウト機能が使用可能になります。
	ズーム率	ズーム機能を有効にすることで、ズーム率の速さを設定できます。

スクロール		二本指でのスクロール機能が使用可能になります。操作の設定については、以下の項目から選択してください。
	縦方向スクロール	縦方向へのスクロールが使用可能になります。
	横方向スクロール	横方向へのスクロールが使用可能になります。
	スクロール速度	スクロール速度を設定できます。縦方向または横方向のスクロールが有効なときのみ、操作が可能になります。
	慣性スクロール	有効にすると、慣性スクロール機能が使用できます。縦方向または横方向のスクロールが有効なときのみ、操作が可能になります。
	逆方向	標準のマウスホイールの実装とスクロール方向が反対にできます。縦方向または横方向のスクロールが有効なときのみ、操作が可能になります。
回転	有効にすると、時計回り/反時計回りの回転機能が使用可能になります。	
三本指スワイプ	有効にすると、三本指でスワイプするジェスチャーが使用可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 左右にスワイプ：前ページ/次ページへの操作 ● 上下にスワイプ：スライドショーの開始/停止 	
追加	パーム測定	誤って手がパッドに触れたときなどに、ポインタが誤動作しないようにする感度を設定できます。
	感度	設定画面でパッドの感度が設定できます。
	スマートモーション	有効にすると、スマートモーション機能が使用可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 常に：スマートモーションが常に有効になります ● ドラッグ時のみ：スマートモーションがドラッグの動作時のみ有効になります ● モーション速度：スマートモーション速度を設定できます。

それぞれの項目の操作イメージを表示するには、「構成」画面の  をクリックしてください。

それぞれの項目の設定画面を表示するには、「構成」画面の  をクリックしてください。

項目のヘルプを見る場合は、項目を選択し、  をクリックしてください。

工場出荷時の設定に戻す

NXパッドの設定を工場出荷時の状態に戻す場合は、次の手順で行います。

1 「NX パッド」タブの「オプション」ボタンをクリック

NXパッドの「Elan Smart-Pad」画面が表示されます。

2 「すべてデフォルトに設定」ボタンをクリック

3 「OK」ボタンをクリック



チェック

【Fn】 + 【Space】でNXパッドを無効にしていた場合、「オプション」ボタンは操作できません。

NXパッドのオン/オフ

【Fn】 + スペースキーを押すことで、NXパッドのオン/オフを切り替えることができます。

ただし「マウスを接続した場合、NXパッドを無効にする。」にチェックを付けた状態でマウスを接続した場合、【Fn】 + スペースキーを押してもNXパッドは有効になりません。

また、USBマウスを接続しているときに、NXパッドが自動的に無効になるように設定できます。

設定する場合は、次の手順で行ってください。



メモ

工場出荷時の状態では、「マウスを接続した場合、NXパッドを無効にする。」にチェックが付いています。

- 1 「コントロールパネル (P. 11)」を表示する
- 2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 3 「NXパッド」タブをクリック
- 4 「マウスを接続した場合、NXパッドを無効にする。(この機能を有効にしてマウスを接続した場合、Fn+Spaceを押してもNXパッドは有効になりません)」にチェックを付ける
- 5 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

本機でマウスを使用する場合の設定について説明しています。

▶ マウスを使用する.....	91
▶ マウスを接続するための設定方法.....	93
▶ 水平スクロール機能の設定を切り替える.....	94
▶ マウスを接続する前の設定に戻す.....	95

マウスを使用する

[020902-28]

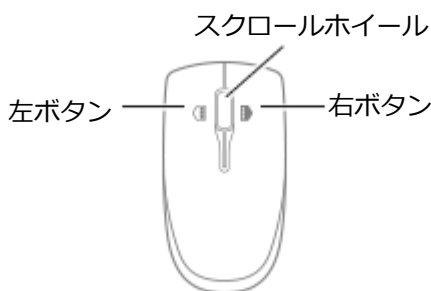
本機では、USB接続のマウスを使用することができます。

添付または別売の当社製USBマウスを使用する場合は、特に設定を行う必要はありません。そのままUSBコネクタに接続してください。

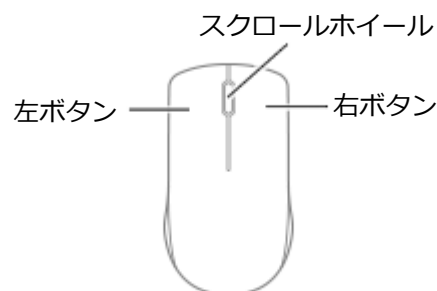
他社製のUSBマウスを使用する場合は、設定が必要になる場合がありますので、「マウスを接続するための設定方法」をご覧ください。

購入時に、マウスを選択した場合に添付されるマウスを例として説明します。

USBレーザーマウス



USB光センサーマウス



チェック

USBレーザーマウスやUSB光センサーマウスは、マウス底面に光源があり、それをセンサーで検知することでマウスの動きを判断しています。次のような表面では正しく動作しない（操作どおりにマウスポインタが動かない）場合があります。

- 反射しやすいもの（鏡、ガラスなど）
- 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの（雑誌や新聞の写真など）
- 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの
- USB光センサーマウスの場合、光沢があるもの（透明、半透明な素材を含む）



参照

- **マウスを接続するための設定方法**
「本機の機能」の「マウス」 - 「マウスを接続するための設定方法 (P. 93)」
- **マウスの使い方**
Windowsのヘルプ

スクロールホイールの使い方



チェック


スクロールホイールの機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。

USBレーザーマウスの場合

- **垂直スクロール機能**

スクロールホイールを奥または手前方向に回転させることで、画面を上下にスクロールさせることができます。

- **水平スクロール機能**

次の2つの動作設定から選択できます。現在の設定は、タスクバーの通知領域の  をクリックすると表示されるアイコンをクリックして確認できます。

動作設定	説明
横スクロール	スクロールホイールを左または右側に傾けると、画面を左右にスクロールさせることができます。
Charm/App	スクロールホイールを左に傾けるとチャームバーを、右に傾けると最近使用したアプリの一覧を表示させることができます。



参照

水平スクロール機能の切り替えについて

「[水平スクロール機能の設定を切り替える \(P. 94\)](#)」

- **オートスクロール機能**

スクロールホイールをクリックしたり、押し続けるとスクロールアイコンが表示されます。

その状態で、三角マークの方向にマウスを動かして、画面を上下、または左右にスクロールさせることができます。スクロールホイールを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

USB光センサーマウスの場合

- **垂直スクロール機能**

スクロールホイールを奥または手前方向に回転させることで、画面を上下にスクロールさせることができます。

- **オートスクロール機能**

スクロールホイールをクリックしたり、押し続けるとスクロールアイコンが表示されます。

その状態で、三角マークの方向にマウスを動かして、画面を上下、または左右にスクロールさせることができます。スクロールホイールを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

マウスを接続するための設定方法

[020903-28]

当社製USBマウス（添付または別売）を使用する

当社製USBマウス（添付または別売）を使用する場合は、特に設定を行う必要はありません。そのままUSBコネクタに接続してください。



チェック

当社製USBマウスとNXパッドを同時に使用できますが、工場出荷時の状態では、USBマウス接続時にNXパッドが無効になるように、NXパッドドライバで設定されています。



メモ

- USBマウスとNXパッドを同時に使用する場合は、「マウスのプロパティ」→「NXパッド」タブで「マウスを接続した場合、NXパッドを無効にする。（この機能を有効にしてマウスを接続した場合、Fn+Spaceを押してもNXパッドは有効になりません）」のチェックを外してください。
- NXパッドを使用しない場合は、BIOSの設定でNXパッドを無効にできます。「[他社製のUSBマウスを使用する \(P. 93\)](#)」を参照してください。

他社製のUSBマウスを使用する

他社製のUSBマウスを使用する場合は、他社製USBマウスに添付のマニュアルをご覧になり、手順に従ってUSBマウスを接続してください。



メモ

NXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニュー→「Device Configuration」の「Internal Mouse」を「Disabled」に設定してください。



参照

NXパッドを無効にする

- 『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Advanced」メニュー

水平スクロール機能の設定を切り替える

[020905-28]

USBレーザーマウスのスクロールホイールを左右に傾けたときの動作設定を選択できます。



チェック

USB光センサーマウスには対応していません。

水平スクロール機能の設定を切り替える

1 タスク バーの通知領域にある  をクリック

2 表示されたアイコン () をクリック

選択できる動作設定が表示されます。

3 機能を選択し、クリック

選択した動作設定に切り替わります。

動作設定の種類

工場出荷時の設定では「Charm/App」が選択された状態になっています。

動作設定	説明
横スクロール	スクロールホイールを左または右側に傾けると、画面を左右にスクロールさせることができます。
Charm/App	スクロールホイールを左に傾けるとチャーム バーを、右に傾けると最近使用したアプリの一覧を表示させることができます。

マウスを接続する前の設定に戻す

[020904-28]

マウスを取り外すとき、「マウスを接続するための設定方法 (P. 93)」で変更する前の設定に戻す (NXパッドの拡張機能を使用する) 場合は、次の操作を行ってください。

当社製USBマウス (添付または別売) を使用している場合

そのままUSBコネクタから取り外してください。



メモ

BIOSの設定でNXパッドを無効にした場合は、「他社製のUSBマウスを使用している場合」と同様に、NXパッドを有効に戻してください。

他社製のUSBマウスを使用している場合

他社製のUSBマウスを使用している場合は、他社製USBマウスに添付のマニュアルをご覧ください。手順に従ってUSBマウスを取り外してください。



メモ

BIOSの設定でNXパッドを無効にした場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューで次の設定を行い、NXパッドを有効に戻してください。

「Device Configuration」の「Internal Mouse」を「Enabled」に設定する



参照

NXパッドを有効にする

- 『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「「Advanced」メニュー」

液晶ディスプレイ

[021100-28]

本機の液晶ディスプレイの表示の調整や表示できる解像度と表示色、表示に関する機能の設定などについて説明しています。

▶ 使用上の注意.	97
▶ 画面表示の調整.	98
▶ 液晶ディスプレイの回転.	99
▶ 画面の回転.	103
▶ 表示できる解像度と表示色.	105
▶ ディスプレイストレッチ機能.	106

使用上の注意

[021101-28]

- 液晶ディスプレイは非常に高精度な技術で作られていますが、色調のズレなど個体差が発生する場合があります。これは液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。
- OpenGLのアプリケーションを使用した場合、アプリケーションによっては、画面が表示されない、または画面の表示が乱れることがあります。
- DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音切れ、およびデスクトップ上のアイコンのちらつきが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。
- DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。
- Windowsの状態によっては、スクリーンセーバー動作時に液晶ディスプレイの電源がオフにならない場合があります。
- 各種ベンチマークが正常に実行できない場合があります。
- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを表示したまま行わないでください。
- 動画を再生するアプリケーションによっては、画質が低下する場合があります。
- 本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがありますが、故障ではありません。

■ 輝度を調整する

キーボードで調整する

キーボードで、一時的に輝度を調整できます。

機能	キー操作	説明
輝度を下げる (▼☀)	【Fn】 + 【F7】	液晶ディスプレイの輝度が下がります。
輝度を上げる (▲☀)	【Fn】 + 【F8】	液晶ディスプレイの輝度が上がります。

液晶ディスプレイの回転

[021106-28]

本機は液晶ディスプレイを360度回転した状態で使用できます。

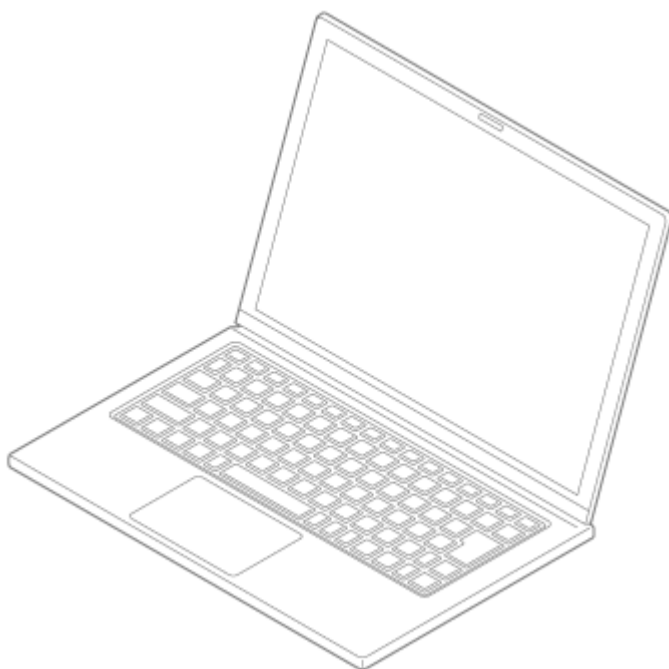


チェック

- タブレットスタイル、フラットスタイルの状態では机などに設置して使用する場合は、そのまま本体を引きずらないでください。パソコンに傷が付いたり、塗装がはがれたりする可能性があります。
- 無理な力で液晶ディスプレイを開閉しないでください。液晶ディスプレイやヒンジ部分が損傷するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイを約340度以上に開くと、キーボードとNXパッドが自動的にロックされ、入力できない状態になります。

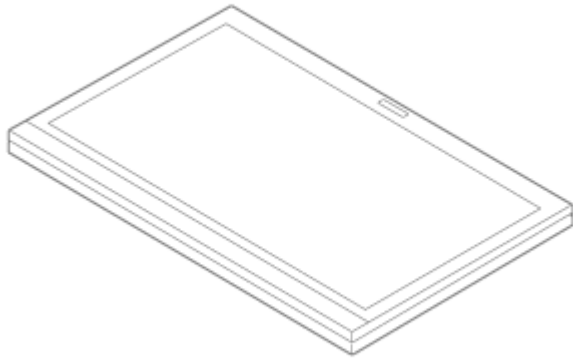
● ノートPCスタイル

文書やメールの作成などキーボードが必要な作業では、ノートPCスタイルが適しています。



● タブレットスタイル

インターネットを見たりゲームをしたりといった液晶ディスプレイを頻繁にタッチする場合は、タブレットスタイルが適しています。

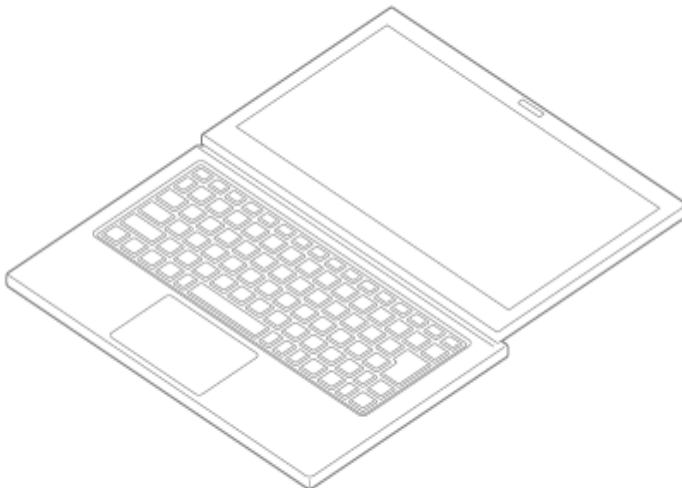


チェック

「タブレットスタイル」のまま持ち運ばないでください。必ず、液晶ディスプレイを閉じた状態である「ノートPCスタイル」にして持ち運んでください。

● フラットスタイル

手元で操作しながら対面の相手に図や表を表示したい場合は、フラットスタイルが適しています。



チェック

対面の相手に画面を見せる場合は、キーボードを使って画面を回転します。【Ctrl】 + 【Alt】 + 【↓】を押すと、画面を180°回転します。



参照

キーボードを使った画面の回転について
「液晶ディスプレイ」の「画面の回転 (P. 103)」

スタイルの変更のしかた

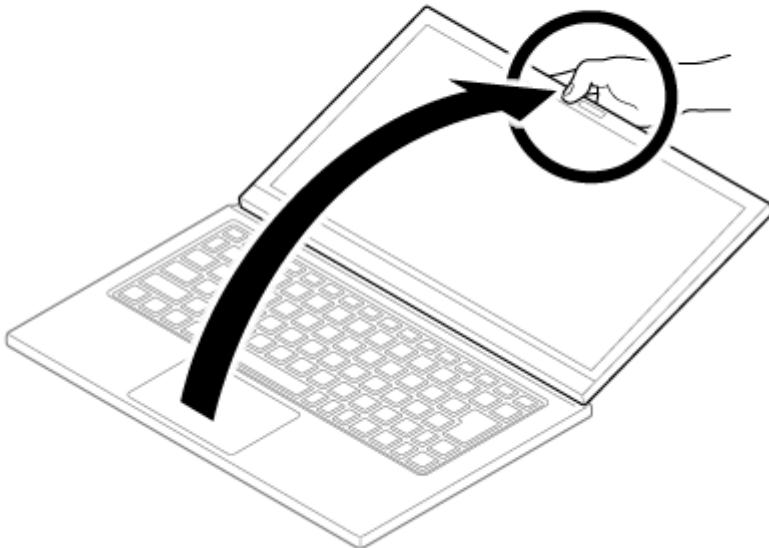
次の手順で、ノートPC スタイルからタブレット スタイルへスタイルを変更します。



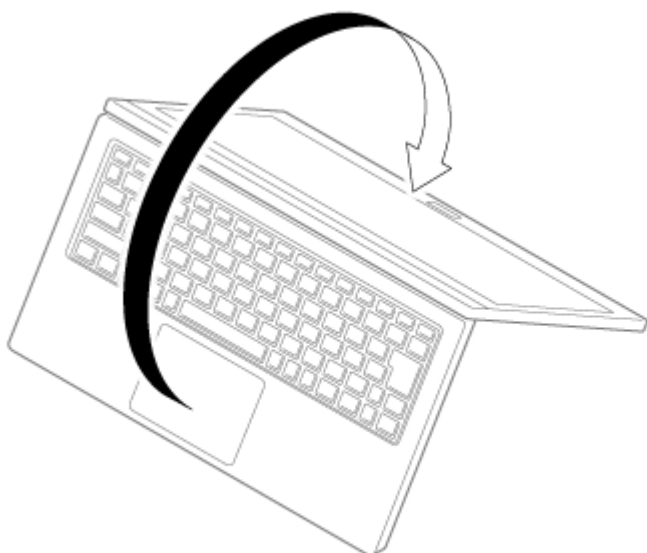
チェック

タブレット スタイルからノートPC スタイルに変更する場合は、逆の手順を行ってください。

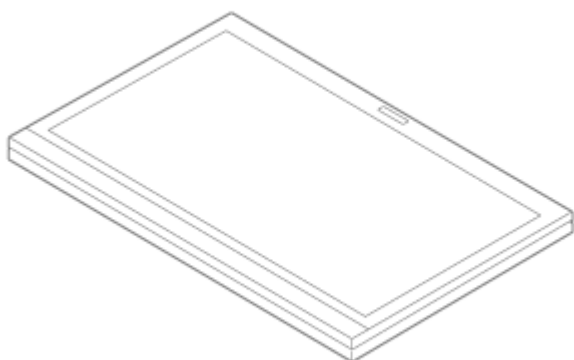
1 下図のように液晶ディスプレイの中央部分を持ち、後方に開く



2 本体底面へ液晶ディスプレイをさらに開く



3 本体底面と合わせる



チェック

液晶ディスプレイを約340度以上に開くと、キーボードとNXパッドが自動的にロックされ、入力できない状態になります。

画面の回転

[021105-28]

タブレット スタイル時は、本機の向きを感知して画面の表示方向を切り替える自動回転機能により、自動で画面が回転します。



参照

スタイルについて

「液晶ディスプレイ」の「[液晶ディスプレイの回転 \(P. 99\)](#)」

キーボードで画面を回転させる

キーボードを使って画面を任意の方向に回転させることができます。

押すキー	画面が回転する方向
【Ctrl】 + 【Alt】 + 【→】	時計回りに90度回転
【Ctrl】 + 【Alt】 + 【↓】	時計回りに180度回転
【Ctrl】 + 【Alt】 + 【←】	時計回りに270度回転
【Ctrl】 + 【Alt】 + 【↑】	時計回りに360度回転



参照

スタイルについて

「液晶ディスプレイ」の「[液晶ディスプレイの回転 \(P. 99\)](#)」



自動回転機能を一時的に停止（ロック）する

タブレット スタイル時、自動回転機能を一時的に停止（ロック）することができます。



チェック


- ノートPC スタイルにすると自動的にロックがかかり、自動回転機能は停止します。
- タブレット スタイルにすると自動的にロックが解除され、自動回転機能が動作します。
- 自動回転機能は、チャーム バーの「ディスプレイ」より確認できます。

チャーム バーのアイコン	状態
 ディスプレイ	自動回転機能：オン。自動回転機能が動作しています。
 ディスプレイ	自動回転機能：オフ。自動回転機能が停止しています。

● 自動回転機能を一時的に停止する

1 チャーム バーを表示し、「設定」をクリック

2  をクリック

3  をクリック

自動画面回転機能が一時的に停止します。

● 自動回転機能の一時停止を解除する

1 チャーム バーを表示し、「設定」をクリック

2  をクリック

3  をクリック

自動画面回転機能が動作します。

表示できる解像度と表示色

[021103-28]



チェック

設定により、次の表に記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ず記載されている解像度で使用してください。

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	本機の液晶ディスプレイのみに表示
1,024×768	1,677万色※1	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能※2)
1,280×768	1,677万色※1	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能※2)
1,280×800	1,677万色※1	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能※2)
1,280×1,024	1,677万色※1	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能※2)
1,440×900	1,677万色※1	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能※2)
1,680×1,050	1,677万色※1	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能※2)
1,920×1,080	1,677万色※1	フルスクリーン表示可能

※1 本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現します。

※2 拡大表示では文字や線などの太さが不均一になることがあります。実サイズ表示では画面中央に実サイズで表示され、まわりは黒く表示されます。



参照

外部ディスプレイ使用時の解像度と表示色、機能、設定について
「外部ディスプレイ (P. 107)」

ディスプレイストレッチ機能

[021104-28]

ディスプレイストレッチ機能とは、液晶ディスプレイの解像度よりもWindowsの解像度設定が低い場合に、液晶ディスプレイに画面イメージを拡大して表示する機能です。

ディスプレイストレッチ機能を使う場合は次の手順で行います。



チェック

ディスプレイストレッチ機能を使用して拡大表示を行っている場合、表示される文字などの線の太さが不均一になることがあります。

- 1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック
- 3 「詳細設定」をクリック
- 4 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」タブをクリックし、「グラフィックス・プロパティ」ボタンをクリック
- 5 「ディスプレイ」をクリック
- 6 左上の「ディスプレイ」をクリックし、表示されたメニューから「一般設定」をクリック
- 7 「ディスプレイの選択」欄で「内蔵ディスプレイ」を選択する
- 8 「スケーリング」欄で「全画面のスケールにする」を選択する
- 9 「適用」ボタンをクリック
設定の保存を確認するメッセージが表示されます。
- 10 「はい」ボタンをクリック
- 11 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」を閉じる
- 12 「OK」ボタンをクリック

設定が有効になり、ディスプレイストレッチ機能が使用できます。

外部ディスプレイ

[021200-28]

外部ディスプレイで表示可能な解像度や表示色、画面の表示先の切り替えなどについて説明しています。

▶ 使用上の注意.	108
▶ 外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.	109
▶ HDMIコネクタ.	112
▶ Intel® WiDi.	115
▶ 外部ディスプレイ接続時の表示機能.	120
▶ 表示先、表示機能の設定.	121
▶ 画面の出力先を切り替える.	124
▶ ディスプレイに合わせた設定.	126

使用上の注意

[021201-28]

- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを表示したまま行わないでください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を行っている場合、オーバーレイを使用して再生する動画は、プライマリ側のディスプレイにのみ表示されます。
- デュアルディスプレイ機能使用時に動画を再生し、表示が乱れた場合、デュアルディスプレイ機能を使用せずに本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみで動画の再生をしてください。
- 高解像度で外部ディスプレイに表示している場合、DVD-Videoの種類によっては、コマ落ち、映像の乱れが発生する場合があります。その場合は、より低い解像度に設定することをおすすめします。
- 外部ディスプレイに表示している状態で、本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがあります。故障ではありません。

HDMIコネクタ使用時の注意

- すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしておりません。そのため、HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。
- HDMIケーブルは、別途市販のものをお買い求めください。
- 本機の電源が入っている状態、スリープ状態、および休止状態のときは、HDMIコネクタへのHDMIケーブルの取り付け、取り外しを行わないでください。
- 著作権保護されたコンテンツなどは出力されない場合があります。
- HDMIディスプレイ接続時、リフレッシュレートが30Hz（インターレース）に設定されていると、本機の操作中にちらつく場合があります。その場合はリフレッシュレートを60Hz（プログレッシブ）に変更してください。
- 使用環境によっては、60Hz（プログレッシブ）に変更するか解像度を低くしないと描画性能が上がらない場合があります。
- HDMIディスプレイのタイプによっては、解像度を変更しないと、60Hz（プログレッシブ）に変更できない場合があります。

HDMIコネクタを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、HDMIコネクタからの出力を制限することができます。



参照

I/O制限について

「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 204)」

Intel® WiDi使用時の注意

Intel® WiDi使用時の注意事項については、「Intel® WiDi (P. 115)」をご覧ください。

外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色

[021202-28]



チェック

- お使いになる外部ディスプレイによっては、次の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。外部ディスプレイをご使用の際は、外部ディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。
- 初回接続時の外部ディスプレイやテレビは、本機の液晶ディスプレイとのクローンモードに設定されます。
- 設定により、マニュアルに記載されていない解像度や周波数を選択できる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度や周波数で使用してください。
- 外部ディスプレイによっては、特定の解像度やリフレッシュレートに設定できないことがあります。

外部ディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

VGA接続の外部ディスプレイ使用時の解像度と表示色



チェック

- VGA接続の外部ディスプレイと本機を接続するには、VGA変換アダプタが必要です。
- 著作権保護に対応したコンテンツは出力することができません。
- すべてのアナログRGBコネクタを持った外部ディスプレイ、テレビでの動作確認はしていません。

解像度 (ドット)	表示色	外部ディスプレイのみに表示※1	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイ での同時表示※1 ※2
1,024×768	1,677万色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表 示との切り替え可能※4)
1,280×1,024	1,677万色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表 示との切り替え可能※4)
1,920×1,080	1,677万色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)	フルスクリーン表示可能

※1 外部ディスプレイによっては、特定の解像度やリフレッシュレートに設定できないことがあります。

※2 外部ディスプレイ未接続時は、本機の液晶ディスプレイのみに表示されます。

※4 拡大表示では文字や線などの太さが不均一になることがあります。実サイズ表示では画面中央に実サイズで表示され、まわりは黒く表示されます。



メモ

高解像度 (1,920×1,200<WUXGA>) の対応状況については、<http://jpn.nec.com/bpc/versapro/>でお使いの機種をクリックし、スペック詳細をご覧ください。また、<http://121ware.com>の「サービス&サポート」→「商品情報検索」からお使いの機種を検索して、仕様をご確認ください。

HDMIコネクタ使用時の解像度と表示色

解像度(ドット)	表示色	映像信号形式	HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビのみに表示※3 ※4 ※5 ※6	本機の液晶ディスプレイとHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの同時表示※1 ※3
1,024×768	1,677万色	1080i 1080p	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替えが可能※7)	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替えが可能※7)
1,280×1,024	1,677万色		拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替えが可能※7)	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替えが可能※7)
1,920×1,080	1,677万色		フルスクリーン表示可能	フルスクリーン表示可能
3,840×2,160 ※8	1,677万色	3840× 2160p	フルスクリーン表示可能	表示不可※2

- ※1 別売の外部ディスプレイやテレビ未接続時は、本機の液晶ディスプレイのみに表示されます。
- ※2 デュアルディスプレイ機能時は、別売の外部ディスプレイやテレビで表示が可能です。
- ※3 すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしておりません。
したがって、HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。
- ※4 別売の外部ディスプレイやテレビによっては、選択できない解像度もあります。
- ※5 メニューには、59Hzと60Hzの2つのリフレッシュレートが表示されますが、どちらを選択しても実際のリフレッシュレートは同じです。
また、ご使用のシステム環境によっては、59Hzまたは60Hzに固定される場合があります。
- ※6 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ではリフレッシュレートの表記に●●p ヘルツ/●●i ヘルツと表記されます。
●●p ヘルツ時はプログレッシブ表示、●●i ヘルツ時はインターレース表示となります。
- ※7 実サイズ表示では画面中央に実サイズで表示され、まわりは黒く表示されます。
- ※8 リフレッシュレートは、24Hzと30Hzに対応しています。

HDMIコネクタ

[021204-28]

- ▶ HDMIコネクタへの接続. 112
- ▶ HDMIコネクタ使用時の音声出力について. 112
- ▶ VGA変換アダプタを使用した接続. 113

HDMIコネクタへの接続

1 本機と接続する外部ディスプレイやテレビの電源を切る

2 HDMIケーブルで、HDMIコネクタとHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビなどを接続する



参照

HDMIコネクタの位置について
「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 29)」

3 外部ディスプレイやテレビと、本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイやテレビのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。

HDMIコネクタ使用時の音声出力について

HDMIコネクタに映像を出力すると、接続したHDMI機器が音声出力に対応している場合には音声を出力することができます。

自動で切り替わる場合もありますが、自動的に音声切り替わらない場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 サウンドデバイスを使用しているすべてのソフトを終了する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「ハードウェアとサウンド」をクリック

4 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。

5 「再生」タブをクリック

6 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」を選択して、「既定値に設定」ボタンをクリック

7 「OK」ボタンをクリック

音声はHDMI経由で出力されるようになります。



チェック

HDMIコネクタに映像を出力しているときに音声が出られなくなった場合は、本機を再起動すると改善されることがあります。

VGA変換アダプタを使用した接続

VGA変換アダプタを使用することで、本機とアナログインターフェースの外部ディスプレイや 프로젝タを接続することができます。



チェック

- VGA変換アダプタは、ご購入時に選択した場合に添付されます。また、別途購入することもできます。
- 著作権保護に対応したコンテンツは出力することができません。
- すべてのアナログRGBコネクタを持った外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしていません。そのため、接続する機器やケーブルによっては正しく表示されない、選択できない解像度もあります。

1 本機と接続する外部ディスプレイの電源を切る

2 本機のHDMIコネクタに、VGA変換アダプタを接続する



チェック

VGA変換アダプタは、HDMIコネクタにしっかりと取り付けてください。



参照

HDMIコネクタの位置について

「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 29)」

3 ディスプレイ用ケーブルをVGA変換アダプタに接続する



チェック

ディスプレイ用ケーブルは、VGA変換アダプタにしっかりと取り付けてください。

4 外部ディスプレイと本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。



チェック

プロジェクタの接続のしかたは、プロジェクタのマニュアルをご覧ください。また、使用する場合はプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度（ドット）、垂直走査周波数（Hz）などを確認してください。

Intel® WiDi (インテル® ワイヤレス・ディスプレイ) は、Intel® WiDi用アダプターを取り付けた外部ディスプレイやテレビに、無線LAN機能を利用して接続し、本機の画面を表示する機能です。



チェック

- Intel® WiDiは、工場出荷状態でインストールされています。
- 外部ディスプレイやテレビに、別売のIntel® WiDi用アダプターを取り付ける必要があります。

必要な機器について

Intel® WiDiを使用するには、別売のIntel® WiDi用アダプターが必要です。

また、表示先の外部ディスプレイやテレビには、HDMI入力端子またはコンポジット映像・音声入力端子が搭載され、Intel® WiDi用アダプターが取り付け可能であることが必要です。



チェック

- お使いの外部ディスプレイやテレビで、Intel® WiDi用アダプターが使用可能かどうかについては、ご購入前にメーカーなどにご確認ください。
- 外部ディスプレイやテレビとIntel® WiDi用アダプターは、HDMIで接続することをおすすめします。コンポジット映像・音声入力端子での接続の場合、表示情報が読み取れないことがあります。詳しくはIntel® WiDi用アダプターの仕様をご確認ください。
- お使いの外部ディスプレイやテレビの仕様によっては、画面がモニタのサイズより若干小さく表示されたり、Intel® WiDiの接続時に、外部ディスプレイやテレビの電源が自動でオンになる場合があります。
- 本機を無線LANアクセスポイントに接続していない場合、IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) の1~11chでのみIntel® WiDi用アダプターと接続します。
- 本機を無線LANアクセスポイントに接続している場合、Intel® WiDi用アダプターとの接続は、無線LANアクセスポイントと接続している通信規格のチャンネルでのみ使用できます。通信規格と使用できるチャンネルは次の通りです。
 - IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) : 1~13ch
 - IEEE802.11a (5GHz)、またはIEEE802.11n (5GHz) : W52 (36、40、44、48ch) のみIEEE802.11a (5GHz)、またはIEEE802.11n (5GHz) で無線LANアクセスポイントに接続している場合、IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) の規格にのみ対応したIntel® WiDi用アダプターとは接続できません。
- 接続するIntel® WiDi用アダプターは、Windows 8.1に対応している必要があります。アダプターのメーカーにご確認ください。

使用上の注意

- Intel® WiDiは、無線LAN機能を利用しています。また、高解像度の画面を転送するためには、高速で安定した無線LANの通信環境が必要です。ご使用前に「無線LAN機能」をご覧ください。無線LAN機能使用時の注意事項や通信環境についてご確認ください。



参照

無線LAN機能について

「無線LAN機能 (P. 161)」

- 通信速度や通信処理の負荷によっては、外部ディスプレイやテレビの映像や音声が乱れる場合があります。
- 動画を表示する場合、カクツキやコマ落ちなどが目立つ場合があります。特にHD画質（1280×720p/毎秒30フレーム以上）の動画の場合、画質の低下が見られます。
- 外部ディスプレイやテレビに表示している映像と音声は、本機の映像や音声から約0.3秒の遅延があります。そのため、マウスでの操作や、キーボードでの操作、文字入力が行いにくい場合があります。
- Intel® WiDiはHDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）規格に対応しています。
- コンテンツが採用している著作権保護方式によっては、再生できない場合があります。
- Intel® WiDi利用時に「表示画面を複製する」を選択した場合、選択可能な解像度が制限されます。
- Intel® WiDiで外部ディスプレイやテレビに接続中にサウンドの設定を変更すると、接続が切断される場合があります。
- Intel® WiDiで外部ディスプレイやテレビに接続中、画面の表示先を本機の液晶ディスプレイのみに切り替えた場合、WiDiが切断されます。
- Intel® WiDi接続中に手動でスリープ状態、ハイブリッドスリープ状態、休止状態などに移行する場合、またはWindowsのユーザーアカウントを切り替えたい場合は、WiDiの切断手順にしたがってWiDiを切断してください。

外部ディスプレイやテレビとの接続



チェック

WiDi接続設定を行う際は初回設定時のみ、このパソコンと接続しているアクセスポイントとの接続を一時的に切断してください。

Intel® WiDiで外部ディスプレイやテレビに接続するには、次の手順で行います。

1 Intel® WiDi用アダプターを外部ディスプレイやテレビに取り付ける

2 Intel® WiDiの待ち受け画面が表示されるように準備する



参照

Intel® WiDi用アダプターのマニュアル

3 チャームバーを表示し「デバイス」をクリック

4 「表示」をクリック

5 「ワイヤレス ディスプレイの追加」をクリック

6 接続するデバイスが検出されたら、デバイス名をクリック

7 WPS PIN入力画面が表示されたら、テレビまたは外部ディスプレイに表示されている8桁のセキュリティコードを入力し、「次へ」をクリック



チェック

8桁のセキュリティコードの入力は、【半角/全角/漢字】で半角英数文字が入力できる状態にしておこなってください。

以上で設定は完了です。



チェック

上記の手順は初回接続の手順になります。

2回目以降に接続する場合は、手順4の後に接続するデバイスが表示されますので、そのデバイス名をクリックすれば接続が可能になります。



参照

「Intel® WiDi」について

「Intel® WiDi」のヘルプ、およびヘルプ中の「トラブルシューティング」および「よくあるお問い合わせ (FAQ)」

外部ディスプレイやテレビの解像度の変更

初回接続時の外部ディスプレイやテレビの解像度は、本機の液晶ディスプレイと同じ解像度に設定されます。外部ディスプレイやテレビの解像度を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック

「ディスプレイ表示の変更」画面が表示されます。

3 「複数のディスプレイ」欄で表示したい設定を選択する

「表示画面を複製する」に設定した場合、選択可能な解像度が制限されます。

4 「適用」ボタンをクリック

確認のメッセージが表示されます。

5 「変更を維持する」 ボタンをクリック

設定が変更されます。

「元に戻す」 ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

6 「ディスプレイ」 欄で、接続した外部ディスプレイやテレビを選択する

7 「解像度」 欄で、外部ディスプレイやテレビの解像度を設定する

「推奨」と表示されている解像度に設定してご利用ください。

8 「OK」 ボタンをクリック

確認のメッセージが表示されます。

9 「変更を維持する」 ボタンをクリック

設定が変更されます。

「元に戻す」 ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

以上で設定は完了です。

画面サイズの調整

WiDi接続後、外部ディスプレイやテレビのサイズと画面のサイズが合わず、画面の周囲に黒い枠が表示されたり、画面が収まりきらず周囲が切れて表示される場合は、次の手順で画面サイズの調整を行います。

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「Intel(R) WiDi」をクリック

2 「画像サイズ」 をクリック

3 「+」「-」 ボタンをクリックし、画面のサイズを調節する

4 「終了」 ボタンをクリック

以上で調整は完了です。


外部ディスプレイやテレビの切断

外部ディスプレイやテレビとの接続を切断するには、次の手順で行います。

1 「外部ディスプレイやテレビとの接続」の手順4まで同じ操作を行い、表示されたメニューの「切断」をクリック



チェック

【】 + 【P】 を押すことでも、同じ画面を表示することができます。

外部ディスプレイ接続時の表示機能

[021205-28]

外部ディスプレイを接続して使用する場合、本機の液晶ディスプレイ、または接続した外部ディスプレイのみに表示する他、次の表示機能が使用できます。

デュアルディスプレイ

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使用して、ひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるため、表示できる範囲が広がります。

クローンモード

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示を行います。表示される内容は同じものですが、選択した解像度によっては本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが異なる表示状態になる場合があります。



チェック

接続している外部ディスプレイやプロジェクタによっては、これらの機能の選択時に、画面の解像度が変更される場合があります。その場合は、解像度を設定しなおしてください。



参照

表示先や表示機能の設定について
「表示先、表示機能の設定 (P. 121)」

表示先、表示機能の設定

[021206-28]

外部ディスプレイなどを接続した場合、次の方法で表示先、表示機能の設定ができます。



チェック

動画再生のソフトウェアを表示中は、設定の変更を行わないでください。設定の変更を行った場合は、動画再生のソフトウェアを再起動してください。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」で設定する



チェック

- DVDの再生中に設定を変更する場合は、DVDの再生を停止し、DVD再生のソフトウェアを終了させてから行ってください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示している場合、DVDの種類によっては、映像の乱れが発生する場合があります。本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示させる設定にすることをおすすめします。
- 「拡張デスクトップ」から「クローン・ディスプレイ」へ、または「クローン・ディスプレイ」から「拡張デスクトップ」へ、設定を直接変更できない場合があります。その場合は、一度「シングル・ディスプレイ」に変更してから、「拡張デスクトップ」または「クローン・ディスプレイ」への変更を行ってください。
- デュアルディスプレイ機能を使用中は、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの交換はできません。一度、本機の液晶ディスプレイのみの表示などに設定を変更してから、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイを設定しなおしてください。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック

3 「詳細設定」をクリック

4 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」タブをクリックし、「グラフィックス・プロパティ」ボタンをクリック

5 「ディスプレイ」をクリック

6 左上の「ディスプレイ」をクリックし、表示されたメニューから「マルチ・ディスプレイ」をクリック

7 「ディスプレイ・モードの選択」欄で表示したい設定を選択する

選択できる表示先、表示機能の設定は次の通りです。

項目	設定される表示先、表示機能
シングル・ディスプレイ	「アクティブ・ディスプレイの選択」で選択した1つのディスプレイのみに表示
クローン・ディスプレイ	クローンモード
拡張デスクトップ	デュアルディスプレイ

8 「アクティブ・ディスプレイの選択」欄で、使用するディスプレイを選択する

一覧には「内蔵ディスプレイ」「PCモニター」などが表示されます。



メモ

- 「シングル・ディスプレイ」を選択した場合、「アクティブ・ディスプレイの選択」欄には、1つのみディスプレイを設定できる欄が表示されます。
- 「クローン・ディスプレイ」「拡張デスクトップ」を選択した場合は、「アクティブ・ディスプレイの選択」欄に、複数のディスプレイを設定できる欄が表示されます。
- 「拡張デスクトップ」を選択した場合は、「ディスプレイの配置」でディスプレイアイコンをドラッグして、位置を調整することが可能です。

9 「適用」ボタンをクリック

設定の保存を確認するメッセージが表示されます。

10 「はい」ボタンをクリック

11 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」を閉じる

12 「OK」ボタンをクリック

以上で表示先、表示機能の設定は完了です。

キーボードで設定を切り替える

本機では、キーボードで表示先や表示機能の設定を切り替えることができます。設定を切り替えるには、次の方法があります。

+ **[P]** を押す

+ **[P]** を押すと、選択できる表示先、表示機能が画面上に表示されます。 + **[P]** を押すごとに、表示先、表示機能が切り替わります。選択できる表示先、表示機能は次の通りです。

項目	設定される表示先、表示機能
PC 画面のみ	本機の液晶ディスプレイ
複製	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイでのクローンモード
拡張	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイでのデュアルディスプレイ
セカンド スクリーンのみ	外部ディスプレイ

ホットキー機能を使う

ホットキー機能を使用して、表示先や表示機能の設定の切り替えが行えます。



参照

ホットキー機能を使った画面出力先の切り替えについて
[「画面の出力先を切り替える \(P. 124\)」](#)

画面の出力先を切り替える

[021207-28]

本機は、キーボードから画面の出力先の切り替えを行うことができます。

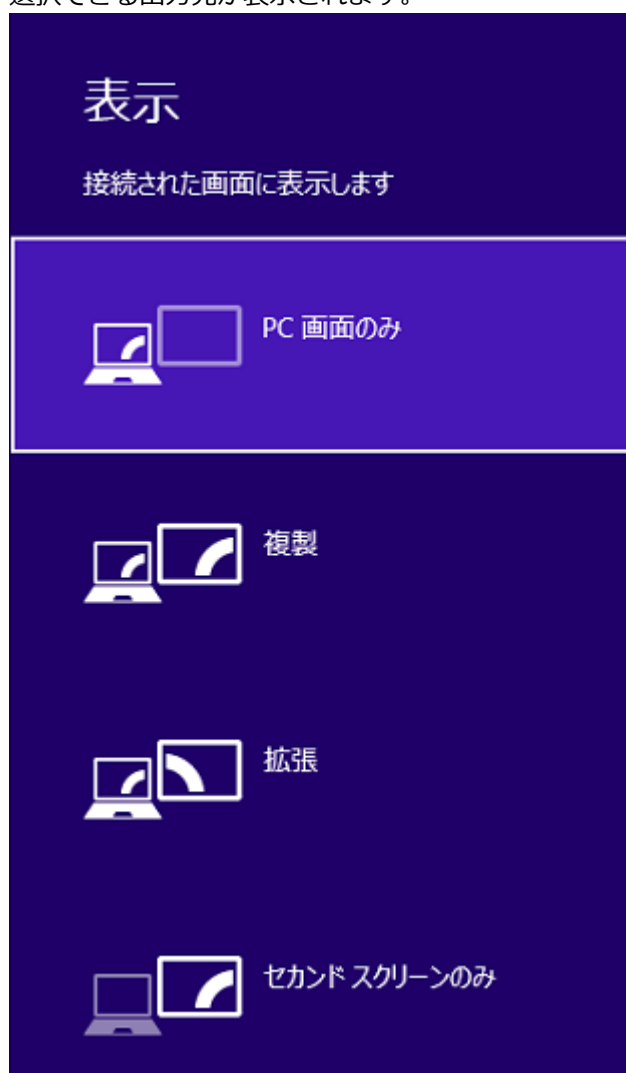


チェック

外部ディスプレイを接続していないときは、この操作を行わないでください。

1 【Fn】 + 【F3】 を押す

選択できる出力先が表示されます。



出力先	説明
PC 画面のみ	本機の液晶ディスプレイ
複製	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイでのクローンモード
拡張	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイでのデュアルディスプレイ
セカンド スクリーンのみ	外部ディスプレイ

2 【↑】【↓】で出力先を選択し、【Enter】を押す

画面の出力先が切り替わります。

ディスプレイに合わせた設定

[021208-28]

外部ディスプレイ使用時に、表示が適切でない場合やプラグ&プレイに対応していないディスプレイを使用しているときは、次の操作を行ってください。



チェック

プラグ&プレイに対応したディスプレイを使用しても、ディスプレイの情報が反映されない場合があります。その場合も、次の操作を行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されている場合

ディスプレイのマニュアルをご覧ください。ドライバのインストールを行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されていない場合

次の手順で設定を行ってください。

- 1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック
- 3 外部ディスプレイのモニタアイコンをクリックし、「詳細設定」をクリック
- 4 「モニター」タブをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック
- 5 「ドライバー」タブをクリックし、「ドライバーの更新」ボタンをクリック
「ドライバー ソフトウェアの更新」が表示されます。
- 6 「コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します」をクリック
- 7 「コンピューター上のデバイス ドライバーの一覧から選択します」をクリック
- 8 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外す
- 9 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニターの種類)」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

10 「閉じる」 ボタンをクリック

11 「閉じる」 ボタンをクリック

12 「OK」 ボタンをクリック

13 「OK」 ボタンをクリック

以上でディスプレイの設定は完了です。

本機のWebカメラやWebカメラアプリケーション「YouCam 5 BE」について説明しています。

▶ Webカメラについて.....	129
-------------------	-----

Webカメラについて

[023602-28]

- ▶ 「YouCam 5 BE」 ができること..... 129
- ▶ 「YouCam 5 BE」 のインストール..... 129
- ▶ 「YouCam 5 BE」 のアンインストール..... 130

「YouCam 5 BE」 ができること

本機のWebカメラでは、動画・静止画の撮影や、本機に添付されているWebカメラアプリケーション「YouCam 5 BE」と組み合わせて以下のような機能を使用することができます。

- カメラに顔が写らなくなったときに、自動で画面オフ、休止状態、スリープ状態へ移行する (Face-out)
- コンピュータを監視カメラとして使う
- プレゼンテーションビデオを作成する
- Webカメラ映像にフリーハンドで描画を追加し、インスタントメッセージャーを利用して、テレビ電話で共有する



参照

Webカメラの位置について

「各部の名称」 - 「各部の名称と説明 (P. 29)」

「YouCam 5 BE」 のインストール

「YouCam 5 BE」 を使用するには、インストールが必要です。
次の手順でインストールしてください。



チェック

YouCam 5 BEをインストールすると、YouCamのミラー機能が同時にインストールされます。
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたときは、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 10)」

1

Windowsを起動する

2

光学ドライブに「CyberLink YouCam 5 BE ディスク」をセットする

3

アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

4

「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥YC¥Setup.exe

以降は画面の指示に従ってください。

5 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上で、「YouCam 5 BE」のインストールは完了です。

「YouCam 5 BE」のアンインストール

「YouCam 5 BE」のアンインストールは次の手順で行います。



チェック

YouCam 5 BEをアンインストールすると、YouCamのミラー機能が同時にアンインストールされます。手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 10)

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

3 「CyberLink YouCam 5」を選択し、「アンインストール」をクリック

アンインストールの確認ダイアログが表示されます。

4 「これにより、CyberLink YouCam 5 はコンピューターから削除されます。続行しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で、「YouCam 5 BE」のアンインストールは完了です。

使用上の注意

本機の画面回転機能で画面の表示方向を切り替えた場合、ご利用になるWebカメラ用ソフトウェアによっては、表示されるWebカメラの映像が正常な方向に回転しない場合があります。

そのような場合には、本体前面のWindowsアイコンが画面の下側に見える状態に戻してご使用ください。

本機のSSDの使用上の注意について説明しています。

▶ 使用上の注意.....	132
---------------	-----

使用上の注意

[021401-28]

SSDは非常に精密に作られています。次の点に注意して使用してください。

- SSDのデータを破損させる外的な要因には次のようなものがあります。
 - 高熱
 - 落雷
- SSDが故障すると、記録されているデータが使用できなくなる場合があります。特に、お客様が作成したデータは再セットアップしても元には戻りません。定期的にバックアップをとることをおすすめします。
- SSDの領域の作成や削除、フォーマットは「コンピューターの管理」の「ディスクの管理」から行います。
- 本機のSSDには、「ディスクの管理」でドライブ文字が割り当てられていない領域が表示されます。この領域には、システム復旧時に必要なデータなどが格納されています。この領域にあるデータは削除しないでください。



チェック


SSD内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。SSDのメンテナンスについては、『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

本機の光学ドライブの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

▶ 使用上の注意.	134
▶ 外付け光学ドライブの取り付け.	135
▶ 各部の名称と役割.	136
▶ 使用できるディスク.	137
▶ 読み込みと再生.	138
▶ 書き込みとフォーマット.	140
▶ 非常時のディスクの取り出し方.	141

使用上の注意

[021601-28]

- 光学ドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
 - アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。データの破損や本機の故障の原因になります。
 - イジェクトボタンを押してからディスクトレイが排出されるまで数秒かかることがあります。
 - ディスクの信号面（文字などが印刷されていない面）に傷を付けないように注意してください。
 - 本機で、次のような形式や規格、異なった形やサイズのディスクは使用できません。無理に使用した場合、再生や作成ができないだけでなく、破損の原因になる場合があります。
 - AVCHD形式またはAVCREC形式のDVD
 - 名刺型、星型などの円形ではない、異形ディスク
 - 厚さが1.2mmを大きく越える、または大きく満たないディスク
 - 規格外に容量の大きな書き込みディスク
- また、特殊な形状のディスクや、ラベルがはってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、ディスク使用時に異音や振動が発生する場合があります。このようなディスクは故障の原因になるため、使用しないでください。
- 光学ドライブにディスクをセットすると、「自動再生」画面が表示される場合があります。その場合は、実行したい操作をクリックしてください。実行したい操作がない場合は、ウィンドウの右上の  をクリックしてください。
 - ディスクに飲み物などをこぼした場合、そのディスクは使用しないでください。

光学ドライブを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、光学ドライブの有効/無効を設定して、使用を制限することができます。

また、添付のDeviceLockで、光学ドライブに対し、読み込みや書き込みを制御することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 204)」
- **DeviceLockについて**
「セキュリティ機能」の「DeviceLock Lite (P. 212)」

外付け光学ドライブの取り付け

[021608-28]

接続のしかた

外付け光学ドライブを選択した場合に添付される光学ドライブをお使いになるには、次の手順で本機に接続してください。



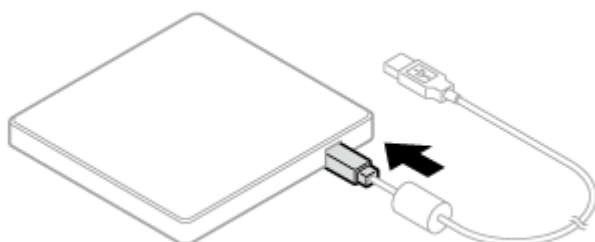
メモ

添付される光学ドライブは次の通りです。

- DVD-ROMドライブ (PC-VP-BU50) (DVD-ROM (外付け、USB接続) 選択時)
- DVDスーパーマルチドライブ (PC-VP-BU52) (DVDスーパーマルチドライブ (外付け、USB接続) 選択時)

1 光学ドライブ背面に、光学ドライブ用ケーブルのBマークのある方のプラグを接続する

プラグの向きに注意して、差し込んでください。



2 光学ドライブ用ケーブルを、本機のUSBコネクタに接続する

プラグの向きに注意して差し込んでください。



参照

USBコネクタ使用時の注意

「USBコネクタ (P. 184)」

各部の名称と役割

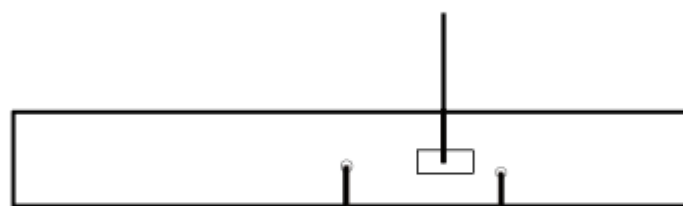
[021602-28]



チェック

アクセスランプ点灯中は本機の電源スイッチやイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因になります。

イジェクトボタン
セットしたディスクを取り出すためのボタンです。



アクセスランプ
ディスクアクセス中は点灯します。

非常時ディスク取り出し穴
非常時に、ディスクトレイを手動で引き出すために使用します。



メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによって図と多少異なることがあります。

また、モデルによっては、アクセスランプがないものもあります。

使用できるディスク

[021603-28]

お使いのモデルの光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

■ ディスク利用時の注意

- 記録用のDVDには、録画用（for Video）とデータ用（for Data）とがありますので、ご購入の際にはご注意ください。
- DVD-RAMには、カートリッジなしのディスクと、TYPE1（ディスク取り出し不可）、TYPE2（ディスク取り出し可能）、TYPE4（ディスク取り出し可能）の4種類があります。本機の光学ドライブでは、カートリッジなし、またはカートリッジからディスクを取り出せるタイプ（TYPE2、TYPE4）のみご利用になることができます。ご購入の際には、ご注意ください。
- 片面2.6GBのDVD-RAMおよび両面5.2GBのDVD-RAMは使用できません。
- 両面9.4GBのDVD-RAMは面ごとに4.7GBの記録／再生が可能です。同時に両面への記録／再生はできません。ディスクを取り出して、裏返して使用してください。

読み込みと再生

[021604-28]

本機の光学ドライブで、読み込みや再生ができるディスクについては、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

また、本機でDVDを再生するには、添付の「CyberLink PowerDVD」を使用してください。



チェック

- CyberLink PowerDVDは、工場出荷時にはインストールされていません。
- CyberLink PowerDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioは再生できません。




参照

CyberLink PowerDVDについて

「便利な機能とアプリケーション」の「CyberLink PowerDVD (P. 303)」

ディスク再生時の注意

本機でDVD、CDの読み込みや再生を行うときは、次のことに注意してください。

- 本機で記録したDVD、CDを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。
- 他の機器で記録したDVD、CDは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により、本機では再生および再生性能を保証できない場合があります。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や取り込みができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示す  (CD規格マーク) マークの入ったディスクを使用してください。
- CD (Compact Disc) 規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、リージョンコード (国別地域番号) が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- 本機で再生できるCDまたはDVDのディスクサイズは8センチと12センチです。
- DVDや動画を再生する際は、再生に使用するアプリケーション以外のソフトウェアを終了することをおすすめします。本機での動画再生には高い処理能力が必要とされ、お使いのモデルや設定によっては、複数のアプリケーションを実行している状態で動画再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。
- 「ECOモード機能」で、省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVDや動画の再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「標準」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「省電力機能」の「ECOモード機能 (P. 51)」

- 本機でDVDを再生する場合、次のことに注意してください。
 - デュアルディスプレイ機能使用時に動画を再生し、表示が乱れた場合、デュアルディスプレイ機能を使用せずに本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみで動画の再生をしてください。
 - DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音飛びが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。DVDの再生中は、再生画面の上に他のウィンドウを重ねないでください。
 - DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。

書き込みとフォーマット

[021605-28]

DVDスーパーマルチドライブモデルで、DVD、CDへの書き込み、書き換え、およびフォーマットをするには、「CyberLink Power2Go」を使用してください。



参照

CyberLink Power2Goについて

「便利な機能とアプリケーション」の「CyberLink Power2Go (P. 300)」



メモ

DVD、CDへの書き込みはWindowsの機能でも行うことができます。選択可能な各フォーマットの説明についてはWindowsのヘルプをご覧ください。

ご注意

- 書き込みに失敗したDVD、CDは読み込みできなくなります。書き込みに失敗したディスク、およびディスクに記録されていたデータの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうかを確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他の光学ドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。

非常時のディスクの取り出し方

[021606-28]

停電やソフトウェアの異常動作などにより、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

- 強制的にディスクを取り出す場合は、本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 光学ドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこないといった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使用して取り出さないようにしてください。

SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロット

[022700-28]

SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロットの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

- ▶ 使用上の注意..... 143
- ▶ セットのしかた／取り出し方..... 145

使用上の注意

[022701-28]

- Windows上でSDメモリーカードのフォーマットやディスクデフラグを行わないでください。各メモリーカード対応機器との互換性や性能などで問題が生じる場合があります。
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所ではSDメモリーカードを使わないでください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、それぞれのSDメモリーカード製品に添付のマニュアルや取扱説明などの指示に従ってください。
- 本機やSDメモリーカードの不具合により、音楽データの録音ができなかったり、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の補償はいたしかねます。
- お客様が画像、音楽、データなどを記録（録画・録音などを含む）したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 大切なファイルはコピーして、バックアップを取ることをおすすめします。
- 本機のSSD以外からSDメモリーカードにデータを保存する場合は、一度、本機のSSDにデータを保存し、そこからSDメモリーカードにデータを保存してください。
- データの保存中にスリープ/休止状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。
- 本機がスリープ/休止状態にあるときは、メモリーカードを抜き挿ししないでください。また、スリープ/休止状態から復帰する際は、Windowsのサインイン画面またはデスクトップが表示されるまでメモリーカードを抜き挿ししないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になる場合があります。
- すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- さまざまな規格のメディアがありますので、本機のSD（SDHC/SDXC）メモリーカードスロットで使えるメディアかどうかや、メディアの使用方法をお確かめになり、お使いください。
- メモリーカードの端子面が汚れていると、メモリーカードを認識しなかったり、データの読み込み、書き出しができないことがあります。端子面が汚れた場合は、メモリーカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードにデータを保存中、または読み込み中に周辺機器を接続しないでください。
- DVD、CDを再生中にメモリーカードへの読み書きを行ったり、メモリーカード内の音声や動画ファイルを再生中にファイルのコピーを行うと、音声や動画がとぎれるなどの影響が出る場合があります。

SDメモリーカードを使用するときの注意

- SDメモリーカードは、標準フォーマットとして、それぞれ「SDメモリーカード」規格、「SDHCメモリーカード」規格、「SDXCメモリーカード」規格に準拠したフォーマットで出荷されており、すぐにお使いになれます。フォーマットが必要な場合は、デジタルカメラなどのSDメモリーカード対応機器か、SD規格対応フォーマット機能を搭載したアプリなどでフォーマットを行ってください。デジタルカメラなどでのフォーマット方法については、ご使用の機器などに添付のマニュアルをご覧ください。
- 「miniSDカード」「miniSDHCカード」「microSDカード」「microSDHCカード」を使用するときは、必ず使用するメモリーカードに対応した、SD/SDHC変換アダプタに装着してからセットしてください。詳しくはお使いのメモリーカードの取扱説明書をご覧ください。
- 「microSDカード」「microSDHCカード」をご使用の際、miniSD/miniSDHC変換アダプタに装着し、さらにSD/SDHC変換アダプタに装着しての動作は保証しておりません。
- 本機では、2Gバイトまでの「SDメモリーカード」、32Gバイトまでの「SDHCメモリーカード」および128Gバイトまでの「SDXCメモリーカード」で動作確認を行っています。2Gバイトを超える容量の「SDメモリーカード」、32G

バイトを超える容量の「SDHCメモリーカード」および128Gバイトを超える容量の「SDXCメモリーカード」での動作は保証しておりません。

- 本機では、「マルチメディアカード (MMC)」には対応していません。
- 本機は、SDIOには対応していません。
- 裏面に通電性 (電気を通す性質) がある金属が使用されているSDメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。本機内部のコネクタと接触し本機やメモリーカードの故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。
- SDカード変換アダプタを利用した場合、高速転送規格「UHS- I」および「UHS- II」はサポートしておりません。

SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロットを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロットの有効/無効を設定して、使用を制限することができます。

また、添付のDeviceLockで、SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロットへの読み込みや書き込みを制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 204)」
- **DeviceLockについて**
「セキュリティ機能」の「DeviceLock Lite (P. 212)」

セットのしかた

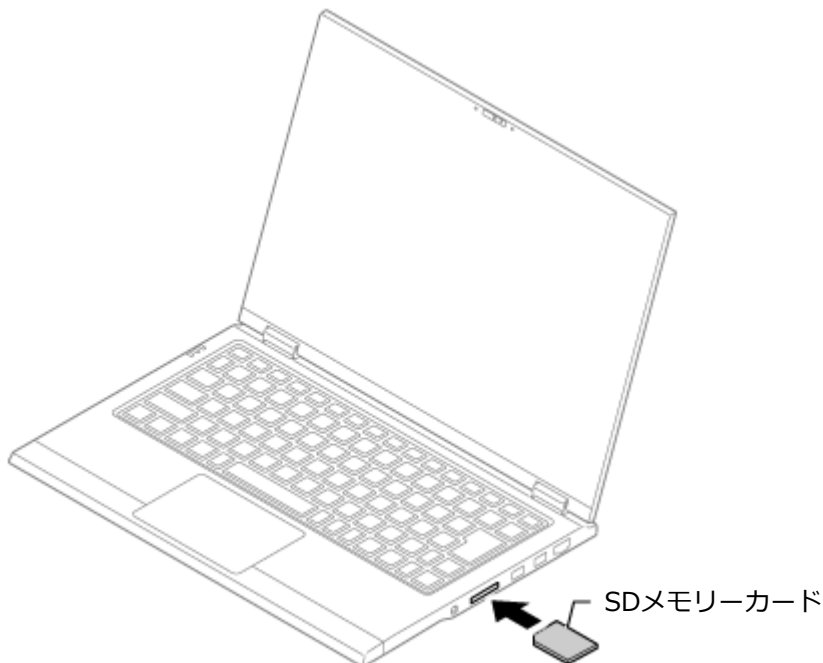


チェック

- ダミーカードがセットされている場合は、セットをする前に「取り出し方」をご覧ください、ダミーカードを取り出してください。
- 「miniSDカード」、「miniSDHCカード」、「microSDカード」、および「microSDHCカード」も使用できます。ただしSD/SDHC変換アダプタが必要になります。詳しくは、「[使用上の注意 \(P. 143\)](#)」をご覧ください。
- SDメモリーカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、SDメモリーカードに添付のマニュアルをご覧ください。

1 SDメモリーカードを向きに注意して、SD (SDHC/SDXC) メモリーカードスロットに奥までしっかり差し込む

表面を上にして差し込んでください。



取り外し方

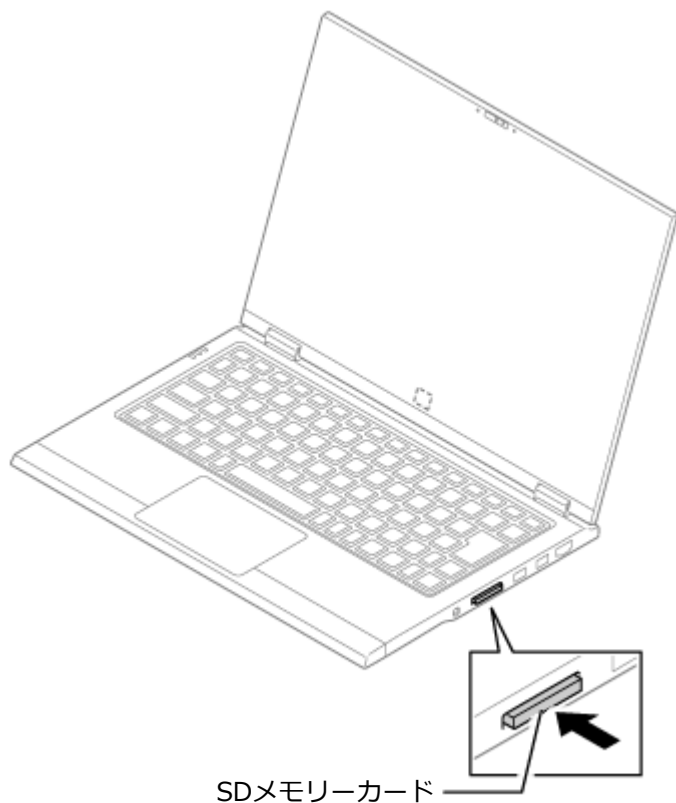
1 タスクバーの通知領域の をクリックし、 または をクリック

2 表示される「×××××の取り出し」から、取り外す周辺機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。
表示される「××××の取り出し」に取り外す周辺機器がない場合は手順3に進んでください

3 SDメモリーカードを押す

SDメモリーカードが飛び出します。



4 SDメモリーカードを水平に引き抜く

本機の音量の調節や、サウンド機能に関する設定などについて説明しています。

▶ 音量の調節.....	148
▶ マイクの設定.....	150
▶ AudioEngine™.....	151

音量の調節

[021702-28]

音量ミキサーを使う

Windowsの「音量ミキサー」で音量を調節することができます。

1 タスク バーの通知領域の  (音量) をクリック

2 表示されたウィンドウから「ミキサー」をクリック

「音量ミキサー」が表示されます。

3 調節したいデバイスやアプリケーションのスライドで音量を調節する



参照

音量ミキサーについて
Windowsのヘルプ

音量調整ボタンで調節する

+を押すと音量を大きく、-を押すと音量を小さく調節することができます。

キーボードで調節する

【Fn】 + 【F10】 を押すと音量を大きく、【Fn】 + 【F9】 を押すと音量を小さく調節することができます。

音声のオン/オフ (ミュート機能)

【Fn】 + 【F1】 を押すと、音声のオン/オフを切り替えることができます。




参照

【Fn】 について
「キーボード」の「キーの使い方 (P. 81)」

録音音量の調節

本機で録音音量を調節する場合は次の手順で行ってください。

1 タスク バーの通知領域の  (音量) を右クリックし、表示されたメニューから「録音デバイス」をクリック

「サウンド」が表示されます。

ヘッドホンマイクなどの録音機器を使用する場合は、接続してください。

2 使用する録音デバイスをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック



チェック

- 使用する録音デバイスが表示されていない場合は「次のオーディオ録音デバイスがインストールされています」の枠内を右クリックし、「無効なデバイスの表示」にチェックを入れ、表示されたデバイスを有効にしてください。
- 録音デバイスが複数ある場合は、使用するデバイスをクリックし、「既定値に設定」ボタンをクリックしてください。

3 「レベル」タブをクリックし、表示される画面で録音音量を調節する

4 「OK」ボタンをクリック

5 「OK」ボタンをクリック



チェック

「内蔵マイクのプロパティ」や「ステレオミキサーのプロパティ」の「聴く」タブで「このデバイスを聴く」にチェックを入れないでください。チェックを入れると、常時ハウリングが発生します。

「Realtek HD オーディオマネージャ」で設定する

「Realtek HD オーディオマネージャ」でマイクの設定を行うことができます。マイクの設定では、マイクでの録音時のノイズ抑制やエコーの軽減、ビームフォーミング機能の設定などが行えます。マイクの設定は、次の手順で行ってください。

1 ヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャックにヘッドフォンマイクを差し込む（ヘッドフォンマイクを使用する場合）

2 タスク バーの通知領域の  をクリックし、（Realtek HD オーディオマネージャ）をダブルクリック

「Realtek HD オーディオマネージャ」が表示されます。

3 「外付けマイク」タブ、または「内蔵マイク」タブをクリック

4 設定する機能にチェックを付ける

設定できる機能には次のものがあります。

機能	説明
ノイズ抑制	録音時のノイズ抑制を行います。
音響エコーキャンセル	録音時にスピーカが引き起こすエコーを軽減します。
ビームフォーミング (指向性録音)	ステレオマイク使用時に、マイクを向けていない方向からの雑音を軽減します。



チェック

外付けのヘッドフォンマイク使用時は、ビームフォーミングを利用できません。

5 設定が完了したら「OK」ボタンをクリック

以上でマイクの設定は完了です。

AudioEngine™は、長年のヤマハ株式会社のコンサートホール設計の経験に基づいて開発された音場補正技術です。実響実測データに基づいた音場拡大技術、セリフ強調やコンテンツごとの音量差補正にも対応した総合的なサウンド生成技術です。

様々な種類のコンテンツに対して、自然でクリアなサウンド空間を楽しむことができます。

AudioEngine™を構成している機能は以下の3つです。

- Spacious sound (S3D/SHP)
- Clear Voice (CLV)
- Adaptive Volume (ADV)



チェック

AudioEngine™は、本体内蔵のスピーカおよびヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャックに接続された機器向けの機能です。USBなど他の方法で接続された機器では動作しません。

AudioEngine™を使う

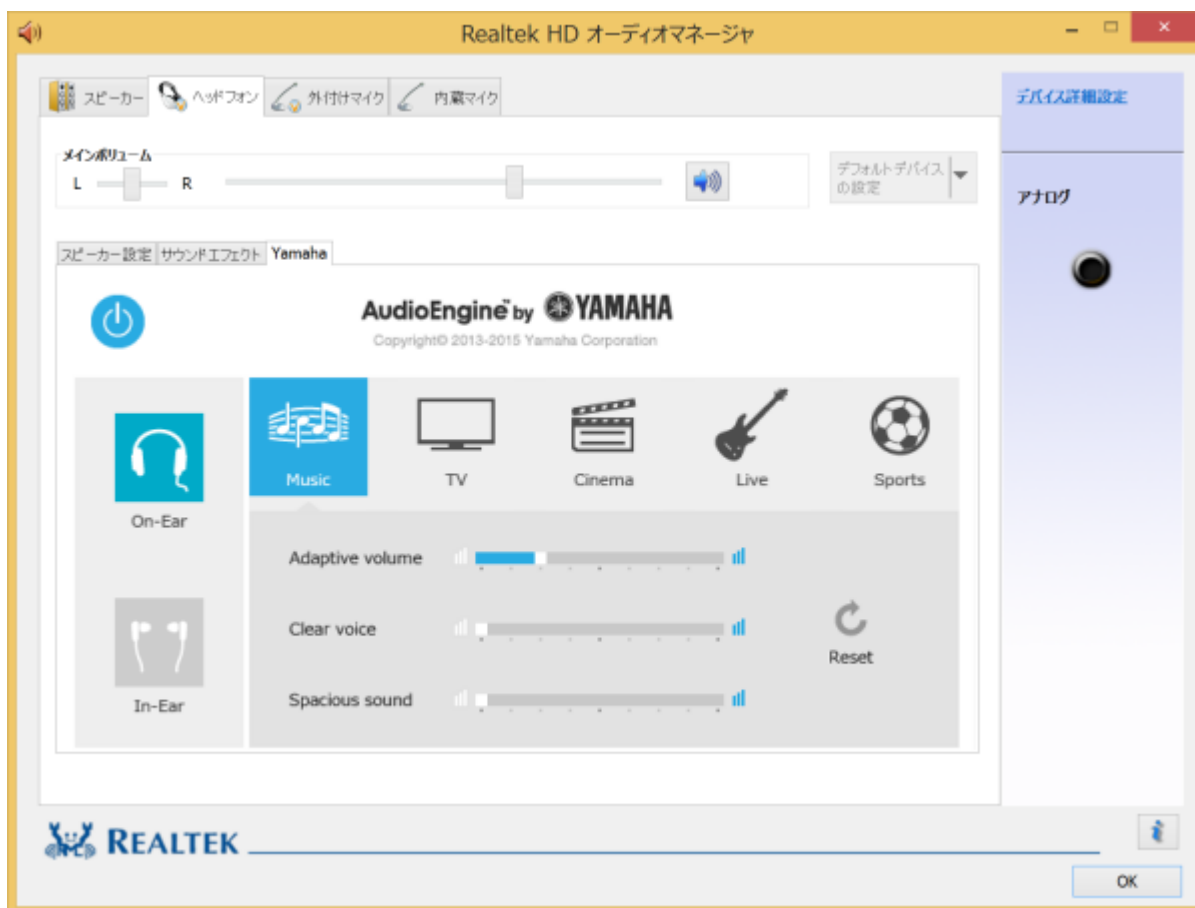
AudioEngine™を使用する際の設定は「Realtek HD オーディオマネージャ」から行います。

1 タスク バーの通知領域の をクリックし、 (Realtek HD オーディオマネージャ) をダブルクリック




「Realtek HD オーディオマネージャ」が表示されます。

2 「スピーカー」タブの「Yamaha」タブをクリック

AudioEngine™の設定画面が表示されます。



設定できる項目には次のものがあります。

AudioEngine™機能のオン/オフ	 または  をクリックするとAudioEngine™機能全体のオン/オフを切り換えることができます。
On-Ear/In-Ear	ヘッドフォンのタイプを選択します。本体内蔵のスピーカを選択している場合は表示されません。
プリセット	プリセットの選択ができます。 選択するには、ボタンをクリックしてブルーにします。 「Music」、「TV」、「Cinema」、「Live」、「Sports」から選択し、それぞれに最適な音響特性を設定することができます。
プリセットのカスタマイズ	プリセットで選択した項目それぞれに「Adaptive volume」、「Clear voice」、「Spacious sound」のつまみでカスタマイズができます。 変更したつまみは記憶され、次にプリセットのボタンをクリックしたときには変更した状態になります。 変更した内容を、初期状態に戻すには、  をクリックします。

3 設定が完了したら「OK」ボタンをクリック

本機のLAN（ローカルエリアネットワーク）機能を使用する際の注意や設定などについて説明しています。

➤ 本機を安全にネットワークに接続するために.	154
➤ 使用上の注意.	156
➤ LANへの接続.	157
➤ LAN機能の設定.	159

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-28]

コンピュータウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（アクションセンター）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、コンピュータ上のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

セキュリティ対策アプリケーションの利用

コンピュータウイルスから本機を守るために、セキュリティ対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するセキュリティ対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

また、本機にはウイルスを検査・駆除するアプリケーションとしてマカフィー リブセーフが添付されています。



参照

マカフィー リブセーフについて

「便利な機能とアプリケーション」の「マカフィー リブセーフ (P. 319)」

ファイアウォールの利用

コンピュータウイルスによっては、ネットワークに接続しただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピュータウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準で「Windows ファイアウォール」機能が有効になっています。「Windows ファイアウォール」について、詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windows® Update、またはMicrosoft® Update

最新かつ重要な更新プログラムが提供されています。

Windowsを最新の状態に保つため、ネットワークに接続後、定期的にWindows® Update、またはMicrosoft® Updateを実施してください。



チェック

- PCの安定動作およびセキュリティ向上のため、Windows® Update、またはMicrosoft® Updateを可能な限りOSのセットアップ直後に実施してください。アップデートの前にInternet Explorerのダウングレードなど、必要な作業項目がある場合は、各手順に従って対応してください。
- 本機には更新プログラムがインストールされています。更新プログラムをアンインストールすると、修正されていた問題が発生する可能性がありますので、更新プログラムのアンインストールは行わないでください。

使用上の注意

[021802-28]

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、LANケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にLANケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windows を再起動してください。
- LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ネットワークの通信中にはスリープ状態または休止状態にしないでください。
- ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。
あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE（米国電気電子技術者協会）で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。次のコマンドを入力することで、LANまたは無線LANのユニバーサル管理アドレスを確認することができます。

コマンド プロンプトで次のいずれかのコマンドを入力し、【Enter】を押してください。

コマンド	確認方法
net config workstation	アダプタがアクティブな場合、「アクティブなネットワーク（ワークステーション）」という項目の（ ）内に表示されます。
ipconfig /all	アダプタごとに「物理アドレス」として表示されます。

LANの設置

初めてネットワークシステムを設置するためには、配線工事などが必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、当社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

本機を有線ネットワークに接続するには、ご購入時に選択した場合に添付されるUSB-LAN変換アダプタと別売のLANケーブルが必要です。LANケーブルは、10BASE-Tで接続するにはカテゴリ3以上、100BASE-TXで接続するにはカテゴリ5以上、1000BASE-Tで接続するにはエンハンスドカテゴリ5以上のLANケーブルを使用してください。また、ネットワーク側のコネクタに空きがない場合、ハブやスイッチでコネクタを増やす必要があります。LANケーブルの接続は次の手順で行います。



チェック

- USB-LAN変換アダプタは、ご購入時に選択した場合に添付されますが、別途購入することもできます。
- USB-LAN変換アダプタは、本機のUSBポートに直接接続してください。USBハブでは使用できません。
- 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定とLANケーブルの接続を行ってください。
- 搭載されているLANアダプタは、接続先の機器との通信速度（1000Mbps/100Mbps/10Mbps）を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重に設定してください。
- オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器でリンク速度を固定して接続する場合、「速度とデュプレックス/スピードと二重」の設定は「ハーフデュプレックス/半二重」に設定してください。「フルデュプレックス/全二重」に設定すると、通信速度が異常に遅かったり、通信ができないなどの問題が発生します。

1 本機の電源を切る

2 本機のUSBコネクタにUSB-LAN変換アダプタを接続する



チェック

USB-LAN変換アダプタは、USBコネクタにしっかりと取り付けてください。



参照

USBコネクタの位置

「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 29)」

3 LANケーブルをUSB-LAN変換アダプタに接続する



チェック

LANケーブルは、USB-LAN変換アダプタにしっかりと取り付けてください。

4 ハブなどのネットワーク機器に、LANケーブルのもう一方のコネクタを接続する

5 本機の電源を入れる

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。



参照

必要な構成要素の詳細について

Windowsのヘルプの中にあるネットワーク関連の項目

ネットワーク接続のセットアップ



チェック

工場出荷時は、ネットワークプロトコル（TCP/IP）が設定されています。

- 1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 2 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリック
- 3 左のメニューから「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 「イーサネット」を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック
- 5 「ネットワーク」タブで必要な構成要素の設定をする



メモ

必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

- 6 「OK」ボタンをクリック
- 7  をクリック
- 8  をクリック

以上でネットワーク接続のセットアップは完了です。
続いて、コンピュータ名などの設定を行います。

接続するネットワークとコンピュータ名の設定

接続するネットワークに関する設定と、ネットワークで表示されるコンピュータ名を設定します。

- 1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリック
- 3 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」欄の「設定の変更」をクリック
- 4 「コンピューター名」タブの「変更」ボタンをクリック
- 5 「コンピューター名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に必要な情報を入力する



メモ

入力する情報がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

- 6 「OK」ボタンをクリック
確認のメッセージが表示されます。
- 7 「OK」ボタンをクリック
- 8 「閉じる」ボタンをクリック
- 9 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「今すぐ再起動する」ボタンをクリック
本機が再起動します。

以上でLANの設定は完了です。

本機の無線LAN機能の概要について説明しています。

▶ 概要.	162
▶ 本機を安全にネットワークに接続するために.	164
▶ 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意.	166
▶ 使用上の注意.	168
▶ 無線LAN機能のオン/オフ.	170
▶ 無線LANの設定と接続.	173
▶ 無線LANに関する用語一覧.	181

無線LAN機能でできること

無線LAN機能を使用することで、次のようなことができます。

無線LAN対応周辺機器との無線接続

本機と無線LANに対応した別売の周辺機器を使用すると、ケーブルで接続せずにLANを利用できます。例えば、無線LANに対応したルータやターミナルアダプタなどを利用してインターネットに接続できます。

他の無線LAN対応コンピュータとの無線通信

本機と無線LANに対応した他のコンピュータとの間で、ケーブル接続やメモリーカードなどの媒体を使用せずに、ファイルのコピーなどが行えます。



チェック

- 無線LAN機能は、周囲にあるIEEE802.11a (5GHz)、IEEE802.11b (2.4GHz)、IEEE802.11g (2.4GHz)、IEEE802.11n (2.4/5GHz) およびIEEE802.11ac (5GHz) (IEEE802.11ac搭載無線LANモデルの場合) に対応した無線LAN機器を検出し、このうち1台を選択して接続できます。
- 40MHz、80MHzの帯域幅を利用した無線LAN通信を行うには、接続先の無線LAN機器もそれらの帯域幅に対応している必要があります。
- IEEE802.11n (2.4/5GHz) 規格、またはIEEE802.11ac (5GHz) 規格による無線通信を行う際は、暗号化方式をAESに設定してください。それ以外の方式に設定した場合、これらの規格が利用できません。
- WPA - エンタープライズ、WPA2 - エンタープライズまたは認証機能 (IEEE802.1X) を使用した接続を行う場合は、各項目の設定内容をネットワークの管理者にお問い合わせください。

無線LAN機能使用上の注意

- 通信速度・通信距離は、無線LAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- 電波の性質上、通信距離が離れるに従って通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、無線LAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- 2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）を同時に使用した場合、2.4GHz無線LAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。2.4GHz無線LAN対応機器と2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）は離して使用することをおすすめします。
- Bluetooth機能やIntel® WiDiと無線LAN機能を同時に使用した場合、それぞれの通信速度や通信距離が低下する場合があります。
- 2.4GHz無線LAN対応機器とBluetooth機器など、同じ周波数帯を利用する機器を同時に使用した場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。同じ周波数帯を利用する機器はいずれかをオフにするか、離して使用することをおすすめします。
- ネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントなどが必要です。

- 医療機関で使用する場合には、医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスリープ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認の上、スリープ状態または休止状態を使用してください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 170)」

無線LAN対応製品との接続

無線LAN対応製品

本製品と接続できる無線LAN対応製品には、無線LAN内蔵コンピュータ、無線LANアクセスポイント、無線LAN周辺機器などがあります。

無線LAN機器同士の接続互換性については、業界団体Wi-Fi Alliance による「Wi-Fi®」認定を取得している、同じ規格の製品をご購入されることをおすすめします。

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-28]

コンピュータウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（アクションセンター）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、コンピュータ上のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

セキュリティ対策アプリケーションの利用

コンピュータウイルスから本機を守るために、セキュリティ対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するセキュリティ対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

また、本機にはウイルスを検査・駆除するアプリケーションとしてマカフィー リブセーフが添付されています。



参照

マカフィー リブセーフについて

「便利な機能とアプリケーション」の「マカフィー リブセーフ (P. 319)」

ファイアウォールの利用

コンピュータウイルスによっては、ネットワークに接続しただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピュータウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準で「Windows ファイアウォール」機能が有効になっています。「Windows ファイアウォール」について、詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windows® Update、またはMicrosoft® Update

最新かつ重要な更新プログラムが提供されています。

Windowsを最新の状態に保つため、ネットワークに接続後、定期的にWindows® Update、またはMicrosoft® Updateを実施してください。



チェック

- PCの安定動作およびセキュリティ向上のため、Windows® Update、またはMicrosoft® Updateを可能な限りOSのセットアップ直後に実施してください。アップデートの前にInternet Explorerのダウングレードなど、必要な作業項目がある場合は、各手順に従って対応してください。
- 本機には更新プログラムがインストールされています。更新プログラムをアンインストールすると、修正されていた問題が発生する可能性がありますので、更新プログラムのアンインストールは行わないでください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

[021902-28]

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピュータ等と無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者によって、電波を故意に傍受され、

- IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
- メールの内容

等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者によって、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスされ、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 本機で設定できるセキュリティ

盗聴（傍受）を防ぐ

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間の無線LAN通信データを暗号化できるので、通信の盗聴や、関係のないコンピュータや機器からの接続を防ぐことができます。WEP機能には64bitWEP対応、128bitWEP対応、152bitWEP対応のものがあり、本機の無線LAN機能は、64bitWEPと128bitWEPに対応しています。ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをおすすめします。



チェック

WEP機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器もWEP機能に対応している必要があります。

不正アクセスを防ぐ

- 無線LANアクセスポイントに任意のネットワーク名（SSID）を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、同じSSIDを設定していない機器でも、そのネットワークがどんなSSIDを使用しているかは検出できてしまうため、SSIDを設定しただけではセキュリティを保てません。これを回避するには、無線LANアクセスポイント側でSSIDを通知しないようにSSIDの隠ぺいの設定をする必要があります。
- 接続するコンピュータなどのMACアドレス（ネットワークカードが持っている固有の番号）を無線LANアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外は無線LANアクセスポイントに接続できなくなります（MACアドレスフィルタリング）。

より高度なセキュリティ設定を行う

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA（Wi-Fi Protected Access）やWPA2機能を利用します。IEEE802.1X/EAP（Extensible Authentication Protocol）規格によるユーザー認証、WEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号化方式TKIP（Temporal Key Integrity Protocol）やAES（Advanced Encryption Standard）を使用することで、より高度なセキュリティ設定が行えます。



チェック

WPA機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境がWPA機能をサポートしている必要があります。WPA2機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境がWPA2機能をサポートしている必要があります。

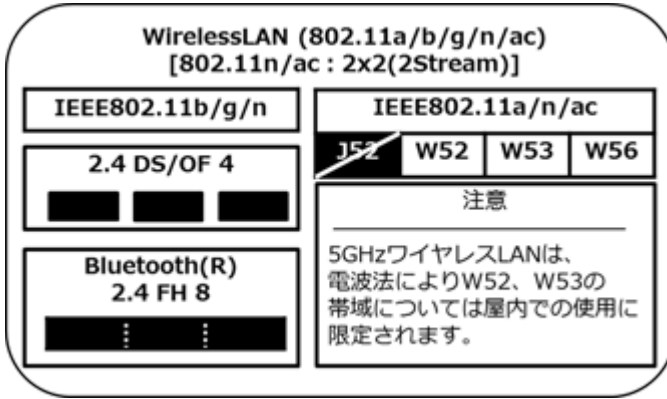
使用上の注意

[021903-28]

- 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域（2.4GHz～2.4835GHz）を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域（2.427GHz～2.47075GHz）が回避可能です。変調方式としてDS-SS方式とOFDM方式を採用しており、与干渉距離は40mです。
- 本製品には、5GHz帯小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品に内蔵されている無線設備は、5GHz帯域（5.15GHz～5.35GHz、5.47GHz～5.725GHz）を使用しており、以下のチャンネルに対応しています。
 - W52 : Ch36 (5180MHz) ,Ch40 (5200MHz) ,Ch44 (5220MHz) ,Ch48 (5240MHz)
 - W53 : Ch52 (5260MHz) ,Ch56 (5280MHz) ,Ch60 (5300MHz) ,Ch64 (5320MHz)
 - W56 : Ch100 (5500MHz) ,Ch104 (5520MHz) ,Ch108 (5540MHz) ,Ch112 (5560MHz) ,Ch116 (5580MHz) ,Ch120 (5600MHz) ,Ch124 (5620MHz) ,Ch128 (5640MHz) ,Ch132 (5660MHz) ,Ch136 (5680MHz) ,Ch140 (5700MHz)
- W52、W53無線LANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。
- 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。
分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。
また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格（RCR STD-38）」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
- 自動ドアや火災報知機など、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります（本製品の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別できます）。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
 - 本製品と影響を受けている装置の距離を離してください。
 - 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気系統のコンセントから、本製品の電力を供給してください。
 - 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- トラック無線（CB無線）やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。
詳しくは、ご使用場所管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- 他の無線機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 電子レンジなど、本製品と同じ周波数帯域を使用する産業・科学・医療用機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信速度が異なります。

■ ワイヤレス注意ラベル（本体底面）

- IEEE802.11a/b/g/n/acに対応していて、かつBluetoothにも対応している場合



無線LAN機能のオン/オフ

[021904-28]

無線LAN機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。

- すべてのワイヤレス デバイスを切り替える. 170
- 無線LAN機能のみを切り替える. 172




メモ

- オン/オフの設定は、電源を切った後も保存されます。
- 外付け接続した無線LANモジュールの無線LAN機能のオン/オフにも対応します。



チェック

- 無線LAN機能のオン/オフを行う場合は、切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。
- 他の機器に影響を与える場合やワイヤレス機能を使用しない場合は、ワイヤレス機能をオフにすることをおすすめします。
- BIOSセットアップユーティリティでワイヤレスデバイスそのものを無効にしている場合、これらの方法で無線LAN機能を有効にすることはできません。BIOSセットアップユーティリティでワイヤレスデバイスを有効に設定してから操作を行ってください。
- 無線LAN機能のオン/オフは、次の手順で確認できます。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン () をクリック

2 「Wi-Fi」を確認する



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」 および「設定項目一覧」

すべてのワイヤレス デバイスを切り替える

無線LAN機能を含むすべてのワイヤレス機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- 無線LAN機能を含むワイヤレス機能をオンにしたときに、Bluetoothのドライバのインストールが始まった場合は、インストールが完了するまでお待ちください。また、再起動を促すメッセージが表示された場合は、本機を再起動してください。
- 無線LAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフの際、Bluetoothのドライバの組み込み/取り外しに時間がかかる場合があります。
再度、無線LAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフを行う場合は、Bluetooth機能の切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。Bluetooth機能の切り替えが完了しないうちに、連続してオン/オフの操作を行わないようにしてください。

ワイヤレススイッチ (【Fn】 + 【F2】) で切り替える

キーボードの【Fn】 + 【F2】を押すことで、ワイヤレス機能のオン/オフを切り替えることができます。



メモ

ワイヤレススイッチでオンにしても、無線LANまたはBluetoothが機能しない場合は、時間をおいてオフ/オンを切り替えてみてください。



参照

【Fn】について

「キーボード」の「キーの使い方 (P. 81)」

「機内モード」で切り替える

Windows標準の機能を使って、ワイヤレス機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

機内モード中でも、無線LAN機能を個別にオンにしておくことができます。

●ワイヤレス機能をオフにする場合

1 タスクバーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

2 「機内モード」をオンにする

●ワイヤレス機能をオンにする場合

1 タスクバーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

2 「機内モード」をオフにする


無線LAN機能のみを切り替える

無線LAN機能のみのオン/オフを切り替えることができます。

無線LAN機能のみを切り替える


Windows標準の機能を使って、無線LAN機能のみのオン/オフを切り替えることができます。

●無線LAN機能をオフにする場合

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン () をクリック

2 「Wi-Fi」 をオフにする

●無線LAN機能をオンにする場合

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン () をクリック

2 「Wi-Fi」 をオンにする

無線LANの設定と接続

[021905-28]

➤ 無線LANの設定をする.	175
➤ セキュリティとデータの暗号化について.	178
➤ 設定済みの接続先に接続する.	179
➤ 接続を切断する.	179



メモ

- セキュリティ設定や周囲の無線環境によっては、接続までに時間がかかる場合や、通信速度が低下する場合があります。
- 工場出荷時の状態では、2.4GHzのみを使用できる設定になっています。5GHzを使用する場合は、次の手順で設定を変更してください。

1 「デバイス マネージャー (P. 12)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 7265」をダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄で「ワイヤレス モード」を選択する

6 「値」欄の▼をクリックし、「6. 802.11a/b/g」を選択する

7 「OK」ボタンをクリック

- WPS (Wi-Fi Protected Setup) に対応した無線LANアクセスポイントと接続する場合、PINの入力や、ルーターのボタンを押すことを要求する画面が表示されることがあります。これらの操作でも無線LANアクセスポイントと接続できますが、機器の組み合わせによっては接続に失敗することもありますので、その場合はセキュリティ キーを入力して接続を行ってください。
- WPSで接続する場合は、セキュリティが自動的に設定されます。設定されたセキュリティについては、無線LANアクセスポイントの設定画面かマニュアルなどで確認してください。
- PINの記載箇所については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- 「電源の管理」タブの設定は変更しないでください。



メモ

- IEEE802.11n規格による無線LAN通信において、2.4GHz帯のチャンネルを40MHz幅で接続する場合は、次の手順で設定を確認してください。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 12)」を開く
- 2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック
- 3 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 7265」をダブルクリック
- 4 「詳細設定」タブをクリック
- 5 「プロパティ」欄で「2.4 GHz 用 802.11n チャンネル幅」を選択する
- 6 「値」欄が「自動」になっているかを確認する
「自動」になっていない場合は、をクリックして「自動」を選択してください。
- 7 「OK」ボタンをクリック

- IEEE802.11ac (5GHz) モードによる通信を行うには、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 12)」を開く
- 2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック
- 3 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 7265」をダブルクリック
- 4 「詳細設定」タブをクリック
- 5 「プロパティ」欄で「HT モード」を選択する
- 6 「値」欄のをクリックし、「VHT モード」を選択する
- 7 「OK」ボタンをクリック



メモ

- 無線LANユーティリティを使用することで、Windows標準の無線LAN機能でサポートしていない認証機能（LEAPなど）をご利用いただけます。
無線LANユーティリティは、NECの「ビジネスPC」サイト（<http://jpn.nec.com/products/bizpc/>）より提供予定です。次の手順でダウンロードしてください。

1 NECの「ビジネスPC」サイト（<http://jpn.nec.com/products/bizpc/>）で「サポート情報（ダウンロード）」をクリック

2 「ご使用中のお客様」欄の「ドライバ・ソフトウェア」をクリック
「モジュール、ドライバ」欄で該当するユーティリティをダウンロードしてください。

- Intel® WiDiをインストールすると、Windows標準の無線LAN機能でサポートしていない認証機能（LEAPなど）が同時にインストールされますが、本機能はCCX認証を取得しておりません。

無線LANの設定をする

接続する機器によって、設定手順が異なります。お使いの環境にあわせて設定を行ってください。

ネットワーク名（SSID）を通知する無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 170)」

2 タスクバーの通知領域のネットワークアイコン（）をクリック

ネットワーク名（SSID）と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

3 接続する無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）をクリック



チェック

- 選択した無線LANアクセスポイントに間違いがないか、ネットワーク名（SSID）を確認してください。
- ネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、無線LANアクセスポイントがネットワーク名（SSID）を通知しない設定になっている場合があります。無線LANアクセスポイントの設定を確認し、「ネットワーク名(SSID)を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合 (P. 176)」の手順で設定を行ってください。

4 「自動的に接続する」にチェックが付いていることを確認して、「接続」ボタンをクリック



メモ

自動的に接続する設定は、後から変更できます。

5 「セキュリティ キー」の入力を要求する画面が表示された場合は、接続先に設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力して、「次へ」ボタンをクリック

これ以降は画面の指示に従って操作してください。



チェック

「閉じる」ボタンが表示された場合は、「閉じる」ボタンをクリックしてください。

これで設定は完了です。

ネットワーク名（SSID）を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 170)」

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリック

5 「ワイヤレス ネットワークに手動で接続します」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

ワイヤレス ネットワークの情報を入力する画面が表示されます。

6 「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」にチェックを付ける

7 接続先の無線LANアクセスポイントにあわせて設定を行う

- 「ネットワーク名」
接続先の無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）を入力します。
- 「セキュリティの種類」、「暗号化の種類」
接続先の無線LANアクセスポイントの設定にあわせて選択します。
セキュリティと暗号化の種類については、「[セキュリティとデータの暗号化について \(P. 178\)](#)」をご覧ください。
- 「セキュリティ キー」
接続先の無線LANアクセスポイントに設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力します。
- 「この接続を自動的に開始します」
チェックを付けると、接続先が通信可能範囲にある場合、自動で接続するように設定されます。

8 「次へ」ボタンをクリック

9 「正常に <ネットワーク名 (SSID) > を追加しました」と表示されたら、次の手順を行う

- 設定を変更しない場合
手順10に進んでください。
- 設定を変更する場合
「接続の設定を変更します」をクリックし、表示される画面で設定を行ってください。
設定が完了したら「OK」ボタンをクリックし、手順10へ進んでください。



チェック

接続先の無線LANアクセスポイントにWEPキーが設定されており、暗号化キー番号（キーインデックス）が「1」以外に設定されている場合は、ここで設定を変更する必要があります。「接続の設定を変更します」をクリックし、「セキュリティ」タブの「キー インデックス」で設定を行ってください。

10 「閉じる」ボタンをクリック

これで設定は完了です。

手順7で「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けなかった場合は、「[設定済みの接続先に接続する \(P. 179\)](#)」をご覧ください。手動で接続を行ってください。

セキュリティとデータの暗号化について

セキュリティと暗号化の方式は、無線LANアクセスポイントの設定にあわせる必要があります。本機の無線LAN機能で設定できる、セキュリティと暗号化の方式は次の通りです。

選択できるセキュリティと暗号化の方式

セキュリティの種類	暗号化の種類
認証なし（オープン システム）	なし、WEP
WPA2 - パーソナル	TKIP、AES
WPA - パーソナル	
WPA2 - エンタープライズ	
WPA - エンタープライズ	
802.1X	WEP



メモ

- セキュリティは設定することを強く推奨します。セキュリティの設定を行わない場合は、「無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意 (P. 166)」の内容をご確認の上、使用してください。
- WPA2 - エンタープライズ、WPA - エンタープライズ、および認証機能 (IEEE802.1X) を使用した接続を行う場合は、各項目の設定内容をネットワークの管理者にお問い合わせください。

ネットワーク セキュリティ キー

データの暗号化を行う場合、ネットワーク セキュリティ キーを設定します。ネットワーク セキュリティ キーは、通信を行う無線LANアクセスポイントと同じ設定にします。

暗号化の方式と、ネットワーク セキュリティ キーとして使用できる文字種と文字数は以下の通りです。

●WEPの場合

キーの長さが長い (bit数が大きい) ほど、通信内容の解読がされにくくなり、安全性が高くなります。

入力形式	長さ	キーに使用する文字	説明
ASCIIテキスト	64bit	半角英数字で5文字	相手の機器が64bit暗号キーに対応している場合に使えます。64bitのうち40bitをユーザーが指定し、24bitはシステムが設定します。
16進数		16進数 (0~9、A~Fの半角英数字) で10文字	
ASCIIテキスト	128bit	半角英数字で13文字	相手の機器が128bit暗号キーに対応している場合に使えます。128bitのうち104bitをユーザーが指定し、24bitはシステムが設定します。
16進数		16進数 (0~9、A~Fの半角英数字) で26文字	

●WPA - パーソナル (TKIP、AES) またはWPA2 - パーソナル (TKIP、AES) の場合

入力されたネットワーク セキュリティ キーを元にして、一定時間ごとにキー自体が自動更新されるため、WEPよりも安全性が高くなります。

入力形式	キーに使用する文字
ASCIIテキスト	半角英数字で8文字以上63文字以下
16進数	16進数（0～9、A～Fの半角英数字）で64文字



チェック

WPA - パーソナルやWPA2 - パーソナルによる暗号化を使用するには、接続する相手の機器も同じセキュリティ機能に対応している必要があります。

設定済みの接続先に接続する

設定済みの接続先に接続するには、次の手順で行います。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 170)」

2 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

3 接続先をクリックし、「接続」ボタンをクリック

以上で接続は完了です。

接続を切断する

接続中のネットワーク接続を切断するには、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 切断する接続先をクリックし、「切断」ボタンをクリック



メモ

現在接続中の接続先には「接続済み」と表示されています。



チェック

接続の状態の表示は、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

以上で切断は完了です。

無線LANに関する用語一覧

[021913-28]

ここでは無線LANに関する用語について説明します。無線LANの設定をするときにご覧になると便利です。

用語	説明
AES	Advanced Encryption Standardの略。 米国政府内での情報処理用に採用された「次世代標準暗号化方式」のこと。規定の基準（暗号強度、処理速度など）を満足しており、その仕様も公開されていることから、広い分野での利用が行われている。IEEE802.11iの暗号化方式の1つに採用されている。
ANYプローブ応答禁止	SSIDの問い合わせを拒否する設定。
ANY接続拒否	SSIDを「ANY」にセットした無線LAN端末もしくはSSIDに任意の文字列を入れた端末からの接続を拒否する設定。
EAP	Extensible Authentication Protocolの略。 任意の認証機能を用いるための仕様。ダイヤルアップで用いられるPPP（Point-to-Point Protocol）の拡張として開発された。 ユーザー名・パスワード以外にもスマートカード（ICカード）やデジタル証明書などさまざまな認証方式をサポートできる。EAP-TLS、EAP-TTLSなどがある。
EAP-TLS	Transport Layer Security の略。 EAP方式の認証プロトコルの1つで、利用にはクライアント証明書とサーバ証明書が必要となる。
EAP-TTLS	Tunneled Transport Layer Security の略。 EAP方式の認証プロトコルの1つで、EAP-TLSとは異なり、クライアント証明書は必要とせず、代わりにユーザー名・パスワードが用いられる。
IEEE802.11a	IEEEが標準化した5GHz帯の電波を使い最大54Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11b	IEEEが標準化した2.4GHz帯の電波を使い最大11Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11g	IEEEが標準化した2.4GHz帯の電波を使い最大54Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11i	IEEEが標準化を進めている「無線LAN用セキュリティ規格」認証方式や暗号化方式、暗号化キーの取り扱いなどについて規定している。
IEEE802.11n	IEEEが標準化した2.4GHz、5GHz帯のいずれかの電波を使い最大600Mbps（理論値）の転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11ac	IEEEが標準化した5GHz帯の電波を使い最大6.93Gbps（理論値）の転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.1X	無線LAN上で認証と動的なキーの生成と配送を行う仕組み。 IEEE標準。有線LANでポートアクセス管理を行うためにも用いられる。EAPとRADIUSを用いる。

MACアドレスフィルタリング	無線LAN端末固有のMACアドレスを無線LANアクセスポイントに設定することで、無線LAN端末を無線LANアクセスポイントに接続するか否かを制御するセキュリティ方式。													
PSK	Pre-Shared Keyの略。 暗号化キーを生成するために用いられる共有（秘密）鍵のこと。この鍵を用いて直接暗号化を行うものではなく、暗号鍵を生成するためのものであることから“事前共有鍵”と呼ばれる。PSKとは、事前共有鍵を用いる認証方式を表す場合がある。													
RADIUS	Remote Authentication Dial-in User Serviceの略。 ネットワークアクセス全般に対する認証、アクセス承認、課金管理を行うプロトコル。													
SSID	Service Set Identifierの略。 無線LANを構成する無線LANアクセスポイントと端末に付けられた識別子のこと。無線LANをグループ化するために用いられる。 無線LANアクセスポイントと端末に同じSSIDが設定されていないと通信できない。無線LANアクセスポイントを中心とした1つのグループであるBSS（Basic Service Set）が、802.11による無線LANのインフラストラクチャ通信の最小単位となるが、複数の無線LANアクセスポイントにまたがった際のローミングを考慮し、BSSを複数束ねたESS（Extended Service Set）が定義されている。このため、SSIDはESSIDと呼ばれることもある。 無線LAN接続ツールによっては、ネットワーク名と記載している場合もある。													
SSIDの隠ぺい	SSIDを無線LANアクセスポイントにより定期的送信されるビーコン中に含まないように設定すること。													
TKIP	Temporal Key Integrity Protocol の略。 暗号化方式の一種で、WPAの暗号化方式として採用されている。 PSKと呼ばれる“事前共有鍵”を元に暗号化キーを一定のデータ量また時間ごとに生成し、暗号化を行う。													
WEPキー	WEP暗号化方式で用いられる“暗号化キー”のこと。種類は共有（秘密）鍵である。													
WPA	① Wi-Fi Protected Accessの略。 Wi-Fi Alliance が規格化した、新しいセキュリティ規格のこと。 WEP方式よりセキュリティ強度が強化されている。暗号化方式と認証プロトコルにより、以下の4つに分類できる。 <table border="1" data-bbox="528 1467 1485 1704"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="2">認証</th> </tr> <tr> <th>PSK</th> <th>EAP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">暗号</th> <th>TKIP</th> <td>(1)</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <th>AES</th> <td>(3)</td> <td>(4)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※WPA仕様書では、暗号プロトコル「AES」は必須ではないため、WPAをサポートしていても、AESをサポートしていない場合がある。</p> <p>② WPAにて認証に外部サーバを用いる方式を表す。上記表内の（2）または（4）の方式。</p>			認証		PSK	EAP	暗号	TKIP	(1)	(2)	AES	(3)	(4)
				認証										
		PSK	EAP											
暗号	TKIP	(1)	(2)											
	AES	(3)	(4)											
WPA - パーソナル	WPAにて認証に外部サーバも用いない方式を表す。上記表内の（1）または（3）の方式。													
暗号化キー	暗号化を行う鍵のことで、暗号化方式により、公開鍵と共有（秘密）鍵の2種類ある。													

インフラストラクチャ通信	無線LAN端末と無線LANアクセスポイントを利用した形態の通信。
オープンシステム認証	無線LANの認証方式の1つ。無線LAN端末からは資格情報なしに無線LANアクセスポイントに認証依頼を行い、無線LANアクセスポイントは依頼された認証をそのまま受け入れる。そのため、ネットワークキーによる認証は行われていない（サーバ認証とは別）。
キーインデックス	WEP暗号化方式では、仕様上4つのWEPキーを切り替えることができる。WEP暗号化方式では、無線LANアクセスポイントと無線LAN端末の両方のキーインデックスを同じにしなければいけない。製品によってはキーインデックスの値が「0～3」のものと「1～4」のものがあり、設定に注意しなければならない。
キー更新間隔	暗号化キーを生成するデータ量間隔または時間間隔のこと。
共有キー認証	無線LANの認証方式の1つ。無線LANアクセスポイントと端末はネットワークキーを用いたチャレンジレスポンス認証を行う。
ネットワークキー	共有キー認証の「認証キー」と暗号化機能の「暗号化キー」または「PSK」の両方に用いられる「キー」のこと。
ネットワーク認証	無線LANの認証方式の総称。オープンシステム認証、共有キー認証、WPA、WPA - パーソナル、WPA2、WPA2 - パーソナルなどがある。
無線LANアクセスポイント	ネットワークに無線LAN端末を接続する機器であり、一般的には有線LANのHUBに相当する機能を持つ。

[022000-28]

➤ 使用上の注意.....	185
➤ USB機器の取り付け／取り外し.....	187

使用上の注意

[022001-28]

- 本機のUSBコネクタには、USB 1.1対応機器、USB 2.0対応機器、USB 3.0対応機器が取り付け可能です。ただし、対応する規格の異なるUSBコネクタにUSB機器を取り付けたときの、動作規格（転送速度）については次の表をご覧ください。

		本体側コネクタ
		USBコネクタ (USB 3.0対応) 
取り付ける機器	USB 1.1対応機器	USB 1.1 (12Mbps※1)
	USB 2.0対応機器	USB 2.0※2 (480Mbps※1)
	USB 3.0対応機器	USB 3.0※3 (5Gbps※1)

※1 記載の速度は理論値（最大）です。

※2 USBハブ、USBケーブルもUSB 2.0に対応したものを使用する必要があります。

※3 USBハブ、USBケーブルもUSB 3.0に対応したものを使用する必要があります。

- USB機器の取り付け／取り外しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく抜き差ししたり斜めに差したり半差しにしたりすると、正常に認識されないことがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、正しく差しなおしてください。
- 初めてUSB機器を取り付けたときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を取り外してください。USB機器を取り付けた状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- 省電力状態（スリープ状態や休止状態）の時や、省電力状態への移行中、省電力状態からの復帰中は、USB機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- 省電力状態への移行中は、取り付けているUSB機器を操作しないでください。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、USBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。USB機器を取り付けた状態でUSBハブを本機に取り付けると、USB機器が正常に認識されないことがあります。
- USB機器の有無にかかわらず「デバイス マネージャー」にある「ユニバーサル シリアル バス コントローラー」は削除、無効にしないでください。
- 印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに取り付けているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。



メモ

- 本機でのUSB機器の動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧くださいか、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECの「ビジネスPC」サイト (<http://jpn.nec.com/bpc/>) から、次の手順で確認してください。

1 「サポート情報（ダウンロード）」をクリック

2 「ご使用中のお客様」にある「製品型番検索」にお使いのモデル型番を入力し、「検索」をクリック

お使いのモデルの型番で検索し、取り付け可能なUSB対応機器を確認してください。

- 取り付ける機器によっては、接続ケーブルが必要な場合があります。

USB機器を制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、USBコネクタの有効/無効を設定して、USB機器の使用を制限することができます。

また、添付のDeviceLockでも、取り付けているUSB機器単位で読み込みや書き込みを制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 204)」
- **DeviceLockについて**
「セキュリティ機能」の「DeviceLock Lite (P. 212)」

USB機器の取り付け／取り外し

[022002-28]

取り付けの前に

機器によっては、使用するためにドライバやアプリケーションのインストール、設定の変更などが必要になる場合があります。

USB機器に添付のマニュアルなどをご覧になり、必要な準備を行ってください。



メモ

- 取り付けてすぐ使うことができるUSB機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性があります。必ず添付のマニュアルをよく読んでください。
- USB機器は、本機の電源を入れたままの状態でも取り付けることができます。取り付け前に電源を切る必要はありません。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、はじめにUSBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。

USB機器の取り付け

1 USBコネクタ (USB 3.0対応) (SS⇄またはSS⇄) にプラグを差し込む

プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

取り付けしたUSB機器が正しく本機に認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、取り付けた後で別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USB機器の取り外し

1 タスク バーの通知領域の をクリックし、 または をクリック

このアイコンが表示されていない場合は手順3に進んでください。

2 表示された「××××の取り出し」から、取り外したいUSB機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。

表示された「××××の取り出し」に取り外したいUSB機器がない場合は手順3に進んでください。

3 USB機器を取り外す

以上でUSB機器の取り外しは完了です。

本機のBluetooth機能について説明しています。

▶ 概要.	189
▶ セキュリティに関するご注意.	191
▶ 使用上の注意.	192
▶ Bluetooth機能の設定と接続.	194
▶ Bluetooth機能のオン/オフ.	198

Bluetooth機能について

Bluetooth（ワイヤレステクノロジー）機能は、Bluetoothワイヤレステクノロジーが搭載された機器とデータ通信を行うBluetooth Special Interest Group（SIG）が策定した世界標準の通信規格です。

Bluetooth機能でできること

次のような、Bluetooth機器とワイヤレスで接続することができます。

- マウスやキーボード
- 携帯電話、タブレット
- ヘッドセット、ヘッドフォン

など

最大で7台のBluetooth機器を同時に接続できます。



チェック

- Bluetooth機能をお使いになる前に、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- 同時に利用するBluetooth機器の台数が多い場合、通信負荷が大きくなり動作に影響をおよぼすことがあります。
- Bluetooth機器によっては、複数同時に使用できない仕様のものがあります。
- 同じ種類のBluetooth機器でも機能差がある場合があります。
- Bluetooth機能は、すべてのBluetooth機器に対して動作を保証するものではありません。Bluetooth機器の動作環境と接続の可否を確認してください。

接続できる機器

本機のBluetooth機能は、Ver.1.1以降でVer.4.0までのいずれかの規格に対応した機器（マウスやキーボードなど）と接続できます。ただし、接続する機器が、Bluetoothプロファイルに対応している必要があります。また、使用する機器やソフトによっては接続できないことがあります。機器をご購入する前に製造元や販売店に確認してください。

対応しているBluetoothプロファイルについては、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

シンプルペアリング機能（Ver.2.1以降）に対応した機器と接続する場合は、パスキー（PINコード）を入力することなく機器同士をペアリングすることができます。

また、次の機能が強化されています。

- **省電力機能 (Ver.2.1以降)**

Ver.2.0+EDRよりも省電力が強化され、マウスやキーボードなどのバッテリー駆動時間の延長に効果があります。

- **ペアリング機能**

第三者の介入によって情報が傍受される可能性を排除する防御機能が搭載されています。

- **Enhanced Data Rate (EDR) 機能**

従来の規格の約3倍（理論上）の速度で通信を行えます。

- **Advanced Frequency Hopping (AFH) 機能**

無線LAN (IEEE802.11b/g/n) など、他の2.4GHz帯域を利用する無線機器が利用している周波数を避けて干渉の可能性を低減させます。



チェック

- 回避できる周波数帯域が確保できない場合は、この機能の効果が得られないことがあります。
- 2.4GHz帯域の中でも無線LAN (IEEE802.11n) はより強い干渉を受ける場合があります。

- **Low Energy機能 (Ver.4.0以降)**

従来の機器に比べて低消費電力のBluetooth Smart機器（マウスなど）と接続することが可能です。

通信距離と速度

通信できる距離

本機は、相手の機器間と見通して約10mの範囲まで通信できます。ただし、10m以内でもデータ通信タイミングを必要とする音楽データ通信などは音とびが発生する場合があります。

通信速度

実際の通信速度は、各通信モードの規格値の半分程度を目安にしてください。

Enhanced Data Rate (EDR) 規格に対応した機器同士の最大通信速度は3Mbps（規格値）です。

前述のHSおよびEDRに対応していない機器の場合（Basic Rate:BR）は、最大通信速度（非同期）は1Mbps（規格値）です。



チェック

接続する機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のソフト、およびOSなどによって、通信速度や距離は大きく変化します。

セキュリティに関するご注意

[023102-28]

Bluetooth機能では、セキュリティを確保するため、機器ごとに割り振られた固有のIDで機器の識別をしています。さらにパスキー（PINコード）を設定して接続認証を行ったり、通信データを暗号化することで通信を傍受された場合にもデータの内容を守ることができます。また、通信中に使用する周波数帯域を接続単位ごとにランダムに変更しながら通信することで通信傍受されにくくなっています。



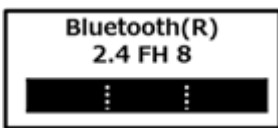
チェック

- これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。
- 身に覚えのない接続を要求された場合は、無視するか受付をしないでください。

使用上の注意

[023103-28]

- 接続相手と通信中（ファイル転送中やプリンタで印刷中、オーディオ機器で音楽再生中など）に、本機を休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 本製品に標準内蔵以外のBluetooth® ワイヤレステクノロジー機器をセットアップして使用しないでください。
- Bluetooth対応オーディオ機器をご使用になる場合は、SCMS-T方式の著作権保護機能をサポートした機器をおすすめします。本機を用いて著作権保護されたデータのコピーを作成することは違法となる場合があります。
- 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域（2.4GHz～2.4835GHz）を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域（2.427GHz～2.47075GHz）と重複しており、この重複する周波数帯での干渉を回避することができません。変調方式としてFH-SS方式を採用しており、与干渉距離は80mです。



- 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人 電波産業会が策定した「電波防護標準規格（RCR STD-38）」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
- 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
- 自動ドアや火災報知機等、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります（本製品の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別できます）。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
 - 本製品と影響を受けている装置の距離を離してください。
 - 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気システムのコンセントから、本製品の電力を供給してください。
 - 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- トラック無線（CB無線）やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。詳しくは、ご使用場所の管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信速度が異なります。
- 本製品は、Bluetooth® パスキー（PINコード）や暗号化機能等を使用することにより、無線ネットワークでの不正アクセスを防止することが可能ですが、日頃からの接続デバイスの管理をされることをおすすめします。

- 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因になるおそれがあります。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーを装備されているかたは、本商品をペースメーカー装置部から30cm以上離して使用してください。
- その他、本製品から移動体識別用特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、NECまたはご購入元にお問い合わせください。



メモ

安定した通信のため、次の点にご注意ください。

- 本機と接続するBluetooth機器との距離は、できるだけ近くする
- 接続するBluetooth機器との間に障害物を置かないようにする
- 金属製のパソコンラックなどで本機を使用しない
- 通信中は近くで同じ周波数帯域を使用する電子レンジや他の無線機器を使用しない

Bluetooth機器の接続


Bluetooth機器を接続するときは、機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

1 接続するBluetooth機器を接続可能な状態にする

2 タスク バーの通知領域の をクリックして表示される (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「Bluetooth デバイスの追加」をクリック



メモ

 (Bluetooth デバイス) がない場合は、「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 198)」をご覧ください。

「Bluetooth デバイスの管理」画面が表示され、Bluetooth機器が検索され一覧に表示されます。

3 接続するBluetooth機器を選択し、「ペアリング」ボタンをクリック





チェック

デバイスの追加で認証エラーが発生し自動で接続できない場合には「閉じる」をクリックし、デバイスを選んで「ペアリング」をクリックします。「ペアリングオプションの選択」でデバイスのマニュアルに記載のデバイスのペアリングコードを入力するか、もしくはペアリングコードを使用しないを選択して接続を繰り返してみてください。



メモ

登録済みのデバイスを確認する場合は、タスク バーの通知領域の  をクリックして表示される  (Bluetooth デバイス) をクリックし、「Bluetooth デバイスの表示」をクリックして一覧を開いて確認してください。



チェック

- Bluetoothキーボードを接続するときにパスキー（PINコード）の入力を求められたときは、画面に表示されたコードを入力して最後に【Enter】を押してください。その他の機器でパスキー（PINコード）の入力を求められたときは、その製品に添付のマニュアルなどでご確認ください。
- ドライバのインストール中に本機の動作が遅くなる場合があります。
- ドライバによっては再起動を求められる場合があります。
- Bluetooth対応オーディオ機器を使用する場合は、SCMS-T方式の著作権保護機能をサポートした機器をおすすめします。
- Bluetooth機器によってサポートしている機能に差分があったりアプリケーションソフトが対応できなかったりする場合がありますので、ご購入前にサポート機能の確認を行ってください。



メモ

- Bluetooth対応オーディオ機器（ステレオヘッドフォンなど）を接続していて音が切れる（音飛びする）場合は、一度切断して本機のBluetooth側から再接続することをおすすめします。これはオーディオ機器によるホスト処理の負荷が高いため、遅れが出る場合があるからです。解決しない場合は、本機と接続機器の距離を近くするか、バッテリー駆動の機器の場合はバッテリー容量の残量を確認してください。
- 無線LANを使用していない（アクセスポイントに接続していない）ときに、接続しているBluetooth機器の動作が不安定（オーディオ機器のノイズ、マウスのカクツキなど）な場合は、無線LAN機能のみをオフにしてください。システム処理の負荷を軽減することができます。





参照

無線LAN機能のオン/オフについて

「無線LAN機能」の「無線LAN機能のオン/オフ (P. 170)」


Bluetooth機能の設定を変更する

必要に応じてBluetooth機能の設定を変更することができます。設定の変更は次の手順で行ってください。

- 1 タスクバーの通知領域の  をクリックして表示される  (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「設定を開く」をクリック



メモ

-  (Bluetooth デバイス) がない場合は、「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 198)」をご覧ください。



チェック

接続したBluetooth機器の設定変更の方法は、機器に添付のマニュアルを参照ください。

Bluetooth接続でのファイルの送受信

Bluetooth機器間で一時的に小さなファイルを簡単にやりとりすることができます。

ファイルの送信

ファイルの送信は次の手順で行います。

- 1 送信するファイルを右クリックし、表示されたメニューから「送る」→「Bluetooth デバイス」をクリック



チェック

複数のファイルをまとめて送信したい場合でも、フォルダの送信はできません。ファイルを送信してください。

- 2 リストに表示される送信先のデバイスを選択し、「次へ」ボタンをクリック

- 3 受信側（送信先）でファイルの受け取りを承諾する



メモ

受信側のBluetooth機器でのファイル受信については、機器により異なるので受信側の機器のマニュアルをご覧ください。

受信側で受信を許可すると、「Bluetooth ファイル転送」上でファイルの送信が開始されます。「ファイルが正しく転送されました」と表示されれば送信終了です。

- 4 「完了」ボタンをクリック

ファイルの受信



チェック

接続したBluetooth機器の設定変更の方法は、機器に添付のマニュアルを参照ください。

- 1 タスク バーの通知領域の をクリックして表示される (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「設定を開く」をクリック



メモ

(Bluetooth デバイス) がない場合は、「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 198)」をご覧ください。

- 2 「オプション」タブの「検出」の「Bluetooth デバイスによるこの PC の検出を許可する」にチェックを付ける

- 3 タスク バーの通知領域の をクリックして表示される (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「ファイルの受信」をクリック

「Bluetooth ファイル転送」画面が表示されます。

4 送信側で送信する

「デバイスの追加」が表示された場合は、クリックし手順にしたがってください。

5 「受信したファイルの保存」でファイルの保存先を選択し、「完了」をクリックする

Bluetooth機器の接続の切断

接続先のデバイスのマニュアルを参照し、切断してください。


Bluetooth機器の登録削除

使用しないBluetooth機器の登録を削除する場合は、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域の をクリックして表示される (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「Bluetooth デバイスの表示」をクリック



メモ

 (Bluetooth デバイス) がない場合は、「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 198)」をご覧ください。
Bluetooth機能をオンにしてください。

Bluetooth機器の一覧が表示されます。

2 登録を削除したいBluetooth機器のアイコンをクリックし、「デバイスの削除」ボタンをクリック

3 「このデバイスを削除しますか？」と表示されたら「はい」ボタンをクリック

Bluetooth機能のオン/オフ

[023105-28]

Bluetooth機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。


- ▶ ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）で切り替える..... 198
- ▶ 「PC設定の変更」で切り替える..... 199



チェック

他の機器に影響を与える場合やBluetooth機能を使用しない場合、Bluetooth機能が使用できない環境で本機を使用する場合は、Bluetooth機能をオフにしてください。

Bluetooth機能の状態については、タスクバーの通知領域の  をクリックして表示されるアイコンで確認できます。

アイコン	Bluetooth機能の状態
	スタンバイ/動作中
アイコン無し	オフ

ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）で切り替える

【Fn】 + 【F2】 を押すことで、Bluetooth機能を含むワイヤレス機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- この方法でオフにした場合、Bluetooth機能を含むすべてのワイヤレス機能がオフになります。
- Bluetooth機能を含むワイヤレス機能をオンにした時に、Bluetoothのドライバのインストールが始まった場合は、インストールが完了するまでお待ちください。また、再起動を促すメッセージが表示された場合は、本機を再起動してください。
- Intel® WiDiを使用している場合、接続に利用している無線LAN機能もオフになるため使用できなくなります。
- Bluetooth機能のオン/オフ切り替え時、ドライバの組み込み/取り外しに時間がかかる場合があります。再度、Bluetooth機能のオン/オフを行う場合は、切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。切り替えが完了しないうちに、連続してオン/オフの操作を行わないようにしてください。



参照

- **【Fn】について**
「キーボード」の「キーの使い方 (P. 81)」
- **BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について**
『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」および「設定項目一覧」

「PC設定の変更」で切り替える

Bluetooth機能のみをオフにしたい場合は、「PC設定の変更」でBluetooth機能をオフにしてください。
「PC設定の変更」でのBluetooth機能のオン/オフの切り替えは、次の手順で行います。



チェック

この方法で切り替えるには、Bluetooth機能がオンになっている必要があります。Bluetooth機能がオフになっている場合は、ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）を押して、Bluetooth機能をオンにしてください。

オンにする

1 チャーム バーを表示し、「設定」 → 「PC設定の変更」 → 「PCとデバイス」 → 「Bluetooth」をクリック

2 「Bluetooth」をオンにする

オフにする

1 チャーム バーを表示し、「設定」 → 「PC設定の変更」 → 「PCとデバイス」 → 「Bluetooth」をクリック

2 「Bluetooth」をオフにする

セキュリティ機能

[022500-28]

本機で利用可能なセキュリティ機能について説明しています。

➤ セキュリティ機能について.....	201
➤ スーパバイザパスワード/ユーザパスワード.....	202
➤ ハードディスクパスワード機能.....	203
➤ I/O制限.....	204
➤ 盗難防止用ロック.....	205
➤ DEP (Data Execution Prevention) 機能.....	206
➤ 暗号化ファイルシステム (EFS)	207
➤ インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジー.....	208
➤ ウイルス検出・駆除.....	209
➤ セキュリティチップ機能.....	210
➤ NASCA.....	211
➤ DeviceLock Lite.....	212

セキュリティ機能について

[022501-28]

本機には、機密データの漏えいや改ざんを防止したり、コンピュータウイルスの侵入を防ぐために、次のようなセキュリティ機能があります。



チェック

- お使いのモデルによっては使用できない場合があります。詳しくは各機能の説明をご覧ください。
- 工場出荷時にインストールされていない機能やアプリケーションのインストールには、光学ドライブが必要です。
- 本機の各種セキュリティ機能は、完全なセキュリティを保証するものではありません。セキュリティ機能を使用している場合でも、重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

➤ スーパーバイザパスワード/ユーザパスワード.....	202
➤ ハードディスクパスワード機能.....	203
➤ I/O制限.....	204
➤ 盗難防止用ロック.....	205
➤ DEP (Data Execution Prevention) 機能.....	206
➤ 暗号化ファイルシステム (EFS)	207
➤ インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジー.....	208
➤ ウイルス検出・駆除.....	209
➤ セキュリティチップ機能.....	210
➤ NASCA.....	211
➤ DeviceLock Lite.....	212

スーパバイザパスワード/ユーザパスワード

[022502-28]

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードは、BIOSセットアップユーティリティの起動や設定、本機の使用を制限するためのパスワードです。

BIOSセットアップユーティリティの使用者の制限

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードを設定すると、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示されます。スーパバイザパスワードまたはユーザパスワードを入力しない限り、BIOSセットアップユーティリティは起動できません。

また、ユーザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定可能な項目が制限されます。本機の管理者と使用者が異なるときに、使用者が設定変更してしまうことを防止する場合などに有効です。

本機の不正使用の防止（BIOS認証）

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードを設定し、BIOSセットアップユーティリティの「Security」メニューで「Password Check」を「Always」に変更してください。

本機の起動時にパスワード入力画面が表示され、本機を使用するにはスーパバイザパスワードまたはユーザパスワードの入力が必要になります。



チェック

- ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードが設定されていなければ設定できません。
- NECに本機の修理を依頼される際は、設定してあるパスワードは解除しておいてください。
- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れてしまった場合、有償での解除処置となります。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

ハードディスクパスワード機能

[022503-28]

本機のSSDにハードディスクパスワードを設定することで、本機のSSDを本機以外のパソコンに取り付けて使用するときにはパスワードの入力が必要になり、不正使用や重要なデータの漏えいを防止できます。

ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードの2つがあります。

■ ハードディスクマスタパスワード

管理者がハードディスクの認証やハードディスクパスワードの設定変更を行うパスワードです。

■ ハードディスクユーザパスワード

使用者がSSDの認証やハードディスクパスワードの設定変更を行うためのパスワードです。



チェック

- ハードディスクユーザパスワードは、ハードディスクマスタパスワードが設定されていない場合は設定できません。
- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除または無効にしておいてください。また、起動できずにパスワードを解除または無効にできない場合は、修理から戻ってきた際に、使用していたマスタパスワードとユーザパスワードを再設定してください。
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックの解除はできません。SSDに保存されているデータは二度と使用できなくなり、SSDも有償で交換することになります。ハードディスクパスワードは忘れないように十分注意してください。



参照

ハードディスクパスワードの設定について

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

I/O制限

[022504-28]

本機では、BIOSセットアップユーティリティで、各種デバイスのI/O（データの入出力）を制限することができます。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスや、システムに影響を及ぼすアプリケーションのインストールを制限することができます。

本機では、次のデバイスのI/Oを制限することができます。

- 光学ドライブ※1
- SD（SDHC/SDXC）メモリーカードスロット
- USBコネクタ
- HDMIコネクタ
- 無線LAN
- Webカメラ※4
- NXパッド
- タッチパネル
- センサーデバイス

※1 USB接続の光学ドライブを使用する場合は、USBコネクタを制限することで使用を制限します。

※4 Webカメラが搭載されているモデルの場合のみ



参照

I/O制限について

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「「Advanced」メニュー」

盗難防止用ロック

[022505-20]

別売のセキュリティーケーブル（PC-VP-WS16）を利用することで、本機を机などに繋ぐことができ、本機の盗難防止に効果的です。



チェック

当社製セキュリティーケーブル（PK-SC/CA01）は、本機では使用できません。ご注意ください。



参照

盗難防止用ロックについて

「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 29)」

DEP (Data Execution Prevention) 機能

[022507-28]

不正なプログラムやデータの実行をハードウェア的に防止する機能です。コンピュータウイルスが不正にプログラムコードを書き込んだり、実行しないようにすることができます。

暗号化ファイルシステム（EFS）

[022510-28]

EFS（Encrypting File System）は、Windows 8.1の標準ファイルシステムであるNTFSが持つファイルやフォルダの暗号化機能です。暗号化を行ったユーザー以外、データ復号化が行えないため、高いセキュリティ効果をもたらすことが可能です。

インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジー

[022519-28]

本機は、インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジーに対応しています。

インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジーに対応したWebサイトにアクセスする際、ユーザー名やパスワードなどに、30秒ごとに更新されるワンタイムパスワードを組み合わせることで、不正アクセス防止を強化します。

ウイルス検出・駆除

[022508-28]



チェック

マカフィー リブセーフは、工場出荷時にはインストールされていません。

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うためのアプリケーションとして「マカフィー リブセーフ」が添付されています。



参照

マカフィー リブセーフについて

「便利な機能とアプリケーション」の「マカフィー リブセーフ (P. 319)」

セキュリティチップ機能

[022509-28]

本機はTPM (Trusted Platform Module) と呼ばれるセキュリティチップを実装しており、セキュリティチップ内で暗号化や復号化、鍵の生成を行うことで、強固なセキュリティを実現します。

また、セキュリティチップ上に暗号化キーを持つため、SSDを取り外して持ち出されても、セキュリティチップ上の暗号化キーを用いて暗号化したデータは読み取られることはありません。



参照

セキュリティチップ機能について

「セキュリティチップ ユーティリティ」 - 「概要 (P. 214)」



チェック

- NASCAは、工場出荷時にはインストールされていません。
- セキュリティチップを利用した機能を利用する場合は、「[セキュリティチップを有効にする \(P. 217\)](#)」をご覧ください。

NASCAは、複数の認証方法を使用した高度な個人認証機能です。

認証情報を登録していない第三者が本機を使用することを防止したり、Webサイトへのアクセスやアプリケーションの実行に必要な情報（パスワードなど）を自動的に保存、入力することができます。

保存された情報は、セキュリティチップと連携することによって、安全に管理されます。



参照

NASCAについて

「アプリケーションディスク」の「NASCA」フォルダの「NASCA User's Guide.chm」



チェック

DeviceLock Liteは、工場出荷時にはインストールされていません。

DeviceLock Lite（以下、DeviceLock）は、各種周辺機器の使用を制限することができるアプリケーションです。



参照

DeviceLockについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[DeviceLock Lite \(P. 288\)](#)」

セキュリティチップ ユーティリティ

[040000-28]

➤ 概要.....	214
➤ セキュリティチップ機能を利用する準備.....	216
➤ セキュリティチップ ユーティリティの使い方.....	232
➤ 利用できるセキュリティ機能.....	238
➤ セキュリティチップ機能のバックアップと復元.....	246
➤ その他の注意事項.....	255
➤ セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール.....	259

概要

[040101-28]

セキュリティチップ ユーティリティでは、電子メールの保護機能や、ファイルとフォルダの暗号化 (EFS) 機能、Personal Secure Drive (PSD) 機能を利用することができます。

セキュリティチップ ユーティリティで保護されたファイルは、認証パスワードがないと開くことはできません。

本機は、本体にハードウェア的にTPM (Trusted Platform Module) と呼ばれるセキュリティチップを実装し、セキュリティチップ内で暗号化や復号化、鍵の生成を行うことで、強固なセキュリティを実現します。

また、セキュリティチップ上に暗号化キーを持つため、SSDを取り外して持ち出されても、セキュリティチップ上の暗号化キーを用いて暗号化したデータは読み取られることはありません。

セキュリティチップ ユーティリティをインストールすると、セキュリティチップ ユーティリティで暗号化したファイルを開くときなどに「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示されます。ここでパスワードを入力しなかった場合、暗号化されているファイルなどを開くことはできません。パスワードを入力し、認証されたユーザーだけがアクセスできます。

管理者はセキュリティポリシーを設定できるので、必要に応じてユーザーのアクセス権限を変更してセキュリティを管理できます。



機能や操作方法の詳細については、以下をご覧ください。

機能や操作方法の詳細

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ (セキュリティチップ ユーティリティを表示し、「Infineon Security Platform 設定ツール」画面にある「ヘルプ」ボタンをクリック)



参照

セキュリティチップ ユーティリティの表示について

「セキュリティチップ ユーティリティの使い方 (P. 232)」



チェック

- セキュリティチップ ユーティリティをインストールした場合は、Windows 8.1標準のセキュリティチップ機能は使用しないでください。
- セキュリティチップは、データやハードウェアの完全な保護を保証していません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意して、運用を行ってください。



メモ

カスタムテキストサイズの設定（DPI）が100%以外の場合、セキュリティチップ ユーティリティの画面からはみ出る場合があります。その場合は、カスタムテキストサイズの設定（DPI）を下げ（または100%に変更して）ご使用ください。

セキュリティチップ機能を利用する準備

[040200-28]

➤ セキュリティチップを有効にする.	217
➤ スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードの設定.	219
➤ セキュリティチップ ユーティリティのインストール.	220
➤ Security Platformの初期化.	222
➤ Security Platform ユーザーの初期化.	228

セキュリティチップを有効にする

[040201-28]

本機のセキュリティチップ機能を利用するには、BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップを有効にする必要があります。



チェック

- BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップ機能を有効にしていない場合、本機にセキュリティチップユーティリティをインストールすることはできません。
- Windowsの機能を使用した「PCのリセット」や本機の再セットアップを行った場合、または別売のOSを利用する場合は、セキュリティチップ機能を有効にする前にセキュリティチップの初期化を行ってください。
セキュリティチップの初期化手順については、「トラブル解決Q&A」の「セキュリティチップ機能」-「パスワードを忘れてしまった (P. 357)」をご覧ください。

セキュリティチップ機能を有効にするには、次の手順でBIOSセットアップユーティリティの設定をしてください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」-「BIOSセットアップユーティリティについて」

2 「Security」メニューの「Security Chip Configuration」を選択し、【Enter】を押す

3 「Security Chip Selection」が「dTPM 1.2」になっていることを確認する

「dTPM 1.2」の場合は手順4から7の手順は行わずに手順8に進んでください。

「PTT」の場合は「dTPM 1.2」に変更し、手順4に進んでください。

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

6 すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

7 「Security」メニューの「Security Chip Configuration」を選択し、【Enter】を押す

8 「TPM Support」が「Enabled」になっていることを確認する

「Disabled」の場合は「Enabled」に変更してください。

9 「Change TPM State」を「Enable&Activate」にする

10 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

11 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

12 Windowsの起動後、本機を再起動する



チェック

本機のセキュリティチップ機能の設定は、「Change TPM State」を「Clear」にすることで初期化することができます。

このため、セキュリティチップ機能をご利用になる場合は、第三者にセキュリティチップの設定を初期化されないように、スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定して、セキュリティを強化することをおすすめします。

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードの設定

[040202-28]

本機でセキュリティチップ機能をお使いになる場合は、BIOSセットアップユーティリティにスーパバイザパスワード、またはユーザパスワードを設定して管理することをおすすめします。BIOSセットアップユーティリティにパスワードを設定しておくことで、第三者にセキュリティチップ機能を初期化、または無効化されることを防ぐことができます。

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードの設定をしない場合は「[セキュリティチップ ユーティリティのインストール \(P. 220\)](#)」をご覧ください。



参照

スーパバイザパスワード、ユーザパスワードについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー」

セキュリティチップ ユーティリティのインストール

[040203-28]

本機のセキュリティチップ機能を利用するためには、セキュリティチップ ユーティリティのインストール、初期設定が必要になります。



チェック

- セキュリティチップ ユーティリティのインストールは必ず管理者 (Administrator) 権限を持つユーザー (ユーザー名は半角英数字) で行ってください。
- 光学ドライブが添付されていないモデルをお使いの場合は、別売の光学ドライブが必要です。
- BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップ機能を有効にしていない場合、セキュリティチップ ユーティリティのインストールはできません。「[セキュリティチップを有効にする \(P. 217\)](#)」をご覧ください。

次の手順で、セキュリティチップ ユーティリティをインストールしてください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 10)」

1

Windowsを起動する

2

光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3

アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

4

「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥TPM¥Setup.exe



メモ

光学ドライブがDドライブ以外の場合は、先頭の「D」を、お使いの光学ドライブのドライブ文字に置き換えて入力してください。

5

「Infineon TPM Professional Package - InstallShield Wizard」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリック

- 6 「使用許諾契約」と表示されたらライセンス契約を読み、「ライセンス契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

- 7 「ユーザ情報」と表示されたら「ユーザー名」と「所属」を入力し、「次へ」ボタンをクリック

- 8 「セットアップタイプ」と表示されたら「すべて」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリック

- 9 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら「インストール」ボタンをクリック

- 10 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら「完了」ボタンをクリック
「Readme ファイルを表示する」にチェックを付けていると、Readmeファイルが表示されます。

- 11 再起動を促すメッセージが表示されたら「いいえ」ボタンをクリック

- 12 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でセキュリティチップユーティリティのインストールは完了です。
「[Security Platformの初期化 \(P. 222\)](#)」に進んでください。

Security Platformの初期化

[040204-28]

セキュリティチップ ユーティリティのインストールが完了したら、次にSecurity Platformの初期化を行います。

Security Platformの初期化には、「[クイック初期化 \(P. 222\)](#)」と「[詳細設定初期化 \(P. 224\)](#)」の2つがあります。「クイック初期化」では、Security Platformの基本的な機能の設定を一度に行うことができます。より詳細な設定を行いたい場合は、「[詳細設定初期化](#)」を選択してください。



チェック

「[詳細設定初期化](#)」では、セキュリティチップ機能のバックアップに必要なファイルの設定、各機能のファイルの保存先の変更など、より詳細な設定を行うことができます。「[詳細設定初期化](#)」は、Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプをご覧ください。行うことをおすすめします。

クイック初期化

クイック初期化を行う場合は、次の手順で行ってください。



チェック

手順の途中で「[ユーザー アカウント制御](#)」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「[ユーザー アカウント制御](#)」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 10)」

1 タスク バーの通知領域の をクリック

2 を右クリックし、表示されたメニューから「 Security Platform の初期化」をクリック

「Security Platform クイック初期化ウィザード」が表示されます。

3 「クイック初期化」を選択する

4 「使用するドライブ」欄でシークレットデータの保存先を選択し、「次へ」ボタンをクリック

保存先にリムーバブルメディア以外を選択した場合は、確認のメッセージが表示されるので、内容を確認し「はい」ボタンをクリックしてください。



チェック

クイック初期化選択時に作成されるシークレットデータは、管理と緊急時に必要になります。データの保存先には、リムーバブルメディアの使用をおすすめします。保存先にリムーバブルメディアを選択しない場合、初期化設定完了時に追加のデータ保護が必要になります。詳しくはInfineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプをご覧ください。

5 「設定」画面が表示されたら、Security Platformで使用する機能にチェックを付ける

選択できる機能は次の通りです。

- ハードウェアによる暗号化ファイル システム (EFS)
- Personal Secure Drive (PSD)



参照

各機能の概要について

- 「利用できるセキュリティ機能 (P. 238)」
- Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

6 「基本ユーザー パスワードを設定してください。Security Platform 機能を使うために必要な基本ユーザー キーをこのパスワードで保護します」欄と「新しいパスワードの確認入力」欄にパスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック

「サマリー」画面が表示されます。

7 「次へ」ボタンをクリック

「ウィザードが正常に終了しました」と表示されます。

手順4でシークレットデータの保存先にリムーバブルメディアを選択した場合は、手順12へ進んでください。リムーバブルメディア以外を選択した場合は、手順8へ進んでください。

8 「詳細」ボタンをクリック

9 「プロトコル ファイル」画面が表示されたら、「保存」または「印刷」を選択し、作成したシークレットデータを保管する



チェック

シークレットデータを含んだプロトコル ファイルを保存、もしくは印刷して保管することをおすすめします。詳しくはInfineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプをご覧ください。

10 シークレットデータを含んだプロトコル ファイルを保存、もしくは印刷が完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

11 確認のメッセージが表示されたら、内容を確認し「OK」ボタンをクリック

12 「完了」ボタンをクリック

13 Windowsを再起動する

以上でSecurity Platformのクイック初期化は完了です。



チェック

- クイック初期化でSecurity Platformの初期化を行ったユーザーは、「Security Platform ユーザーの初期化」は完了しています。「Security Platform ユーザーの初期化」を行う必要はありません。クイック初期化完了後に詳細な設定を行いたい場合は、「Security Platform 設定ツール」から設定を行うことができます。
- Security Platformの初期化の途中でフリーズした場合は、本機の電源を切り、「トラブル解決Q&A」の「セキュリティチップ機能」-「パスワードを忘れてしまった (P. 357)」で、BIOSセットアップユーティリティからセキュリティチップを初期化してから、Security Platformの初期化をやりなおしてください。
- 初期化完了後は、設定ツールの「バックアップ」タブからバックアップを行ってください。バックアップについては詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

詳細設定初期化

詳細設定初期化を行う場合は、次の手順で行ってください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 10)」

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「 Security Platform の初期化」をクリック

「Security Platform クイック初期化ウィザード」が表示されます。

3 「詳細設定初期化」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform 初期化ウィザードへようこそ」画面が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリック

5 「初期化」画面が表示されたら、「Security Platform の初期化」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

6 「Security Platform の機能を選択してください」と表示されたら、「BitLocker ドライブ暗号化」のチェックを外し、「次へ」ボタンをクリック

「自動バックアップ」画面が表示されます。

7 「参照」ボタンをクリックし、自動バックアップを行う場所とファイル名を指定して「保存」ボタンをクリック

8 「スケジュール」ボタンをクリック

9 自動で緊急時復元用のバックアップ アーカイブを作成するスケジュールを設定し、「OK」ボタンをクリック

10 「次へ」ボタンをクリック

「緊急時復元」画面が表示されます。

11 「新しい復元用トークンを作成する」を選択する

12 復元用トークンを保存する場所を変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、復元用トークンを保存する場所とファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリック



チェック

復元用トークンは、セキュリティチップが破損した場合など、緊急時のSecurity Platform復元の際に必要となります。USBメモリなどの外部メディアに保存し、紛失しないよう保管してください。



メモ

「ファイルの場所」には初期値として、「ドキュメント」の「Security Platform ¥SPEmRecToken.xml」が指定されています。

13 「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄に復元用トークンのパスワードを入力する

14 「次へ」ボタンをクリック

「パスワード リセット」画面が表示されます。

15 「新しいトークンを作成する」を選択する

16 パスワードリセットトークンを保存する場所を変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、パスワードリセットトークンを保存する場所とファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリック



メモ

「ファイルの場所」には初期値として、「ドキュメント」の「Security Platform ¥SPPwdResetToken.xml」が指定されています。

17 「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄にパスワードリセットトークンのパスワードを入力する

18 「次へ」ボタンをクリック

「サマリー」画面が表示されます。

19 「次へ」ボタンをクリック

「ウィザードが正常に終了しました。」と表示されます。

20 「自動バックアップを今すぐ実行する」にチェックが付いていることを確認する

チェックが付いていない場合は、チェックを付けてください。



メモ

バックアップのファイル名は「SpSystemBackup_<コンピュータ名>.xml」です。このファイルおよび、同時に作成される「SpSystemBackup_<コンピュータ名>」フォルダ内のファイル「SPSystemBackupConfig.xml」、「SPSystemBackupData.xml」は復元処理に必要不可欠のファイルです。

21 Security Platformの初期化終了後に、Security Platform ユーザー初期化ウィザードを起動する場合は、「Security Platform ユーザー初期化ウィザードを起動する」にチェックを付ける

22 「完了」ボタンをクリック

Security Platformの初期化終了と同時に自動でバックアップファイルが作成されます。

以上でSecurity Platformの初期化は完了です。

「[Security Platform ユーザーの初期化 \(P. 228\)](#)」に進んでください。



チェック

Security Platformの初期化の途中でフリーズした場合は、本機の電源を切り、「トラブル解決Q&A」の「セキュリティチップ機能」-「[パスワードを忘れてしまった \(P. 357\)](#)」で、BIOSセットアップユーティリティからセキュリティチップを初期化してから、Security Platformの初期化をやりなおしてください。

Security Platform ユーザーの初期化

[040205-28]

Security Platformの初期化が完了したら、次の手順でSecurity Platform ユーザーの初期化を行ってください。



チェック

- Security Platformの初期化を「クイック初期化」で行ったユーザーは、「Security Platform ユーザーの初期化」を行う必要はありません。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 10)」

1 タスク バーの通知領域の をクリック

2 を右クリックし、表示されたメニューから「Security Platform ユーザーの初期化」をクリック

「Security Platform クイック初期化ウィザード」が表示されます。

3 「詳細設定初期化」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform ユーザー初期化ウィザードへようこそ」画面が表示されます。



チェック

「クイック初期化」を選択した場合は、「[クイック初期化 \(P. 222\)](#)」の手順をご覧ください。

4 「次へ」ボタンをクリック

「基本ユーザー パスワード」画面が表示されます。

5 「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄に基本ユーザー パスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック

「基本ユーザー パスワードのリセット」画面が表示されます。

6 「緊急時の基本ユーザー パスワードのリセットを有効にする」にチェックが付いていることを確認する

7 個人シークレットを保存する場所を変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、個人シークレットを保存する場所とファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリック



メモ

「ファイルの場所」には初期値として、「ドキュメント」の「Security Platform¥SPPwdResetSecret_<コンピュータ名>_<ユーザー名>.xml」が指定されています。

8 「次へ」ボタンをクリック

「パスワードと認証」画面が表示されます。

9 「次へ」ボタンをクリック

「Security Platform の機能を選択してください」と表示されます。

10 Security Platformで使用する機能にチェックを付けて、「次へ」ボタンをクリック

選択できる機能は次の通りです。

- 電子メールの保護
- ファイルとフォルダの暗号化 - 暗号化ファイルシステム (EFS)
- ファイルとフォルダの暗号化 - Personal Secure Drive (PSD)



参照

各機能の概要について

- 「利用できるセキュリティ機能 (P. 238)」
- Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

11 電子メールの設定について確認する

手順10で「電子メールの保護」にチェックを付けた場合は、「電子メールの保護の設定をしてください」画面が表示されます。

必要に応じて、電子メールの設定についての確認を行ってください。

手順10で「電子メールの保護」のみにチェックを付けた場合は、「次へ」ボタンをクリックし手順21へ進んでください。

12 「次へ」ボタンをクリック

13 「暗号化証明書」と表示されたら、次の操作を行う

- **自動で新規に作成される証明書を使用する場合**
手順15に進んでください。
- **すでにある証明書を使用するなど、手動で証明書を選択する場合**
「変更」ボタンをクリックし、手順14に進んでください。

14 リストから使用する証明書を選択し、「選択」ボタンをクリック



チェック

利用できる証明書がない場合は、ドメイン内の証明機関へ証明書を要求したり、「作成」ボタンで自己署名付きの証明書を作成したりできます。また、「インポート」ボタンで別のファイルからインポートすることや外部の証明機関へ証明書を要求することもできます。証明書は「表示」ボタンで情報を確認できます。

詳しくは「ヘルプ」ボタンをクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

15 「次へ」ボタンをクリック

手順10で「ファイルとフォルダの暗号化 - 暗号化ファイルシステム (EFS)」にチェックを付けた場合は、「暗号化ファイル システム (EFS) を設定してください」と表示されます。

手順16に進んで設定を行ってください。

チェックを付けていない場合は、手順17に進んでください。



チェック

「古い暗号証明書は既存の暗号化されたデータを復号化するために必要です。」と表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。

16 「EFS フォルダ」にチェックを付け、「次へ」ボタンをクリック

必要に応じて、「デスクトップ ショートカット」にもチェックを付けてください。

17 Personal Secure Driveに割り当てるドライブ文字とドライブ ラベルを設定する

手順10で「ファイルとフォルダの暗号化 - Personal Secure Drive (PSD)」にチェックを付けた場合は、「Personal Secure Drive を設定してください」と表示されます。

チェックを付けていない場合は、手順20に進んでください。



チェック

Personal Secure Driveに使用するドライブ文字は、既存のドライブ文字と重複しない未使用の文字を選択してください。

18 必要に応じて次の設定を行い、「次へ」ボタンをクリック

- **Personal Secure Driveをサインイン時にロードする場合**
「Personal Secure Drive をログオン時にロードする」にチェックを付ける

- デスクトップにPersonal Secure Driveのショートカットを作成する場合
「デスクトップ ショートカットの作成」にチェックを付ける

19 Personal Secure Driveの容量と保存するドライブを設定して、「次へ」ボタンをクリック



チェック

Personal Secure Driveの実際の容量は、ここで設定した値よりも少なめになります。使用したい容量よりも多めの値を設定するようにしてください。

20 「設定の確認（ステップ 2）」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

21 「ウィザードが正常に終了しました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

22 Windowsを再起動する

以上でSecurity Platform ユーザーの初期化は完了です。



チェック

Security Platform ユーザーの初期化の途中でフリーズした場合は、本機の電源を切り、「トラブル解決 Q&A」の「セキュリティチップ機能」-「パスワードを忘れてしまった (P. 357)」で、BIOSセットアップユーティリティからセキュリティチップを初期化してから、「Security Platformの初期化 (P. 222)」からやりなおしてください。

セキュリティチップ ユーティリティの使い方

[040301-28]

セキュリティチップ ユーティリティの表示

セキュリティチップ ユーティリティを使うと、ファイルとフォルダの暗号化 (EFS) 機能、Personal Secure Drive (PSD) 機能のほか、ユーザーの管理や暗号化キー、証明書の発行や移行、復元などができます。

セキュリティチップ ユーティリティには、管理者特権がある状態と管理者特権のない状態があり、それぞれ次の手順で表示します。

管理者特権のある状態で表示する場合



チェック

- 管理者特権のある状態でセキュリティチップ ユーティリティを表示するには、Windowsに管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーでサインインしてください。標準ユーザーのアカウントでは、管理者特権のある状態でセキュリティチップ ユーティリティを表示することはできません。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。





参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 10)】

●通知領域から表示する場合

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「 Security Platformを管理する」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

「Infineon Security Platform 設定ツール」の左側に「管理者」と表示されます。

●アプリ画面から表示する場合

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「Security Platform の管理」を右クリック

2 アプリ バーにある「管理者として実行」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

「Infineon Security Platform 設定ツール」の左側に「管理者」と表示されます。



管理者特権のない状態で表示する場合




チェック

管理者特権のない状態でセキュリティチップ ユーティリティを表示した場合、設定可能な項目が制限されます。

●通知領域から表示する場合

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「Security Platform を管理する」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

●アプリ画面から表示する場合

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「Security Platform の管理」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。



メモ

セキュリティチップ ユーティリティは、コントロール パネルから表示することもできます。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「Infineon Security Platform」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

タブの機能、パスワードリセット

タブの機能

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面右下の「ヘルプ」ボタンをクリックすると、表示されているタブごとに設定できる機能や、関連した機能について説明しているオンラインヘルプが表示されます。それぞれのタブにあるボタンや機能について詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

● 「全般」タブ

セキュリティチップの状態や、Infineon Security Platform 設定ツールのバージョンや設定内容を確認することができます。

● 「ユーザー設定」タブ

基本ユーザーのパスワード変更や、Security Platformの機能を設定できます。

● 「バックアップ」タブ

自動システムバックアップの設定や、システムバックアップからの復元、ユーザーごとの手動バックアップと復元を行うことができます。



チェック

管理者特権のない状態では、現在のユーザーの手動バックアップと復元のみ利用可能です。

● 「移行」タブ

Infineon Security Platform 設定ツールで設定した暗号化キーや証明書を、他のセキュリティチップ搭載コンピュータでも利用できるように移行や認証を行うことができます。



チェック

- 管理者特権のない状態では、Security Platformの情報の保存と移行の承認は行えません。
- 暗号化キーや証明書の移行ができるのは、Windows 8.1 Proをインストールしたコンピュータ同士のみです。

● 「パスワード リセット」タブ

各ユーザーのパスワードリセット トークンの作成や、パスワードのリセットを行うことができます。



チェック

管理者特権のない状態では、現在のユーザーに対しての、パスワードリセットの有効化とパスワードリセットのみ行えます。

● 「BitLocker」タブ

BitLocker ドライブ暗号化の現在の状態を確認することができます。また、コントロール パネルの「BitLocker ドライブ暗号化」画面を表示し、設定を変更することができます。



チェック

「BitLocker」タブは管理者特権がある場合のみ表示されます。管理者特権のない状態では設定できません。

● 「アドバンス」タブ

Infineon Security Platform 設定ツールの所有者パスワードの変更や、各機能の設定の変更ができます。また、セキュリティポリシーの設定を変更することができます。

セキュリティポリシーを設定することで、利用可能な機能や設定を制限できます。



チェック

「アドバンス」タブは管理者特権がある場合のみ表示されます。管理者特権のない状態では設定できません。

パスワードのリセット

基本ユーザー パスワードを忘れてしまった場合、次の手順で基本ユーザー パスワードをリセットすることができます。ここでは、管理者に「Administrator」、一般ユーザーに「User1」がセットアップされている場合を例として説明します。



チェック

管理者ユーザーのパスワードリセット機能はサポートしておりません。

1

「Administrator」としてサインインする

2

管理者特権のある状態で「Infineon Security Platform 設定ツール」を表示する

3

「パスワード リセット」タブをクリックし、「基本ユーザー パスワードのリセット」 - 「管理タスク」にある「準備」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform パスワード リセット ウィザード」が表示されます。

4

パスワードをリセットするユーザーを選択する

「User1」を選択します。

5 「次へ」 ボタンをクリック

6 「リセット トークンの場所」 欄にファイルを指定し、「パスワード」 欄にこのファイルへのパスワードを入力する

7 「次へ」 ボタンをクリック

リセット承認コードとチェックサムが表示されます。

8 リセット承認コードおよびチェックサムをメモする、または「ファイルに保存」 ボタンでファイルに保存する

デフォルト名は「SPPwdResetCode.xml」となります。

9 「次へ」 ボタンをクリック

10 「完了」 ボタンをクリック

ウィザードが終了します。

11 「閉じる」 ボタンをクリック

12 Windowsをサインアウトする

以上で管理者の作業は終了です。
続いてパスワードをリセットするユーザー「User1」が作業を行います。

13 「User1」 でWindowsにサインインする

14 「Infineon Security Platform 設定ツール」 を表示する

15 「パスワード リセット」 タブをクリックし、「基本ユーザー パスワードのリセット」 - 「ユーザー タスク」にある「リセット」 ボタンをクリック

「Infineon Security Platform パスワード リセット ウィザード」が表示されます。

16 「ファイルを参照するか、あるいは個人シークレットを入力してください」 欄にファイルを指定し、「ファイルを参照するか、リセット承認コードを直接入力してください」 欄に管理者から渡されたコードを直接入力する、または、「ファイルから取得」 をクリックして、手順8で管理者が作成したファイルを指定して入力する

17 「次へ」 ボタンをクリック

18 新しいパスワードを「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄に入力し、「次へ」ボタンをクリック

「設定を確認してください」と表示されます。

19 「次へ」ボタンをクリック

基本ユーザーパスワードがリセットされます。

20 「完了」ボタンをクリック

ウィザードが終了します。

21 「閉じる」ボタンをクリック

利用できるセキュリティ機能

[040400-28]

➤ 電子メールの保護機能.	239
➤ ファイルとフォルダの暗号化（EFS）機能.	240
➤ Personal Secure Drive（PSD）機能.	243
➤ 辞書攻撃防御機能.	245

電子メールの保護機能

[040401-28]

お使いの電子メールソフトで、セキュリティチップユーティリティの証明書を利用して、暗号化による送受信メールの保護や、電子署名による安全な電子メールのやり取りをする機能です。

電子メールの保護機能について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

また、お使いの電子メールソフトで証明書を利用する方法については、電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。



参照

電子メールの保護機能について

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

ファイルとフォルダの暗号化（EFS）機能

[040402-28]

指定したファイルやフォルダを、AESやRSAなどのアルゴリズムを用いた高度な技術で暗号化する機能です。暗号化したファイルやフォルダは、Infineon Security Platform 設定ツールで認証されたユーザー以外は読み書きできなくなるので、第三者にファイルを盗み見られたり、改ざんされたりすることがなく、機密性と安全性が確保されます。

ファイルやフォルダの暗号化は、次の手順で設定できます。



チェック

- FAT32でフォーマットされたドライブでは、ファイルやフォルダの暗号化はできません。
- 次のフォルダは暗号化しないでください。
「C:¥Users¥<ユーザー名>¥AppData¥Local¥Microsoft」
「C:¥Users¥<ユーザー名>¥AppData¥Roaming¥Microsoft」
- デスクトップ (C:¥Users¥<ユーザー名>¥Desktop) にあるフォルダまたはショートカットの暗号化を行うと、Windowsサインイン時に「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面を表示します。Windowsサインイン時での基本ユーザーパスワードの入力を省きたい方は、デスクトップにあるフォルダまたはショートカットの暗号化を解除し、対象ファイルを個別に暗号化してください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 暗号化されたファイルを Windows ストア アプリ で参照する場合、ユーザー認証が行われていないとデスクトップに「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示されます。デスクトップで基本ユーザーパスワードを入力し、認証を行ってください。



参照

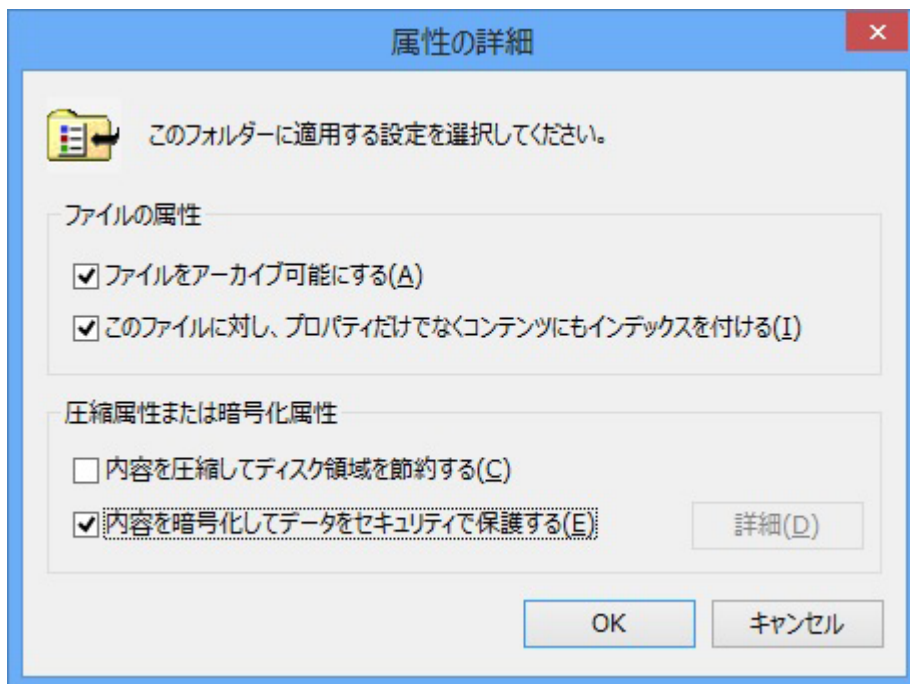
「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 10)」

1 暗号化したいファイルやフォルダを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック

2 「全般」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリック

3 「内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する」にチェックを付ける



4 「OK」 ボタンをクリック

5 「OK」 ボタンをクリック

6 「暗号化に関する警告」画面または「属性変更の確認」画面が表示された場合は、動作を選択して「OK」 ボタンをクリック


7 「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示された場合は、「基本ユーザー パスワード」欄に基本ユーザーパスワードを入力し、「OK」 ボタンをクリック

暗号化したファイルをロックする

EFS機能を利用してファイルやフォルダを暗号化している場合でも、一度パスワードを入力して認証を行うと、以後は暗号化したファイルにアクセスが可能になります。

再度、暗号化したファイルやフォルダをロックするには次の手順でEFSからのログアウトを行います。EFSからのログアウトの機能は、本機の再起動やWindowsからのサインアウトをせず、一時的に別の人に本機を使用させる際に、暗号化したファイルやフォルダへのアクセスを制限するのに有効です。

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「暗号化ファイル システム(EFS)からログアウトする」をクリック

また、EFSからログアウトする以外にも、次の場合に暗号化したファイルやフォルダがロックされ、アクセスするにはパスワードの入力が必要になります。

- 本機をシャットダウンする
- 本機を再起動する
- 本機をスリープ状態にする
- 本機を休止状態にする
- Windowsからサインアウトする

Personal Secure Drive (PSD) 機能

[040403-28]

Personal Secure Drive (PSD) 機能とは、SSDの一部に暗号化された仮想ドライブを作成して重要なデータを保護する機能のことです。ファイルやフォルダをPersonal Secure Driveに保存すると、自動的にデータが暗号化されます。Personal Secure Driveは、Infineon Security Platform 設定ツールで認証されたユーザーが使用する場合、データの暗号化と復号化が自動的に行われるので、暗号化や復号化を意識することなく利用できます。また、Personal Secure Driveは作成したユーザー以外には、ドライブ自体が見えなくなるため、第三者にアクセスされることがありません。

Personal Secure Drive (PSD) 機能は、保護したいファイルやフォルダをPersonal Secure Driveとして設定したドライブに移動、またはコピーすることで、自動的に暗号化され、パスワードを入力していないユーザーからはアクセスできなくなります。



チェック

- Personal Secure Drive機能を利用する設定にしていない場合は、Infineon Security Platform 設定ツールの「ユーザー設定」タブで、「Security Platform の機能」の「設定」ボタンをクリックし、Personal Secure Driveの設定を行ってください。設定方法については、「[Security Platform ユーザーの初期化 \(P. 228\)](#)」を参照してください。
- Personal Secure Driveを利用する設定にした場合は、Infineon Security Platform 設定ツールの「バックアップ」タブから手動バックアップを行い、PSD バックアップ イメージ ファイルを作成することをおすすめします。設定を行っただけではPSD バックアップ イメージ ファイルが作成されないため、復元時にPersonal Secure Driveが復元されません。
- Guestアカウントでサインインしている場合、Personal Secure Driveの作成はできません。

Personal Secure Drive のロード

Personal Secure Drive (PSD) をロードする方法は、必要なときにロードする方法とサインイン時にロードする方法があります。

次にそれぞれのロード方法を説明します。

必要なときにロードする

次の手順に従って、PSDをロードします。

1 タスク バーの通知領域の をクリック

2 を右クリックし、表示されたメニューから「Personal Secure Drive」→「ロードする」をクリック

「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示されます。

3 「基本ユーザー パスワード」欄にパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリック

PSDがロードされます。

サインイン時にロードする

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「Personal Secure Drive」→「ログオン時にロードする」を選択

次回サインイン時にPSDがロードされます。



メモ

サインインからPSDをロードするまでの手順は次の通りです。

1 サインインする

2 「Personal Secure Drive」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示されます。

3 「基本ユーザー パスワード」欄にパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリック

PSDがロードされます。

辞書攻撃防御機能

[040404-28]

パスワードで保護されたセキュリティを破るために用いられる「辞書攻撃」という手法から、本機を防御するための機能です。

セキュリティチップ ユーティリティやWindowsのBitLocker ドライブ暗号化など、セキュリティチップに関連する機能で、誤ったパスワードを10回入力すると一時的にパスワードの入力ができなくなります。再度、パスワードの入力を行うには、本機の再起動と一定時間の経過が必要です。

なお、再度、パスワードの入力が可能になるまでの時間は、誤入力の回数によって決定され、誤入力の回数が多いほど、入力可能になるまでの時間も長くなります。



参照

辞書攻撃防御、辞書攻撃防御機能

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

セキュリティチップ機能のバックアップと復元

[040500-28]

➤ セキュリティチップ機能のバックアップ.....	247
➤ セキュリティチップ機能の復元.....	250

セキュリティチップ機能のバックアップ

[040501-28]

セキュリティチップ機能のバックアップに関する注意

セキュリティチップやSSDの故障による修理後など、セキュリティチップ機能を故障前の状態に復元するためには、あらかじめ必要なデータ、ファイルのバックアップと情報の確認が必要です。

- 復元処理に必要なアーカイブファイル、バックアップファイルを必ず作成してください。バックアップについて、詳しくはオンラインヘルプをご覧ください。
- 復元を行うには、復元作業時に必要なファイルにアクセスできる環境が必要です。SSDの故障などにより、復元に必要なファイルを破損、消去した場合や、復元作業時にアクセスできないメディアに保存されている場合は復元は行えませんのでご注意ください。復元に必要なファイルは、USBメモリなどアクセスが容易な外部メディアに保存しておくことをおすすめします。

アーカイブファイル、バックアップファイルなどに関する注意

セキュリティチップのバックアップを実行することにより、「アーカイブファイル」「バックアップファイル」「復元用トークン」などのファイルが作成されます。これらのファイルは、ハードウェアの故障やSSDの故障などが発生した場合にセキュリティチップに格納されているユーザーキーや証明書などの復旧に利用します。そのため、これらのファイルを暗号化した場合、緊急時の復元ができなくなりますので、暗号化しないでください。

なお、バックアップファイルや復元用トークンなどのファイルは、バックアップ用のデータですので、サーバやリムーバブルメディアへの保存を強く推奨します。

下記のファイル名やフォルダ名は、詳細設定初期化を行った場合の初期設定の値です。

お使いの環境やSecurity Platformの初期化の方法によって内容が異なる場合がありますので、下記のファイルの詳細に関しては、オンラインヘルプをご覧ください。

- 【自動バックアップファイル】
ファイル名： **SpSystemBackup_<コンピュータ名>.xml**
- 【自動バックアップデータ格納フォルダ】
フォルダ名： **SpSystemBackup_<コンピュータ名>**
(自動バックアップファイル (SpSystemBackup_<コンピュータ名>.xml) が作成されるフォルダに、サブフォルダとして作成されます。)
- 【復元用トークン】
ファイル名： **SPEmRecToken.xml**
- 【パスワードリセットトークン】
ファイル名： **SPPwdResetToken.xml**
- 【パスワードリセットシークレットファイル】
ファイル名： **SPPwdResetSecret_<コンピュータ名>_<ユーザー名>.xml**
- 【キーと証明書用バックアップ】
ファイル名： **SpBackupArchive.xml**
- 【PSD バックアップ イメージ ファイル】
ファイル名： ***-Personal Secure Drive.fsb** (*には任意の文字が入ります)



参照

バックアップについて

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

復元に必要な情報とファイル

セキュリティチップ機能の復元には、次の情報とファイルが必要になります。

セキュリティチップの内容の復元に必要な情報・ファイル

- 緊急時復元用のバックアップ アーカイブ
セキュリティチップの内部情報やユーザー固有情報の一部を含む、重要なファイルです。
緊急時復元用のバックアップ アーカイブは、Infineon Security Platform 初期化ウィザードまたはInfineon Security Platform 設定ツールで設定した内容に従って、自動で作成されます。
- 復元用トークン
Infineon Security Platform 初期化ウィザードで作成した復元用トークンのファイルです。
- 復元用トークンのパスワード
Infineon Security Platform 初期化ウィザードで設定した、復元用トークンを使用するために必要なパスワードです。

ユーザー環境の復元に必要な情報・ファイル

- 基本ユーザー パスワード
- PSD バックアップ アーカイブ
Personal Secure Driveの内容を復元する場合は、PSD バックアップ イメージ ファイルが必要です。PSD バックアップ イメージ ファイルは、Infineon Security Platform 設定ツールの「バックアップ」タブで作成できます。

電子メールの保護機能を使用している場合、SSD故障時に受信済みの自分あての暗号メールも復号できる環境に復元するには、電子メールソフトのデータのバックアップも必要になります。

- 電子メールソフトのデータのバックアップ



チェック

- 復元に必要なファイルのうち、PSD バックアップ イメージ ファイルと電子メールソフトのデータのバックアップを除くファイルの保存に必要な容量は大きくても数10KB程度です。
- PSD バックアップ イメージ ファイルの容量は、Personal Secure Driveに設定した容量により異なります。
- 電子メールソフトのデータのバックアップは、環境にもよりますが数10MBから数100MBの容量が必要になる場合があります。
- 電子メールソフトのデータのバックアップについては、電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。

復元に必要な情報の確認とファイルのバックアップ

ここでは、セキュリティチップ機能の復元に必要な情報の確認とファイルのバックアップを行います。

設定、作成済みの情報、ファイルの確認

◆Infineon Security Platform 初期化ウィザードで設定済み、または作成済みのファイル

「復元に必要な情報とファイル」で説明した情報・ファイルのうち、次のものは、Infineon Security Platform 初期化ウィザードで設定済み、または作成済みのものです。

- 復元用トークン
- 復元用トークンのパスワード
- 基本ユーザー パスワード



チェック

- それぞれのパスワードは復元作業の際に入力が必要になる場合があります。
- 復元用トークンについては、復元用トークンのファイルを保存したUSBメモリなどの外部メディアを用意しておいてください。Security Platform初期化時にSSD上に作成した場合は、外部メディアにコピーしておくことをおすすめします。

◆設定により自動で作成されるファイル

次のファイルはInfineon Security Platform 初期化ウィザードまたはInfineon Security Platform 設定ツールで設定した内容に従って自動的に作成されます。

- 緊急時復元用のバックアップ アーカイブ



チェック

自動で作成する設定にしていない場合は、Infineon Security Platform 設定ツールで設定を変更し、自動的に作成するように設定することをおすすめします。

◆Infineon Security Platform 設定ツールで作成するファイル

次のファイルはInfineon Security Platform 設定ツールで作成します。

- PSD バックアップ アーカイブ



参照

PSD バックアップ アーカイブの作成

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

お使いの電子メールソフトのデータのバックアップ

◆メールデータのバックアップ

お使いの電子メールソフトのメールデータやアドレス帳のバックアップを行ってください。



メモ

データのバックアップについては、電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。

セキュリティチップ機能の復元

[040502-28]

セキュリティチップ機能の復元に関する注意

- セキュリティチップやSSDの故障による修理後など、セキュリティチップ機能を故障前の状態に復元するためには、あらかじめバックアップしたデータ、ファイルや情報が必要です。
- 復元作業は必ずSecurity Platformの「所有者」が行ってください。



メモ

ここでいう「所有者」とは、Security Platformの初期化を行ったユーザーを指します。



参照

復元について

Infinion Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

復元時のユーザー選択に関する注意

本機を複数のユーザーで利用している場合、復元処理実行中の「ユーザーの選択」で、セキュリティチップを利用しているユーザーをすべて選択し、復元を行う必要があります。

本機をドメインに接続した状態で運用している場合の注意

本機をドメインに接続した状態で運用している場合は、ドメインへの接続が可能な状態で復元作業を行ってください。

ネットワークに接続されていないなどドメインへの接続ができない状態で、ローカルの管理者でサインインして復元作業を行うと、「現在のユーザー」や「ユーザー名」にドメインのユーザーが表示されない場合があります。

その場合は、復元作業をキャンセルしドメインへの接続が可能な状態にしてください。

その後で、再度復元作業を開始し、ドメインのユーザー名が表示されることを確認してから、復元作業を継続してください。



チェック

ドメインのユーザーが表示されない状態のまま、復元作業を継続すると、ドメインのユーザーのセキュリティチップの設定が失われ、問題が発生します。

各ユーザーを復元する場合の注意

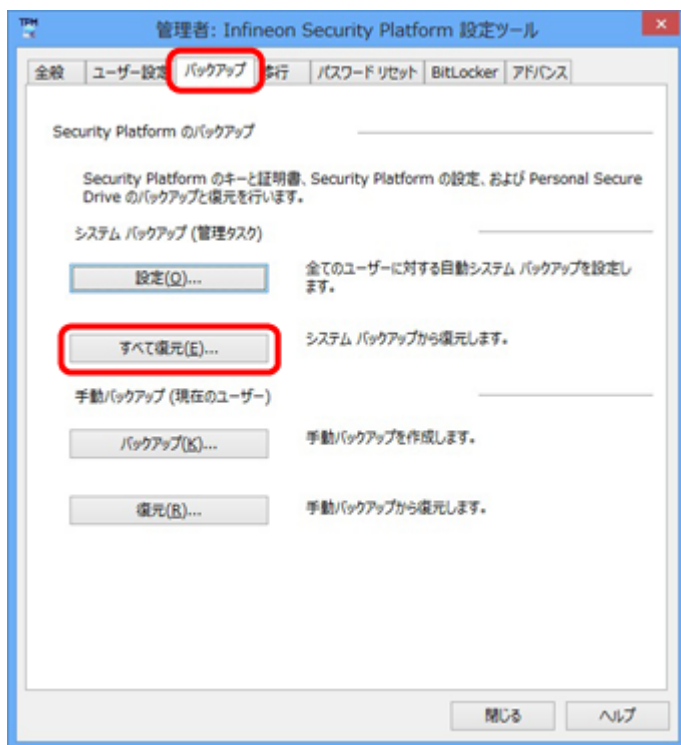
復元後にそれぞれのユーザーでサインインすると「基本ユーザーキーがロードできません」もしくは「キーと証明書及び設定を復元してください。」などのメッセージが表示されます。

その場合は、指示に従って復元を行ってください。

本機でセキュリティチップ機能を利用している、それぞれのユーザーでサインインして行ってください。

セキュリティチップ機能の復元方法

ここでは「Infineon Security Platform 設定ツール」の「バックアップ」タブの「すべて復元」ボタンからの復元方法を説明します。



復元手順



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 10)」

1 所有者のアカウントでサインインする

2 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「Security Platform の管理」を右クリック

3 アプリ バーにある「管理者として実行」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

4 「バックアップ」タブをクリック

5 「Security Platform の状態は、[初期化未了]です。初期化を開始しますか？」または「Security Platform の復元を初期化しますか？」と表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリック

6 「すべて復元」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform バックアップ ウィザード」が表示されます。

7 「参照」ボタンをクリックし、「復元するバックアップ データのあるファイルを指定してください」欄に、復元するバックアップファイルとして緊急時復元用のバックアップ アーカイブを指定して「次へ」ボタンをクリック

8 「トークンの選択」画面が表示された場合は、「緊急時復元用トークンの場所を指定してください」欄に、復元用トークンを指定する

9 「パスワード」欄に、緊急時復元用トークンファイルを保護しているパスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック

「ユーザーの選択」画面が表示されます。

10 「バックアップ データからのユーザー」欄で現在のユーザーアカウントに対して復元するユーザーを選択して、「次へ」ボタンをクリック



チェック

Infineon Security Platform バックアップウィザードで「ユーザーの選択」画面の表示時、本機にユーザーアカウントが設定されており、セキュリティチップ機能を利用するユーザーに対して、バックアップアーカイブ内の対応するユーザーを選択する必要があります。



メモ

コンピュータの別のユーザーアカウントに対する追加ユーザーを復元する場合は、「ユーザー名」欄に表示されているユーザーアカウントに対して、復元する追加ユーザーを「バックアップ データからのユーザー」欄で選択してください。

11 「パスワード」欄に基本ユーザー パスワードを入力して、「次へ」ボタンをクリック

12 「復元プロセスが開始するまでは、パスワードまたはパスフレーズを確認することができないことに注意してください。」と表示された場合は、「OK」ボタンをクリック

13 「サマリー」画面が表示されるので、内容を確認し「次へ」ボタンをクリック

14 「ウィザードが正常に終了しました。」と表示されたら「完了」ボタンをクリック

15 「閉じる」ボタンをクリック

これで復元は完了です。

この作業の後、「電子メールの保護」、「EFS」、「PSD」機能の設定は、個別のユーザーによって行われる必要があります。



参照

復元について

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

「PCのリフレッシュ」、「PCのリセット」、再セットアップ、およびユーティリティ再インストール時の復元について

次の操作の後には、復元を行う前に「[セキュリティチップ機能を利用する準備 \(P. 216\)](#)」の「セキュリティチップを有効にする」から「セキュリティチップ ユーティリティのインストール」までの手順を行い、ユーティリティのインストールを完了させてください。

完了したら「Security Platformの初期化」は行わず、セキュリティチップ機能の復元を行ってください。

- Windowsの機能を使用した「PCのリフレッシュ」
- Windowsの機能を使用した「PCのリセット」
- 再セットアップ
- セキュリティチップ ユーティリティの再インストール



チェック

- 「PCのリフレッシュ」、「PCのリセット」、再セットアップ、およびセキュリティチップ ユーティリティの再インストール時にトラブルが発生した場合、重要なデータの紛失につながります。これらの操作を行う場合は、バックアップファイルから復元処理をすることを強く推奨します。
また「PCのリセット」、再セットアップを行う場合は、セキュリティチップの初期化を行ってから、復元処理をしてください。
- セキュリティチップの初期化手順については、「[トラブル解決Q&A](#)」の「[セキュリティチップ機能](#)」 - 「[パスワードを忘れてしまった \(P. 357\)](#)」をご覧ください。

セキュリティチップ故障時の復元について

復元を行う前に、「[セキュリティチップ機能を利用する準備 \(P. 216\)](#)」の「セキュリティチップを有効にする」から「セキュリティチップ ユーティリティのインストール」までの手順を行い、セキュリティチップ ユーティリティのインストールを完了させてください。

完了したら「Security Platformの初期化」は行わず、セキュリティチップ機能の復元を行ってください。

SSD故障時の復元について

電子メールの保護機能を利用していなかった場合

復元を行う前に、「[セキュリティチップ機能を利用する準備 \(P. 216\)](#)」の「セキュリティチップを有効にする」から「セキュリティチップ ユーティリティのインストール」までの手順を行い、セキュリティチップ ユーティリティのインスト

ールを完了させてください。

完了したら「Security Platformの初期化」は行わず、セキュリティチップ機能の復元を行ってください。

電子メールの保護機能を利用していた場合

セキュリティチップ ユーティリティのインストールを行う前に、メールデータやアドレス帳の復元を行ってください。



メモ

データの復元については電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。

その他の注意事項

[040600-28]

- 本機を修理に出す前の準備. 256
- 本機を修理に出した後. 257
- イベントビューアに記録される警告ログについて. 258

本機を修理に出す前の準備

[040601-28]

本機の故障などの理由で修理に出される場合、必ずBIOSセットアップユーティリティのスーパーバイザパスワード、およびユーザパスワードを解除し、情報の漏えい防止のため、セキュリティチップの初期化を行ってください。

修理後、セキュリティチップ機能を復元するためにはあらかじめ必要なデータ、ファイルのバックアップと情報の確認が必要になりますので、「[セキュリティチップ機能のバックアップ \(P. 247\)](#)」をご覧ください、バックアップを行ってください。

また、セキュリティチップ機能の復元を行う場合は、「[セキュリティチップ機能の復元 \(P. 250\)](#)」をご覧ください、復元を行ってください。



チェック

セキュリティチップの初期化手順については、「[トラブル解決Q&A](#)」の「[セキュリティチップ機能](#)」 - 「[パスワードを忘れてしまった \(P. 357\)](#)」をご覧ください。

本機を修理に出した後

[040602-28]

本機を修理に出し、「マザーボード交換」や「セキュリティチップ交換」、「SSD交換」、「再セットアップ」等が行われた場合には、セキュリティチップの初期化を行ってからセキュリティチップ機能を有効にしてください。

セキュリティチップ機能の復元を行う場合は、「[セキュリティチップ機能の復元 \(P. 250\)](#)」をご覧ください。復元を行ってください。



チェック

セキュリティチップの初期化手順については、「[トラブル解決Q&A](#)」の「[セキュリティチップ機能](#)」 - 「[パスワードを忘れてしまった \(P. 357\)](#)」をご覧ください。

イベントビューアに記録される警告ログについて

[040603-28]

イベントビューア内に以下のログが記録される場合がありますが、運用上問題はありません。

- 「ソース : TBS、イベントID : 16385、レベル : エラー、内容 : 内部 TBS エラーが検出されました。エラーコードは 0x8007001fでした。これは通常、予期しない TPM またはドライバの動作が原因で発生するエラーで、一時的な現象である可能性があります。」
- 「ソース : TBS、イベントID : 516、レベル : エラー、内容 : TPM との通信中にエラーが発生しました。ドライバから 0x8007001f が返されました。」
- 「ソース : WMI、イベントID : 63、レベル : 警告、内容 : プロバイダー TPMHostSWProvider は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root¥Infinion¥TpmSoftware に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダーがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。」

また、スリープ状態や休止状態からの復帰時に、イベントビューア内に以下のログが記録される場合がありますが、運用上問題はありません。

- 「ソース : TBS、イベントID : 541、レベル : 警告、内容 : 実行中の操作は電源管理イベントにより中断されました。」
- 「ソース : TBS、イベントID : 16385、レベル : エラー、内容 : 内部 TBS エラーが検出されました。エラーコードは 0x800703e3 でした。これは通常、予期しない TPM またはドライバの動作が原因で発生するエラーで、一時的な現象である可能性があります。」
- 「ソース : TBS、イベントID : 516、レベル : エラー、内容 : TPM との通信中にエラーが発生しました。ドライバから 0x800703e3 が返されました。」
- 「ソース : TPM、イベントID : 15、レベル : エラー、内容 : TPM ハードウェアでトラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) のデバイス ドライバーに回復不能なエラーが発生しました。このエラーのため、TPM サービス (データの暗号化など) は使用できません。詳細については、コンピューターの製造元に問合せください。」

セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール

[040701-28]

次の手順で、セキュリティチップ ユーティリティをアンインストールできます。



チェック

- セキュリティチップ ユーティリティのアンインストールは必ず管理者 (Administrator) 権限を持つユーザー (ユーザー名は半角英数字) で行ってください。
- セキュリティチップ ユーティリティのアンインストールを実行する前に、セキュリティチップ ユーティリティで暗号化したファイルやフォルダの暗号化を解除し、Personal Secure Driveに保存したファイルやフォルダをバックアップしてください。
セキュリティチップ ユーティリティで保護されていたデータは、セキュリティチップ ユーティリティをアンインストールした後では、アクセスできなくなります。
- BIOSセットアップユーティリティで「Security Chip Configuration」メニューの「TPM Support」を「Disabled」に設定したときは、必ずセキュリティチップ ユーティリティをアンインストールしてください。

セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 10)」

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

3 「Infineon TPM Professional Package」を選択し、「アンインストール」ボタンをクリック

「Infineon TPM Professional Packageをアンインストールしますか？」と表示されます。

4 「はい」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform」画面が表示されます。

5 「いいえ」ボタンをクリック

アンインストールが始まります。

アンインストールが完了すると、再起動を促すメッセージが表示されます。

6 「はい」 ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でセキュリティチップ ユーティリティのアンインストールは完了です。



チェック

デスクトップ上にPersonal Secure Drive、もしくは暗号化ファイルシステム（EFS）のショートカットが残っている場合は、削除してください。

便利な機能とアプリケーション

[060000-28]

➤ アプリケーションの種類と機能.	262
➤ アプリケーションのインストール/アンインストールについて.	265
➤ Office Personal 2013.	267
➤ Office Home and Business 2013.	272
➤ Office Home & Business Premium.	277
➤ Access Connections.	282
➤ DeviceLock Lite.	288
➤ Acrobat Reader DC.	290
➤ ECOモード設定ツール.	293
➤ ピークシフト設定ツール.	295
➤ 画面表示設定切替ツール.	297
➤ CyberLink Power2Go.	300
➤ CyberLink PowerDVD.	303
➤ CyberLink PowerBackup.	308
➤ セカンドブック グループ.	311
➤ フリック入力補助ツール.	313
➤ 拡張ディスプレイ操作ツール.	316
➤ マカフィー リブセーフ.	319
➤ WinZip.	325
➤ OneNote.	329

アプリケーションの種類と機能

[060100-28]

本機にインストール、または添付されているアプリケーションはモデルによって異なります。

標準でインストール、または添付されているアプリケーション

アプリケーション	機能
Access Connections	ネットワークの設定、接続、切り替えおよびロケーション・プロファイルのインポートとエクスポートをする
Acrobat Reader DC	PDF形式のマニュアルを表示、閲覧、印刷する
DeviceLock Lite	周辺機器の使用を制限する
ECOモード設定ツール	ECOボタン、または設定したホットキーでモード（電源プラン）を切り替える
ピークシフト設定ツール	電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を他の時間帯に移行する
画面表示設定切替ツール	利用シーンに応じたPC画面最適化
バッテリー・リフレッシュ&診断ツール※2	バッテリーリフレッシュと性能診断
NASCA※3	ID・パスワードの保護と管理
ハードディスクデータ消去ツール※4	SSDのデータを消去する
フリック入力補助ツール	フリック機能を使ってショートカットキーイベントを操作する
拡張ディスプレイ操作ツール	アプリケーションを外部ディスプレイへ移動したり、操作したりする
セカンドブック グループ	書類を安全に持ち出せる
マカフィー リブセーフ	ウイルス対策とマルウェア対策などを行う包括的で高速なセキュリティソフトウェア
WinZip	ファイルの圧縮、保護、共有
OneNote	メモを自由に書き込み保存する

※2 機能の詳細、使用方法については「本機の機能」の「バッテリー」-「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール (P. 67)」をご覧ください。

※3 インストール/アンインストールについては「アプリケーションディスク」の「NASCA」フォルダの「NASCA User's Guide.chm」をご覧ください。

※4 再セットアップ用ディスクが必要です。機能の詳細、使用方法については『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

モデルによってインストール、または添付されているアプリケーション

◆Office Personal 2013モデル

アプリケーション	機能
----------	----

Word 2013	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2013	表計算をする
Outlook 2013	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る ファイルを管理する 電子メールを送受信する

◆Office Home and Business 2013モデル

アプリケーション	機能
Word 2013	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2013	表計算をする
Outlook 2013	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る ファイルを管理する 電子メールを送受信する
PowerPoint 2013	プレゼンテーションや企画書を作成する
OneNote 2013	電子ノートブック機能

◆Office Home & Business Premiumモデル

アプリケーション	機能
Word 2013	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2013	表計算をする
Outlook 2013	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る ファイルを管理する 電子メールを送受信する
PowerPoint 2013	プレゼンテーションや企画書を作成する
OneNote 2013	電子ノートブック機能

◆Webカメラ搭載モデル

アプリケーション	機能
YouCam 5 BE※1	Webカメラを利用して省電力動作へ移行させたり、コンピュータを監視カメラとして使用する

※1 機能の詳細、使用方法については「本機の機能」の「Webカメラ」 - 「Webカメラについて (P. 129)」をご覧ください。

◆DVD-ROMドライブモデル

アプリケーション	機能
CyberLink PowerDVD	DVDを再生する

◆DVDスーパーマルチドライブモデル

アプリケーション	機能
CyberLink PowerDVD	DVDを再生する
CyberLink Power2Go	CD-Rなどにデータを保存する
CyberLink PowerBackup	CD-Rなどにファイルをバックアップする

アプリケーションのインストール/アンインストールについて

[060200-28]

本機にインストールまたは添付されているアプリケーションの概要とインストール方法およびアンインストール方法について説明します。

インストールやアンインストールをする場合、Windowsおよびインストールされているアプリケーションについての知識が必要になります。

■ インストールについて

本機にインストール、または添付されているアプリケーションをインストールする場合の手順を説明します。



チェック

- アプリケーションのインストールは、必ず管理者（ユーザー名は半角英数字）でサインインして行ってください。
- 再セットアップ、PCリセットおよびPCリフレッシュの後に続けてアプリケーションのインストールを行う場合は必ずWindowsの再起動後に行ってください。
- 光学ドライブが添付されていないモデルをお使いの場合は、別売の光学ドライブが必要です。
- 本マニュアルを表示しながらインストールの操作をすることができます。詳しくは、「画面やアプリを切り替える (P. 21)」をご覧ください。
- アプリケーションの修復インストールはできません。いったんアンインストールしてから、インストールし直してください。



メモ

- 「管理者」とはAdministrator権限を持つユーザーを指し、コンピュータの全体的な構成を管理することができます。ユーザーアカウントに関する詳細についてはWindowsのヘルプをご覧ください。
- 光学ドライブをDドライブとした場合の手順を説明します。必要に応じて読み替えてください。

■ アンインストールについて

本機にインストールされているアプリケーションまたは購入後にインストールされた本機添付のアプリケーションのアンインストールの手順を説明します。

ご自分でインストールされた別売のアプリケーションのアンインストールについては、そのアプリケーションに添付されたマニュアルをご覧ください。



チェック

- アプリケーションのアンインストールは、必ず管理者（ユーザー名は半角英数字）でサインインして行ってください。
- 「コントロール パネル」の「プログラムのアンインストール」で、アプリケーションを選択して「アンインストール」、または「アンインストールと変更」をクリックした後は、中断してもそのままではアプリケーションを使用できない場合があります。
その際にはWindowsを再起動後、アプリケーションを使用してください。
- アプリケーションをアンインストールした後に、システムの復元機能でアンインストール前の状態に復元しても、復元されたアプリケーションは正常に動作しない場合があります。
また、復元されたアプリケーションを「コントロール パネル」の「プログラムのアンインストール」からアンインストールしても、アンインストールできない場合があります。
その場合は、そのアプリケーションのマニュアルをご覧になり、インストールの操作を行ってください。
復元の状況によって、インストールもしくはアンインストールが開始されます。
アンインストールが開始されたら、画面の指示に従い、アンインストールを行ってください。
インストールが開始されたら、画面の指示に従ってインストールを行い、インストール完了後にマニュアルをご覧になり、アンインストールを行ってください。
- 本マニュアルを表示しながらアンインストールの操作をすることができます。
- アプリケーションのアンインストール中に、すでにアンインストールされている旨のメッセージが表示されることがあります。その場合でも正常にアンインストールは完了しており、動作に影響はありません。

Office Personal 2013

[063500-08]

▶ 概要.....	267
▶ 初回起動手順.....	267
▶ 使用上の注意.....	269
▶ インストール.....	270
▶ アンインストール.....	270

概要

Word 2013、Excel 2013、Outlook 2013が同梱されています。
機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Office Personal 2013に同梱されているマニュアル、および各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Personal 2013の最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

Office Personal 2013では、工場出荷時の状態で、Office Personal 2013のセットアップ モジュールがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を含めインストールを完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。

ライセンス認証については、Office Personal 2013に同梱されているマニュアル、各Office アプリケーションのヘルプ、または下記ホームページを参照してください。

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 初回起動手順を実施中に「ライセンスを確認できませんでした」と表示される場合があります。

文書番号：2813348

「Office 2013 のインストール中にアプリケーションを起動すると "ライセンスを確認できませんでした" メッセージが表示される場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 13\)](#)」を参照してください。

1 スタート画面の「Microsoft Office」をクリック

2 「Office をお選びいただき、ありがとうございます。それでは始めましょう。」と表示されたら、「ライセンス認証」をクリック

3 「プロダクト キーを入力してください」と表示されたら、プロダクト キーを入力し、「インストール」ボタンをクリック

Office のインストールが開始されます。



チェック

プロダクト キーはOffice Personal 2013のパッケージに同梱されているカードに記載されています。

4 「新しい Office へようこそ。」と表示されたら、「次へ」をクリック

5 「最初に行う設定です。」と表示されたら、画面にある「推奨設定を使用する」または「いいえ」のいずれかを選択する

6 画面右下にある「使用許諾契約書を読む」をクリックし、内容を確認後、「OK」ボタンをクリック

7 「同意する」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

以下の画面が表示されますので、内容の確認や設定を行ってください。

- 「サインインしてOfficeを最大限に活用しましょう。」
- 「OneDriveについての説明をご覧ください。」
- 「新機能に関する説明をご覧ください。」

8 「準備が整いました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上で初回起動手順は終了です。

使用上の注意

Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「初回起動手順 (P. 267)」を済ませてから実施してください。

その他

- 以下の場合にイベントビューアに「警告」または「エラー」が表示されることがありますが、動作上問題ありません。
 - Office Personal 2013をインストールした時
 - 新規ユーザーでサインイン後、Office Personal 2013に含まれるアプリケーションのいずれかを初めて起動した時
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態ではスリープ状態にできない場合があります。その場合は、アプリケーションを終了させてから再度スリープ状態にしてください。
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態でWindowsを終了するとエラーが表示される場合があります。すべてのアプリケーションを終了してからWindowsを終了してください。
- カスタムテキストサイズの設定 (DPI) を125%に変更した場合、以下の問題が発生しますが動作上問題ありません。
 - Word 2013の書式設定と編集の制限ウィンドウが表示不正となる
- Word 2013の「はがき印刷」を使用するにはMicrosoft® .NET Framework 4以上をインストールする必要があります。

インストール

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。

その他のインストール方法については、Office Personal 2013に同梱されているマニュアルをご覧ください。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

Office Personal 2013のインストール

Internet Explorerのお気に入りに登録されている「Office を再インストールする」へアクセスするか、Office Personal 2013に同梱されているマニュアルの説明に従って、再インストールを行ってください。

アンインストール



チェック

- Office Personal 2013のアンインストール後にInternet Explorerでの右クリックメニューに表示が残る問題が発生する場合があります。

文書番号：826917

「Internet Explorer で "Microsoft Excel にエクスポート" コマンドを使用しようとしても何も起こらない」

文書番号：2212044

「Internet Explorer で [OneNote に送る] コマンドが機能しない」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 13\)](#)」を参照してください。

- Office Personal 2013に含まれるアプリケーションを起動している場合は、終了させてください。

「Microsoft OneDrive」のアンインストール



チェック

「プログラムのアンインストール」に「Microsoft OneDrive」と表示されている場合は、以下の手順を行ってください。

表示されていない場合は、「[Office Personal 2013のアンインストール \(P. 271\)](#)」へ進んでください。

1

Windowsを起動する

2

「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3

「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft OneDrive」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で「Microsoft OneDrive」のアンインストールは終了です。

次に「Office Personal 2013のアンインストール (P. 271)」へ進んでください。

Office Personal 2013のアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office」を選択し、「アンインストール」をクリック



チェック

「Microsoft Office Personal 2013 - ja-jp」と表示される場合もあります。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上でOffice Personal 2013のアンインストールは終了です。

Office Home and Business 2013

[063600-08]

▶ 概要.....	272
▶ 初回起動手順.....	272
▶ 使用上の注意.....	274
▶ インストール.....	275
▶ アンインストール.....	275

概要

Word 2013、Excel 2013、Outlook 2013、PowerPoint 2013、OneNote 2013が同梱されています。
機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアル、および各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Home and Business 2013の最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

Office Home and Business 2013では、工場出荷時の状態で、Office Home and Business 2013のセットアップ モジュールがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を含めインストールを完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。

ライセンス認証については、Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアル、各Office アプリケーションのヘルプ、または下記ホームページを参照してください。

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 初回起動手順を実施中に「ライセンスを確認できませんでした」と表示される場合があります。

文書番号：2813348

「Office 2013 のインストール中にアプリケーションを起動すると "ライセンスを確認できませんでした" メッセージが表示される場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 13\)](#)」を参照してください。

1 スタート画面の「Microsoft Office」をクリック

2 「Office をお選びいただき、ありがとうございます。それでは始めましょう。」と表示されたら、「ライセンス認証」をクリック

3 「プロダクト キーを入力してください」と表示されたら、プロダクト キーを入力し、「インストール」ボタンをクリック

Office のインストールが開始されます。



チェック

プロダクト キーはOffice Home and Business 2013のパッケージに同梱されているカードに記載されています。

4 「新しい Office へようこそ。」と表示されたら、「次へ」をクリック

5 「最初に行う設定です。」と表示されたら、画面にある「推奨設定を使用する」または「いいえ」のいずれかを選択する

6 画面右下にある「使用許諾契約書を読む」をクリックし、内容を確認後、「OK」ボタンをクリック

7 「同意する」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

以下の画面が表示されますので、内容の確認や設定を行ってください。

- 「サインインしてOfficeを最大限に活用しましょう。」
- 「OneDriveについての説明をご覧ください。」
- 「新機能に関する説明をご覧ください。」

8 「準備が整いました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上で初回起動手順は終了です。

使用上の注意

Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「初回起動手順 (P. 272)」を済ませてから実施してください。

その他

- 以下の場合にイベントビューアに「警告」または「エラー」が表示されることがありますが、動作上問題ありません。
 - Office Home and Business 2013をインストールした時
 - 新規ユーザーでサインイン後、Office Home and Business 2013に含まれるアプリケーションのいずれかを初めて起動した時
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態ではスリープ状態にできない場合があります。その場合は、アプリケーションを終了させてから再度スリープ状態にしてください。
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態でWindowsを終了するとエラーが表示される場合があります。すべてのアプリケーションを終了してからWindowsを終了してください。
- カスタムテキストサイズの設定 (DPI) を125%以上に変更した場合、以下の問題が発生しますが動作上問題ありません。
 - Word 2013の書式設定と編集の制限ウィンドウが表示不正となる
- Word 2013の「はがき印刷」を使用するにはMicrosoft® .NET Framework 4以上をインストールする必要があります。

インストール

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。

その他のインストール方法については、Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアルをご覧ください。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

Office Home and Business 2013のインストール

Internet Explorerのお気に入りに登録されている「Office を再インストールする」へアクセスするか、Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアルの説明に従って、再インストールを行ってください。

アンインストール



チェック

- Office Home and Business 2013のアンインストール後にInternet Explorerでの右クリックメニューに表示が残る問題が発生する場合があります。

文書番号：826917

「Internet Explorer で "Microsoft Excel にエクスポート" コマンドを使用しようとしても何も起こらない」

文書番号：2212044

「Internet Explorer で [OneNote に送る] コマンドが機能しない」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 13\)](#)」を参照してください。

- Office Home and Business 2013に含まれるアプリケーションを起動している場合は、終了させてください。

「Microsoft OneDrive」のアンインストール



チェック

「プログラムのアンインストール」に「Microsoft OneDrive」と表示されている場合は、以下の手順を行ってください。

表示されていない場合は、「[Office Home and Business 2013のアンインストール \(P. 276\)](#)」へ進んでください。

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft OneDrive」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で「Microsoft OneDrive」のアンインストールは終了です。

次に「Office Home and Business 2013のアンインストール (P. 276)」へ進んでください。

Office Home and Business 2013のアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office」を選択し、「アンインストール」をクリック



チェック

「Microsoft Office Home and Business 2013 - ja-jp」と表示される場合もあります。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上でOffice Home and Business 2013のアンインストールは終了です。

Office Home & Business Premium

[060700-08]

▶ 概要.....	277
▶ 初回起動手順.....	277
▶ 使用上の注意.....	279
▶ インストール.....	280
▶ アンインストール.....	280

概要

Word 2013、Excel 2013、Outlook 2013、PowerPoint 2013、OneNote 2013が同梱されています。
機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Home & Business Premiumの最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

Office Home & Business Premiumでは、工場出荷時の状態で、Office Home & Business Premiumのセットアップ モジュールがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を含めインストールを完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。

ライセンス認証については、各Office アプリケーションのヘルプ、または下記ホームページを参照してください。

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

- 初回起動はインターネットに接続した環境で行ってください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 初回起動手順は、マイクロソフト社によるアップデートなどで変更される場合があります。その場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 初回起動手順を実施中に「ライセンスを確認できませんでした」と表示される場合があります。

文書番号：2813348

「Office Premium のインストール中にアプリケーションを起動すると "ライセンスを確認できませんでした" メッセージが表示される場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 13\)](#)」を参照してください。

1 スタート画面の「Microsoft Office」をクリック

2 「では、始めましょう」と表示されたら、「次へ」をクリック

3 「プロダクト キー」画面が表示されたら、プロダクト キーを入力し、「次へ」ボタンをクリック



チェック

プロダクト キーはOfficeカード自体に記載されています。

4 「サインイン」画面が表示されたら、「サインイン」ボタンをクリック

5 「サインイン」と表示されたら、Microsoftアカウントとパスワードを入力し、「サインイン」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

Microsoft アカウントをお持ちの場合は、そのアカウントを使ってサインインしてください。また、好きなメールアドレスを新しいMicrosoft アカウントのユーザー名として利用できます。

6 「新しい Office へようこそ。」と表示されたら、「次へ」をクリック

7 「最初に行う設定です。」と表示されたら、画面にある「推奨設定を使用する」または「いいえ」のいずれかを選択する

8 画面右下にある「使用許諾契約書を読む」をクリックし、内容を確認後、「OK」ボタンをクリック

9 「同意する」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

以下の画面が表示されますので、内容の確認や設定を行ってください。

- 「ビデオ」
- 「OneDrive についての説明をご覧ください。」
- 「Officeの見た目を自分の好みに合わせて変えてみましょう。」
- 「準備を行っています。」

10 「準備が整いました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上で初回起動手順は終了です。

使用上の注意

Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的の実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「初回起動手順 (P. 277)」を済ませてから実施してください。

その他

- 以下の場合にイベントビューアに「警告」または「エラー」が表示されることがありますが、動作上問題ありません。
 - Office Home & Business Premiumをインストールした時
 - 新規ユーザーでサインイン後、Office Home & Business Premiumに含まれるアプリケーションのいずれかを初めて起動した時
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態ではスリープ状態にできない場合があります。その場合は、アプリケーションを終了させてから再度スリープ状態にしてください。
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態でWindowsを終了するとエラーが表示される場合があります。すべてのアプリケーションを終了してからWindowsを終了してください。

- カスタムテキストサイズの設定（DPI）を100%から125%以上に変更した場合、以下の問題が発生しますが動作上問題ありません。
 - Word 2013の書式設定と編集の制限ウィンドウが表示不正となる
- Word 2013の「はがき印刷」を使用するにはMicrosoft® .NET Framework 4以上をインストールする必要があります。

インストール

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

Office Home & Business Premiumのインストール

Internet Explorerのお気に入りに登録されている「Office を再インストールする」へアクセスして、再インストールを行ってください。

アンインストール



チェック

- Office Home & Business Premiumのアンインストール後にInternet Explorerでの右クリックメニューに表示が残る問題が発生する場合があります。

文書番号：826917

「Internet Explorer で "Microsoft Excel にエクスポート" コマンドを使用しようとしても何も起こらない」

文書番号：2212044

「Internet Explorer で [OneNote に送る] コマンドが機能しない」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 13\)](#)」を参照してください。

- Office Home & Business Premiumに含まれるアプリケーションを起動している場合は、終了させてください。

「Microsoft OneDrive」のアンインストール



チェック

「プログラムのアンインストール」に「Microsoft OneDrive」と表示されている場合は、以下の手順を行ってください。

表示されていない場合は、「[Office Home & Business Premiumのアンインストール \(P. 281\)](#)」へ進んでください。

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft OneDrive」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で「Microsoft OneDrive」のアンインストールは終了です。

次に「Office Home & Business Premiumのアンインストール (P. 281)」へ進んでください。

Office Home & Business Premiumのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office」を選択し、「アンインストール」をクリック



チェック

「Microsoft Office Home and Business Premium - ja-jp」と表示される場合もあります。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上でOffice Home & Business Premiumのアンインストールは終了です。

Access Connections

[061100-28]

▶ 概要.	282
▶ 使用上の注意.	283
▶ Access Connectionsでの無線LANの設定と接続.	284
▶ Access Connectionsでの有線LANの設定と接続.	285
▶ インストール.	285
▶ アンインストール.	286

概要

Access Connectionsはネットワークの設定、接続、切り替えおよびロケーション・プロファイルのインポートとエクスポートができます。

機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。



チェック


Access Connectionsは、工場出荷時にはインストールされていません。



メモ

Windows標準の無線LAN機能を使用して無線LANのオン/オフや設定、接続をする場合は、「本機の機能」の「無線LAN機能 (P. 161)」をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Access Connectionsのヘルプ (Access Connectionsを起動し、 ボタンをクリック→「Access Connections ヘルプ」をクリック)



チェック

ヘルプに記載されている機能は、実際に利用できる機能と多少異なる場合があります。

起動方法

1

アプリ画面 (P. 11)を表示する

2

アプリの一覧で「Access Connections」をクリック

Access Connectionsのメインウィンドウが表示されます。



チェック

Access Connectionsは複数のユーザーで同時に使用することはできません。
 複数のユーザーがログオンしている環境で他のユーザーがAccess Connectionsのメインウィンドウを起動すると「Access Connectionsは、別のユーザーによって使用されています。別のユーザーをログオフし、もう一度実行してください。」と表示され、Access Connectionsを使用することができません。
 ユーザーの切り替えを行う場合、Access Connectionsのメインウィンドウを閉じてからユーザーを切り替えてください。

使用上の注意

- 本アプリケーションを使用する前に、「本機の機能」の「無線LAN機能」に記載している以下の内容をあわせてご覧ください。
 - ▶ 概要..... 162
 - ▶ 本機を安全にネットワークに接続するために..... 164
 - ▶ 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意..... 166
 - ▶ 使用上の注意..... 168
- ネットワークの切断について
 ネットワークの切断を行うと無線LAN機能が自動的にオフに変更されます。無線LAN機能がオフになった場合、下記の手順で無線LAN機能をオンにしてください。

1 タスク バーの通知領域にある アイコンを右クリック

2 表示されたメニューから「問題のトラブルシューティング」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

3 「今後、XXXに自動的に接続します」と表示されたら、「この修正を適用します」をクリック



チェック

XXXには、ご使用のネットワーク名が入ります。

4 「トラブルシューティングが完了しました」と表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

- カスタムテキストサイズの設定について
 カスタムテキストサイズの設定（DPI）を125%以上に変更した場合、Access Connectionsが画面からはみ出る場合があります。その場合は、カスタムテキストサイズの設定（DPI）を変更してご使用ください。
 - DPIの変更方法（例：100%に設定する場合）

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「デスクトップのカスタマイズ」→「ディスプレイ」をクリック

3 「すべてのディスプレイで同じ拡大率を使用する」にチェックを付けてから、「小 - 100%」を選択し、「適用」ボタンをクリック

4 「これらの変更を適用するには、コンピューターからサインアウトする必要があります」と表示されたら、「今すぐサインアウト」ボタンをクリック

Windowsからサインアウトします。
サインイン画面が表示されたら、サインインしなおしてください。

Access Connectionsでの無線LANの設定と接続

無線LANの設定をする

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

2 アプリ画面 (P. 11)を表示する

3 アプリの一覧で「Access Connections」をクリック

4 「インターネットに接続」タブをクリック

ネットワーク名 (SSID) の一覧が表示されます。

5 接続する無線LANアクセスポイントのネットワーク名 (SSID) をクリック



チェック

- 選択した無線LANアクセスポイントに間違いがないか、ネットワーク名 (SSID) を確認してください。
- ネットワーク名 (SSID) の一覧に接続するネットワーク名 (SSID) が表示されない場合は、「再検索」ボタンをクリックしてください。それでもネットワーク名 (SSID) が表示されない場合は、無線LANアクセスポイントがネットワーク名 (SSID) を通知しない設定になっている場合があります。無線LANアクセスポイントの設定を確認し、「Access Connections ヘルプ」をご覧ください。ロケーション プロファイルの作成」で無線LANの設定を行ってください。

6 「接続」ボタンをクリック

7 「ネットワークにはネットワーク・キーが必要です。」と表示されたら、「パスワード」を入力して「接続」ボタンをクリック

8 「この接続をロケーションの1つとして保存しますか？」と表示されたら、「ロケーション名」を入力して「保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

設定済みの接続先に接続する

- 1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する
- 2 アプリ画面 (P. 11)を表示する
- 3 アプリの一覧で「Access Connections」をクリック
- 4 「ロケーション」にある接続先から接続するロケーション プロファイルを選択し、「接続」ボタンをクリック

以上で接続は完了です。

Access Connectionsでの有線LANの設定と接続

Access Connectionsで有線LANの設定や接続をする場合は、「Access Connections ヘルプ」をご覧ください。

インストール

Access Connectionsのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 アプリ画面 (P. 11)を表示する
- 4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
D:¥Nxsetup.exe
- 6 「Access Connections」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 7 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 8 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

9 Windowsを再起動後、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でAccess Connectionsのインストールは終了です。

アンインストール

Access Connectionsのアンインストール



チェック

アンインストールはネットワークに接続した状態で行ってください。ネットワークに切断した状態でアンインストールを行うと無線LAN機能がオフになります。
無線LAN機能がオフになった場合、「ネットワークの切断について (P. 283)」を参照して無線LAN機能をオンにしてください。

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Access Connections」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「Access Connections をアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック



チェック

「ユーザー アカウント制御」画面にある「発行元」が「不明」と表示されますが問題ありません。

6 「システムの実行中に更新できないファイルまたはサービスを、セットアップで更新する必要があります。続行する場合は、セットアップを完了するために再起動が必要となります。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

7 「Access Connections プロファイルを続けてご利用になりますか？」と表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック

アンインストール後に再度Access Connectionsをインストールしてご使用になる場合は「はい」ボタンをクリックしてください。

8 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でAccess Connectionsのアンインストールは終了です。

DeviceLock Lite

[061200-28]

概要	288
使用上の注意	288
インストール	288
アンインストール	289

概要

DeviceLock Lite (以下、DeviceLock) は、外部デバイスへのデータ漏えいを防止する情報漏えい対策ソフトウェアです。機能の詳細や操作方法、制限事項については、以下をご覧ください。



チェック

DeviceLock Liteは、工場出荷時にはインストールされていません。

●機能の詳細や操作方法、制限事項

DeviceLock User Manual (「アプリケーションディスク」内の「DeviceLock¥DeviceLock User Manual.chm」)

使用上の注意

CyberLink Power2Goと同時に使用する場合の注意

DeviceLockで書き込みを制限していると、CyberLink Power2Goを使用してメディアへ書き込みやファイルバックアップはできません。

メディアへ書き込みやファイルバックアップを行う場合は、DeviceLockで光学ドライブを機器単位で有効に設定するか、書き込み制限を解除してください。

Bluetoothの制御をする場合の注意

Bluetoothの制御機能は、マウス、キーボードのみ使用禁止にできます。携帯電話等とのファイル送受信については使用禁止にできません。

インストール

DeviceLockのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Nxsetup.exe

6 「DeviceLock」を選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

7 インストールが終了したら、Windowsを再起動する

8 Windowsを再起動後、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でDeviceLockのインストールは終了です。

■ アンインストール

DeviceLockのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「DeviceLock」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「DeviceLock をアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「DeviceLock のアンインストールは正しく完了しました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

以上でDeviceLockのアンインストールは終了です。

Acrobat Reader DC

[061300-08]

概要	290
使用上の注意	291
インストール	291
アンインストール	292

概要

Acrobat Reader DCはPDF（Portable Document Format）形式のマニュアルの表示、閲覧、印刷を行うことができるビューアです。

機能の詳細、操作方法、および最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

ヘルプ（Acrobat Reader DCを起動し、「ヘルプ」→「オンラインサポート」をクリック）



チェック

ヘルプを参照するにはインターネットに接続できる環境が必要です。

●Acrobat Reader DCの最新の情報

<http://www.adobe.com/jp/index.html>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

起動方法

1

アプリ画面（P. 11）を表示する

2

アプリの一覧で「Acrobat Reader DC」をクリック



チェック

インストール後、初めてお使いになる場合は、起動時に「Adobe Acrobat Reader DC - パーソナル コンピューターでの使用に関する配布の使用許諾契約」画面が表示されます。内容を確認し「同意する」ボタンをクリックしてください。「Adobe Acrobat Reader DC によるこそ」画面が表示されたら、内容を確認し、「続行」ボタンをクリックしてください。

Acrobat Reader DCの画面が表示されます。

■ 使用上の注意

- マルチランゲージには対応していません。
- Windows 8.1ではPDF形式のファイルを表示するビューアが標準に搭載されております。Acrobat Reader DCを使用してPDF形式のファイルを表示する場合は下記の手順を行ってください。

1 PDF形式のファイルを右クリック

2 「プログラムから開く」をクリックして「Adobe Acrobat Reader DC」をクリック

■ インストール



チェック

- 「C:¥MAVP¥AdobeAcrobatReaderDC¥setup.exe」をダブルクリックすることで簡単にインストールできます。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますが、「はい」をクリックして進んでください。

Acrobat Reader DCのインストール

アプリケーションディスクをご利用になる場合は、次の手順でインストールしてください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 「D:¥AdobeAcrobatReaderDC」フォルダをSSDの任意の場所にコピーする



メモ

ここでは「C:¥TEMP」にコピーした場合の手順を説明します。
必要に応じて読み替えてください。

4 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

5 アプリ画面 (P. 11)を表示する

6 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

7 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥TEMP¥AdobeAcrobatReaderDC¥setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

8 インストールが完了したら、Windowsを再起動する



メモ

手順3でコピーしたフォルダは自動的に削除されません。
Acrobat Reader DCのインストールが終了したら削除することをおすすめします。

以上でAcrobat Reader DCのインストールは終了です。

アンインストール

Acrobat Reader DCのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」 を表示する

3 「プログラム」 の 「プログラムのアンインストール」 をクリック

4 「Adobe Acrobat Reader DC - Japanese」 を選択し、「アンインストール」 をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でAcrobat Reader DCのアンインストールは終了です。

ECOモード設定ツール

[061400-28]

概要	293
インストール	293
アンインストール	294

概要

ECOボタン、または設定したホットキーで簡単にモード（電源プラン）を切り替えることができます。機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



チェック

本機では、ECOモード設定ツールはインストールされています。追加の必要はありません。



参照

機能の詳細、操作方法について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 51)」

設定方法

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「ECOモード設定ツール」をクリック

ECOモード設定ツールの設定画面が表示されます。

インストール

ECOモード設定ツールのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

- 6 「ECOモード設定ツール（ノート用）」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
- 7 「ECOモード設定ツール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 8 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック
- 9 再起動を促すメッセージが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック
- 10 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でECOモード設定ツールのインストールは終了です。

アンインストール

ECOモード設定ツールのアンインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック
- 4 「ECOモード設定ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック
- 5 「ECOモード設定ツール をアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック
- 6 「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリック
- 7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でECOモード設定ツールのアンインストールは終了です。

ピークシフト設定ツール

[061500-28]

概要	295
インストール	295
アンインストール	296

概要

電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を、他の時間帯に移行することをピークシフトといいます。本機は、「ピークシフト設定ツール」で設定を行うことで「ピークシフト機能」を使用できます。機能の詳細や使用上の注意、操作方法については、以下をご覧ください。



参照

機能の詳細や使用上の注意、操作方法について
「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ピークシフト機能 (P. 55)」



チェック

本機では、ピークシフト設定ツールはインストールされています。
追加の必要はありません。

インストール

ピークシフト設定ツールのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 アプリ画面 (P. 11)を表示する
- 4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
D:¥Nxsetup.exe
- 6 「ピークシフト設定ツール」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
- 7 「ピークシフト設定ツール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

8 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

9 再起動を促すメッセージが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック

10 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でピークシフト設定ツールのインストールは終了です。

■ アンインストール

ピークシフト設定ツールのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「ピークシフト設定ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「ピークシフト設定ツール をアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でピークシフト設定ツールのアンインストールは終了です。

画面表示設定切替ツール

[062100-28]

▶ 概要	297
▶ 使用上の注意	298
▶ インストール	298
▶ アンインストール	299

概要

画面表示設定切替ツールは、タッチパネルモデルご利用時のタッチパネル操作や高解像度モデルご利用時の操作・閲覧を快適にするために、Windowsの表示設定を切り替える設定ツールです。

利用シーンに応じて設定を3種類まで保存し、表示設定をかんたんに切り替えることができます。

機能の詳細や操作方法については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

画面表示設定切替ツールのヘルプ（[アプリ画面 \(P. 11\)](#)）→「画面表示設定切替ツール」→「画面表示設定切替ツール ヘルプ」)



チェック

画面表示設定切替ツールは、工場出荷状態でインストールされています。

モードの切り替え方法



チェック

- モードの切り替えを行った後、Windowsのサインアウトが必要な場合があります。
- モードの切り替えを行う前にデータを保存し、アプリケーションを終了させてください。
- なお、サインアウト確認画面が表示されなかった場合には、Windowsのサインアウトは必要ありません。

1 デスクトップの「画面表示設定切替ツール」をダブルクリック

画面表示設定切替ツール画面が表示されます。

2 切り替えたい設定をクリック

3 サインアウトを促すメッセージが表示されたら、「今すぐサインアウト」ボタンをクリック

■ 使用上の注意

- 画面表示設定切替ツールは、表示の切り替えを行うたびに以下の項目に対してWindowsの設定を変更します。このため、お客さまが「コントロール パネル」等で個々に変更された設定値は保持されず、切り替え時に画面表示設定切替ツールによって変更されてしまいますので、ご注意ください。
 - テキストやその他の項目のサイズ (DPI)
 - デスクトップのアイコンサイズ
 - タイトルバーのサイズ/フォントのサイズ/ボタンサイズ
 - ウィンドウの境界の太さ
 - スクロールバーの太さ
 - メニューのサイズ/フォントのサイズ
 - マウスのポインタ
 - 文字入力時のカーソルのサイズ
 - 文字入力時のカーソルの点滅速度
- 「コントロール パネル」等から「テキストやその他の項目の大きさの変更(DPI)」の変更を行ったり、個人設定でテーマを変更すると、画面表示設定切替ツールで変更した以下の項目はWindowsによって再設定されてしまいます。この場合は、再度画面表示設定切替ツールにて表示の切り替えを行ってください。
 - タイトルバーのサイズ/フォントのサイズ/ボタンサイズ
 - ウィンドウの境界の太さ
 - スクロールバーの太さ
 - メニューバーのサイズ/フォントのサイズ
- 「メニューのサイズ、および メニューのフォントサイズ」や「タイトルバーのサイズとフォントサイズ、タイトルのボタンのサイズ」を「大」に設定すると、Windowsの仕様により、エクスプローラの左下に表示されるプロパティなどの文字列が途切れたり、重なったりする場合があります。

■ インストール

画面表示設定切替ツールのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Nxsetup.exe

6 「画面表示設定切替ツール (タイプVN)」を選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

- 7 インストールが完了したら、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する**

以上で画面表示設定切替ツールのインストールは終了です。

■ アンインストール

画面表示設定切替ツールのアンインストール

- 1 Windowsを起動する**
- 2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する**
- 3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック**
- 4 「画面表示設定切替ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック**

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

- 5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する**

以上で画面表示設定切替ツールのアンインストールは終了です。

CyberLink Power2Go

[061900-08]

概要	300
使用上の注意	301
インストール	301
アンインストール	302

概要

Power2Goの主な機能

CyberLink Power2Go は、すべてのドライブおよびディスク (CD、DVDなど) に対応するPC向けのオール メディア ライティング ソフトです。

CyberLink Power2Go を使うと、データ ディスクやミュージック ディスクなどの作成、書き込みができます。ディスクユーティリティを使ってディスクを消去、コピーすることもできます。

対応するファイル タイプ

データ ディスク (あらゆるファイル タイプが書き込み可能なもの) を除き、音楽、動画、画像ディスクの作成時にインポート可能なファイル形式は次の通りです。

- **音声形式:**MP3、M4A、WAV、WMA
- **動画形式:**ASF、AVI、DAT、DVR-MS、M2T、M2TS、MOV、MOD、MP4、MPE、MPEG、MPG、MTS、TS、TOD、VOB、VRO、WMV、WTV

対応するディスク タイプ

Power2Go は次のディスク タイプの書き込みに対応しています。

- **CD:**CD-R/RW
- **DVD:**DVD-R/RW、DVD-R/RW DL、DVD+R/RW、DVD+R/RW DL、DVD-RAM

●機能の詳細や操作方法

● Power2Goのヘルプ

1 「CyberLink Power2Go 8」を起動する

2 ホーム画面の右上にある **?** をクリックする

起動方法

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「CyberLink Power2Go 8」をクリック

Power2Go の画面が表示されます。

使用上の注意

- データ ディスクを書き込む際に、コンテンツが追記可能なマルチセッション ディスクを作成することができます (ディスクに空き容量がある場合)。CD、DVDへの書き込みで、マルチセッション ディスクを作成することができます (追記禁止を選択していない場合)。
- マルチセッション ディスクでは、ディスク容量が上限に達するか、追記禁止を選択するまで、コンテンツを何度も追記することができます。
- カスタムテキストサイズの設定 (DPI) を既定の100%から150%に変更した場合、Power2Go のホームウィンドウが画面からはみ出る場合があります。その場合は、カスタムテキストサイズの設定 (DPI) を既定の150%以下に変更してご使用ください。
- 媒体に傷が付いていたり、誤ってデータを削除してしまうと、データの復旧ができません。重要なデータは必ずバックアップを取るよう to してください。
- 書き込みまたはフォーマットを行っている際に表示される進捗状況バー、および推定残り時間は、実際の処理と合わない場合がありますが動作に影響はありません。

インストール

Power2Goのインストール

Power2Goは工場出荷時にプリインストールされています。改めてインストールしたい場合は、次の手順に従ってPower2Goをインストールしてください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「CyberLink Power2Go ディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Power2Go¥Setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

7 光学ドライブから「CyberLink Power2Go ディスク」を取り出す

以上でPower2Go のインストールは終了です。

アンインストール

Power2Goのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「CyberLink Power2Go 8」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「これにより、CyberLink Power2Go 8 はコンピューターから削除されます。続行しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上でPower2Go のアンインストールは終了です。

概要	303
使用上の注意	303
インストール	306
アンインストール	306

概要

DVDを再生することができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



チェック

CyberLink PowerDVDは、工場出荷時にはインストールされていません。

●機能の詳細や操作方法

「CyberLink PowerDVD」のヘルプ（画面右上の「？」ボタンをクリックすることで開くことができます）



チェック

- CyberLink PowerDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioの再生はサポートしていません。
- 本機では、リージョンコード（国別地域番号）が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- お使いのモデルによってはCyberLink PowerDVDは添付されていない場合があります。「アプリケーションの種類と機能 (P. 262)」をご覧ください。

起動方法

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「CyberLink PowerDVD」をクリック

CyberLink PowerDVD画面が表示されます。

使用上の注意

- CyberLink PowerDVDの起動中は、次のことに注意してください。
 - 他のソフトを起動しないでください。コマ落ちが発生する場合があります。
 - ソフトによっては（同じように映像を表示するタイプのソフトなど）、他のソフトが起動できないことがあります。
 - 再生中は省電力状態（スリープや休止状態）へ移行しないようになっています。電源スイッチやスタートメニューなどを使って強制的にスリープや休止状態にしないでください。

- CyberLink PowerDVDを起動中に解像度/表示色/表示するディスプレイ/デュアルディスプレイ環境時のモニタ位置の変更など、おこなわないでください。
- デュアルディスプレイ機能を使っているときにディスクを再生すると、プライマリに設定されているデバイスのみに表示される場合があります。
- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない外部ディスプレイでは、著作権保護された映像をデジタル出力できません。
- Intel® WiDi機能を使用して、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない外部ディスプレイに接続した場合は再生できません。
- 画面回転機能使用時、画面の向きが90度と270度での再生はサポートしていません。
- スナップ機能をご利用の場合、デスクトップ画面のサイズによっては、PowerDVDの一部の機能が使用できない場合があります。PowerDVDをご使用になる場合は、デスクトップを全画面表示にしてください。
- 電源プランを「ECO」にすると、CyberLink PowerDVDは正常に動作しない可能性があります。その場合は電源プランを「標準」に変更してください。
- お使いの外部ディスプレイによっては、PowerDVDのフルスクリーン表示時に再生画面が画面サイズに収まりきらなかったり、画面サイズより小さく表示される場合があります。このような場合は、次の手順でディスプレイの設定を変更してください。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「デスクトップのカスタマイズ」→「ディスプレイ」をクリック

3 「すべてのディスプレイで同じ拡大率を使用する」にチェックを付けて、「適用」ボタンをクリック

4 「これらの変更を適用するには、コンピューターからサインアウトする必要があります」と表示されたら、「今すぐサインアウト」ボタンをクリック

Windowsからサインアウトします。

サインイン画面が表示されたら、サインインしなおしてください。

- DVD再生開始時やDVDディスク内タイトルの切り替え時に時間がかかることがあります。
- ビットレートの高い映像では、スムーズな再生品質を得られない場合があります。
- DVDコンテンツの作り方により、メニュー等でマウス選択できない場合があります。
- DVDタイトルの中には、DVD再生用アプリケーションを含んだものがありますが、インストールする必要はありません。
- ディスク再生時にACアダプタを接続した状態で使用することをおすすめします。
- CyberLink PowerDVD でディスクが認識しない場合は、次のような原因が考えられます。

<ディスクの確認>

- 記録面に傷や指紋などの汚れがついている
ディスクに傷が付いていると、使用できない場合があります。
また、汚れている場合は、乾いたやわらかい布で内側から外側に向かって拭いてから使用してください。
- ディスクが光学ドライブに正しくセットされていない
セットされているディスクの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイの中心に、きちんとセットしてくだ

さい。

- 書き込みに失敗したディスク
書き込みに失敗したディスクは読み込めない場合があります。
- ファイナライズされていないディスク
デジタルビデオカメラや、ライティングソフトで作成した場合、ファイナライズを行わないと、光学ドライブで読めない場合があります。
- 映像データファイルを記録したディスク
CyberLink PowerDVDはファイル再生には対応しておりません。
他の映像再生アプリケーション（Windows Media Playerなど）をご利用ください（その場合には、他社・コミュニティなどが用意するコーデックが必要になることがあります）。
- ディスクの劣化
記録ディスクの品質により、経年劣化、光劣化などを起こすことがあります。
ディスクを交換して試してみてください。

<ディスクの規格の確認>

AVCREC、AVCHD、ブルーレイディスクを再生させようとした可能性があります。
本機で使用できるディスクの規格を確認してください。

- AVCREC規格で記録されたDVD
著作権保護付きで、DVD媒体にハイビジョン画質のデータを記録するための規格
- AVCHD規格で記録されたDVD
ハイビジョン映像を撮影・録画するデジタルビデオカメラの規格



参照

本機で使用できるディスク

電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

<光学ドライブの確認>

- 光学ドライブの読み取りレンズが汚れているため読み取り不良になる。
ほこりや油膜などによりレンズが汚れていると、読み込みに失敗したり、読み込み時間が長くなったりすることがあります。
レンズクリーナーでレンズをクリーニングしてください。
- 光学ドライブが、使用可能ハードウェアとして認識されていない。
BIOSセットアップユーティリティのI/O制限、DeviceLockは周辺機器の使用を制限することができます。
光学ドライブを使用不可に設定していないか確認してください。
- VGA変換アダプタを使用して外部ディスプレイに接続した環境では、著作権保護されたコンテンツの再生はサポートしていません。

インストール

CyberLink PowerDVDのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「CyberLink PowerDVD ディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥POWERDVD(Win7Win8.1)¥setup.exe

「CyberLink PowerDVD の InstallShield Wizard へようこそ」画面が表示されます。
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

7 光学ドライブから「CyberLink PowerDVD ディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でCyberLink PowerDVDのインストールは終了です。

アンインストール

CyberLink PowerDVDのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「CyberLink PowerDVD」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「これにより、CyberLink PowerDVD はコンピューターから削除されます。続行しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「CyberLink PowerDVD の個人設定を保持しますか？」と表示されたら、「いいえ」をクリック

7 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上でCyberLink PowerDVDのアンインストールは終了です。

CyberLink PowerBackup

[064400-08]

概要	308
使用上の注意	309
インストール	309
アンインストール	309

概要

CyberLink PowerBackup は、ネットワーク上などのドライブおよびファイルをハード ディスク フォルダまたはディスクにバックアップできるようにするバックアップ プログラムです。



チェック

CyberLink PowerBackupは、工場出荷時にはインストールされていません。

PowerBackupの主な機能

- バックアップ、リストアおよび比較機能
- 完全 (すべて)、増分および差分バックアップ
- バックアップ間隔スケジュールの設定 (1 回、毎日、毎週、毎月)
- 複数ボリューム バックアップ
- CD-R/-RW、DVD-R/-RW、DVD+R/+RW、DVD-R DL/+R DLおよびDVD-RAMディスク タイプのサポート
- すでにファイルが含まれているディスクなど、あらゆるディスク サイズに合わせて自動調整
- ハード ディスク、USB、Jazz、ZIP、MO ドライブのサポート
- データ圧縮
- パスワード保護
- 特定の拡張子のファイルにフィルターを適用するため、フィルター リストを作成
- ファイルの検索
- バックアップ ファイルの名前を指定

●機能の詳細や操作方法

- PowerBackupのヘルプ

1 「CyberLink PowerBackup 2.6」を起動する

2 「ヘルプ」メニューの「ヘルプ」をクリック

起動方法

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「CyberLink PowerBackup 2.6」をクリック

PowerBackup の画面が表示されます。

使用上の注意

- ヘルプは多重起動できます。
- ネットワークに接続していない状態で、アップグレードボタンを押しても反応しません。

インストール

PowerBackup のインストール



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「CyberLink PowerBackup ディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥PowerBackup¥setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

7 光学ドライブから「CyberLink PowerBackup ディスク」を取り出す

以上でPowerBackup のインストールは終了です。

アンインストール

PowerBackupのアンインストール

1 Windowsを起動する

- 2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

- 3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

- 4 「CyberLink PowerBackup 2.6」を選択し、「アンインストールと変更」をクリック

- 5 「これにより、CyberLink PowerBackup 2.6 はコンピューターから削除されます。続行しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

- 6 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上でPowerBackupのアンインストールは終了です。

セカンドブック グループ

[062500-28]

概要	311
インストール	311
アンインストール	312

概要

PCを使うことで、安全に書類を持ち出すことができます。



チェック

セカンドブック グループは、工場出荷時にはインストールされていません。

●機能の詳細や操作方法

「セカンドブック グループ ディスク」内に格納している操作ガイドを参照してください。

「セカンドブック グループ ディスク」→「SB」→「SBG操作ガイド.pdf」

起動方法（ホスト用アプリ/クライアント用アプリ）

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリ一覧で「SecondBookGroup」をクリック

「セカンドブック グループ」の画面が表示されます。

上記は、ホスト用アプリの場合であり、クライアント用アプリの場合は、アプリの名前が、「SecondBookWinClient」となりますので読み替えてください。

インストール

セカンドブック グループのインストール（ホスト用アプリ/クライアント用アプリ）

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「セカンドブック グループ ディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

- **ホスト用アプリの場合**
D:¥SB¥SBGH¥SecondBookGroupSetup.msi
- **クライアント用アプリの場合**
D:¥SB¥SBGWC¥SecondBookWinSetup.msi

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。（「セカンドブック グループ ディスク」→「SB」→「SBG操作ガイド.pdf」）

6 インストールが完了したら、光学ドライブから「セカンドブック グループ ディスク」を取り出す

以上でセカンドブック グループのインストールは終了です。

アンインストール

セカンドブック グループのアンインストール（ホスト用アプリ／クライアント用アプリ）

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「SecondBookGroup」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

上記は、ホスト用アプリの場合であり、クライアント用アプリの場合は、アプリの名前が、「SecondBookWinClient」となりますので読み替えてください。

以上でセカンドブック グループのアンインストールは終了です。

フリック入力補助ツール

[062800-28]

概要	313
使用上の注意	
インストール	314
アンインストール	314

概要

フリック入力補助ツールは、フリック機能を使ってコントロールキーやWindowsキーを使ったショートカットキーイベントを操作するツールです。

また、「フリック入力補助ツール設定」で設定変更することによって、組み合わせ操作するキーを並び替えることができます。

機能の詳細、操作方法、および最新情報については、以下をご覧ください。



チェック

フリック入力補助ツールは、工場出荷時にはインストールされていません。

●機能の詳細や操作方法

フリック入力補助ツールのヘルプ（「フリック入力補助ツール設定」を起動し、「ショートカットの割り当て」右にある「？」ボタンをクリック）

起動方法

●フリック入力補助ツールの起動

1 タスクバーにあるアイコンをクリック

- フリック入力補助ツールをインストールしたユーザでサインインしている場合、インストールすると、タスクバーにアイコンが表示されるようになります。
- インストールユーザ以外のアカウントでは、ログインすると、タスクバーにアイコンが表示されるようになります。

●「フリック入力補助ツール設定」の起動



チェック

「フリック入力補助ツール」をお使いになった上で、設定キーの変更が必要な場合に起動してください。設定キーはユーザアカウントごとに登録することができます。

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「フリック入力補助ツール」→「フリック入力補助ツール設定」をクリック

「フリック入力補助ツール設定」の画面が表示されます。

インストール

フリック入力補助ツールのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 アプリ画面 (P. 11)を表示する
- 4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
D:¥Nxsetup.exe
- 6 「フリック入力補助ツール」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 7 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 8 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でフリック入力補助ツールのインストールは終了です。

アンインストール

フリック入力補助ツールのアンインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック
- 4 「フリック入力補助ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「フリック入力補助ツールをアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「システムの実行中に更新できないファイルまたはサービスを、セットアップで更新する必要があります。続行する場合は、セットアップを完了するために再起動が必要となります。」と表示された場合は、「OK」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

7 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でフリック入力補助ツールのアンインストールは終了です。

拡張ディスプレイ操作ツール

[062900-28]

概要	316
使用上の注意	316
インストール	317
アンインストール	317

概要

拡張ディスプレイ操作ツールは、アプリケーションを外部ディスプレイ側へ移動したり、操作したりできるツールです。

機能の詳細、操作方法、および最新情報については、以下をご覧ください。



チェック

拡張ディスプレイ操作ツールは、工場出荷時にはインストールされていません。

●機能の詳細や操作方法

デスクトップやエクスプローラから、外部ディスプレイへ移動したいアプリケーションやファイルのアイコンを、「拡張ディスプレイ操作ツール」のウィンドウへドラッグ&ドロップします。

アプリケーションが、外部ディスプレイ側に表示されます。

起動方法

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「拡張ディスプレイ操作ツール」をクリック

使用上の注意

- 本ツールは、デスクトップ画面上で動作するアプリケーションです。OfficeやInternet Explorer、Windows Media Player、Adobe Readerなどが対象です。使用するアプリケーションによっては正常に移動、操作できないものがあります。
- 評価版、試用期間の情報ダイアログが表示されるようなアプリケーションを外部ディスプレイに表示しようとする時、操作しているパソコンのディスプレイにダイアログ表示されます。このため、アプリケーションが外部ディスプレイに表示できないことがあります。あらかじめご注意ください。
- 本ツールを管理者として実行すると、ドラッグ&ドロップが動作しなくなるためランチャー機能は使えません。
- ツール内に表示される疑似タッチパッドを使うと、外部ディスプレイに移動したアプリケーション上でタッチ機能が利用できます。ただし、一部の操作は利用できないことがあります。
- 操作中は外部ディスプレイに表示されているマウスカーソルが点滅します。
- 本ツールを起動した後に、他の「常に最前面に表示される」アプリを起動すると、本ツールは背面に隠れて見えなくなります。本ツールを表示させる場合は起動したアプリの「最小化」ボタンを押して最小化するか、または「閉じる」ボタンを押して終了してください。

- 本ツールを起動したままユーザを切替えると操作できない場合があります。この場合はツールを再起動する必要があります。

インストール

拡張ディスプレイ操作ツールのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 アプリ画面 (P. 11)を表示する
- 4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
D:¥Nxsetup.exe
- 6 「拡張ディスプレイ操作ツール」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 7 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 8 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

以上で拡張ディスプレイ操作ツールのインストールは終了です。

アンインストール

拡張ディスプレイ操作ツールのアンインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック
- 4 「拡張ディスプレイ操作ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「拡張ディスプレイ操作ツール をアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」 ボタンをクリック

6 「システムの実行中に更新できないファイルまたはサービスを、セットアップで更新する必要があります。続行する場合は、セットアップを完了するために再起動が必要となります。」と表示された場合は、「OK」 ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

7 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で拡張ディスプレイ操作ツールのアンインストールは終了です。

マカフィー リブセーフ

[063000-28]

概要	319
使用上の注意	320
インストール	323
アンインストール	324

概要

マカフィー リブセーフは、リアルタイムのウイルス対策とマルウェア対策、迷惑メール対策、双方向ファイアウォールの脆弱性対策、保護者機能などを搭載した包括的なセキュリティソフトウェアです。

機能の詳細、操作方法、制限事項、および最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

定期的にウイルスを検索するスケジュール スキャン、ネットワークや外付けドライブを経由したウイルスの侵入を常に見張る機能やウイルスを駆除する機能などがあります。



チェック

マカフィー リブセーフのヘルプやサポート情報などを確認するには、インターネットに接続して行います。

●動作環境、制限事項に関する情報

試用期間は、初めてマカフィー リブセーフをセットアップした時点から60日間になります。60日間は無料で試用することができますが、試用期間が終了するとウイルス定義ファイル(DAT)、ウイルス検索エンジンを含む製品のアップデートを行なうことができなくなります。

マカフィー リブセーフのすべての機能を引き続きご利用になる場合は、マカフィー リブセーフを購入する必要があります。

購入に関する詳細な情報は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.mcafee.com>



チェック

試用期間の終了後もウイルス定義ファイル・ウイルス検索エンジンによる本体でのウイルス検索は、引き続き行なうことができます。ただし、試用期間の終了後に発見されたウイルスに対して検出・駆除が実施されませんのでご注意ください。

●マカフィー リブセーフの最新の情報

<http://www.mcafee.com>



チェック

- マカフィー リブセーフに関する緊急アップデート等の重要な製品情報が掲載されますので、マカフィーのホームページにて定期的に最新情報を確認することをおすすめします。
- コンピュータウイルスを検出した場合は、『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

起動方法



チェック

インストール後、初めてお使いになる場合は、起動時に「使用許諾契約」画面が表示されます。内容を確認し「承諾」ボタンをクリックしてください。その後、機能を紹介する「クイック ツアー」の画面が表示されます。

1

アプリ画面 (P. 11)を表示する

2

アプリの一覧で「マカフィーリブセーフ - インターネットセキュリティ」をクリック

マカフィー リブセーフの画面が表示されます。

使用上の注意

マカフィー リブセーフについて

パソコンのデータとWeb閲覧を保護するために、マカフィーセキュリティ対策の最新の更新をインストールしてください。

新しいウイルス、ハッカーの攻撃など、パソコンやデータはオンライン脅威に常にさらされています。セキュリティ対策の更新により、新しいウイルス、スパイウェアなどの脅威を阻止するだけでなく、マカフィーソフトウェアの機能強化もインストールすることができます。



チェック

- マカフィー リブセーフの更新やクラウドを使用したウイルスチェックなどはインターネットに接続して行います。インターネットに接続のために必要なインターネット接続料金や電話料金などがかかります。特に携帯電話など、インターネット接続を従量制で契約されている場合は通信料金にご注意ください。
- インターネットに接続していない場合は、パソコンに保存されている情報をもとにウイルスチェックを行うため、最新の情報でない場合があります。
- コンピュータ全体のバックアップを定期的に作成しておくことをおすすめします。万一ウイルスに感染してしまった場合にも、ドライブを初期化し、バックアップからデータを復元することで復旧できます。

アップデートについて

新たに発生する脅威からパソコンを保護するために、マカフィーソフトウェアを常に最新の状態にしてください。



チェック

- マカフィーソフトウェアを購入して登録すると、更新が自動的に確認され、インストールされます。
- マカフィー リブセーフの更新は、インターネットに接続して行います。

◆更新の確認

自動更新が有効になっている場合でも、更新を確認することができます。更新を確認するときは、次の手順で行います。

1 「セキュリティを管理する」→「マカフィー 更新」をクリック

2 「更新の確認」をクリック



メモ

通知領域にあるマカフィーのアイコンを右クリックして「更新の確認」を選択しても、更新を確認することができます。

◆更新オプションの選択

自動更新では、新しいウイルスやスパイウェアなどの脅威に対する保護機能だけでなく、マカフィーソフトウェアの機能強化もインストールされます。また、更新の方法を手動で変更することができます。更新オプションを選択するときは、次の手順で行います。

1 「セキュリティを管理する」→「マカフィー 更新」をクリック

2 「更新の設定」をクリック

3 自動更新の取得方法を選択する

- 「更新を自動的にダウンロードしてインストールする。」
- 「更新をダウンロードするが、インストール前に通知する。」
- 「更新が使用可能になったら通知する。」

4 「適用」をクリック

◆自動更新の有効/無効の設定

自動更新は、次の手順で有効または無効にすることができます。



チェック

更新を受信することで、新たに発生する脅威からパソコンを保護することができるため、自動更新を無効にしないことをおすすめします。

1 「セキュリティを管理する」→「マカフィー 更新」をクリック

2 「更新の設定」をクリック

3 「有効にする」または「無効にする」をクリック

スケジュール スキャンについて

スケジュール スキャンを設定すると、パソコンを定期的にスキャンし、ウイルス、スパイウェアなどの脅威を確認することができます。

次の手順で、スケジュール スキャンを設定してください。

1 「セキュリティを管理する」→「ウイルスおよびスパイウェア対策」をクリック

2 「スケジュール スキャン」をクリック

3 「スケジュール スキャン」で、ステータスが「無効」の場合は「有効にする」をクリック

4 「スキャン スケジュールの設定」をクリックし、スキャンのスケジュールを選択する



チェック

独自のスキャンスケジュールを設定する場合は、「独自のスキャン スケジュールを作成する」にチェックをつけ、スキャンを開始する時刻と、月/週/日のいずれかを設定してください。

5 スキャン中のパソコンのリソース消費を最小限にするには、「最小限のコンピューターリソースを使用してスキャンを実行する」を選択する

6 パソコンのバッテリー消費を最小限にするには、「電源プラグ使用時にのみスキャンを開始する」を選択する

7 「適用」をクリック

以上でスケジュール スキャンの設定は終了です。

ファイル/フォルダのセキュリティ監視について

アプリケーションのインストール、アンインストール、または使用中に警告を受けたときは、対象のアプリケーションが安全なものであることを確認した上で、マカフィー リブセーフのヘルプをご覧ください。スキャン対象外に設定してください。

ボリューム削除時のウィンドウについて

「ディスクの管理」より「ボリュームの削除」を行うと、ボリューム使用中を表す警告ウィンドウが表示される場合がありますが動作に影響はありません。

警告ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

インストール



チェック

- デスクトップにある「LiveSafe」アイコンをダブルクリックすることで簡単にインストールできます。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面でMicrosoft Windowsの署名が表示されますが、「はい」をクリックして進んでください。
- 本機を再セットアップした場合は、デスクトップに「LiveSafe」アイコンは表示されません。

マカフィー リブセーフのインストール

本機を再セットアップした場合は、次の手順に従ってマカフィー リブセーフをインストールしてください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 アプリ画面 (P. 11)を表示する

4 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Nxsetup.exe

6 「マカフィー リブセーフ」を選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

7 「インストール完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

8 Windowsを再起動後、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でマカフィー リブセーフのインストールは終了です。

■ アンインストール

マカフィー リブセーフのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「マカフィーリブセーフ - インターネットセキュリティ」を選択し、「アンインストールと変更」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 「ソフトウェアが削除されました。」と表示されたら、「今すぐ再起動」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でマカフィー リブセーフのアンインストールは終了です。

▶ 概要.....	325
▶ 使用上の注意.....	326
▶ インストール.....	326
▶ アンインストール.....	327

概要

ファイルの圧縮、保護、共有を行うことができるユーティリティです。



チェック

- 画面に表示されている「WinZip XX」は各バージョン名が表示されます。
- WinZipは、工場出荷時にはインストールされていません。

機能の詳細および最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や最新情報

ヘルプ（WinZip の試用版を起動し、「ヘルプ」→「ホームページ」をクリック）



チェック

ヘルプを参照するにはインターネットに接続できる環境が必要です。

●動作環境、制限事項に関する情報

試用期間は、初めてWinZipをセットアップした時点から45日間になります。引き続きご利用になる場合は、WinZipを購入する必要があります。試用期間が終了する前に、WinZipのアクティベーションを実行することをおすすめします。



チェック

ご購入いただいたバージョンと異なるバージョンの体験版がインストールされている場合は、アクティベーションができません。必ず、バージョンをご確認の上アクティベーションを行ってください。バージョンが異なる場合には、アンインストールの上、ご購入されたプログラムをインストールしなおしてください。

起動方法



チェック

WinZipを初回起動する時、新機能を紹介する「WinZipへようこそ！」の画面が表示されます。

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「WinZip」をクリック

WinZipの画面が表示されます。

■ 使用上の注意

● 更新の確認

更新を確認するときは、次の手順で行います。

1 画面にある「ヘルプ」をクリック

2 「アップデートをチェックする」をクリック



チェック

WinZipの更新は、インターネットに接続して行います。

● WinZip Express アドオンについて

WinZip Express アドオンは以下のソフトウェアに対応しています。本機能を使用することにより、圧縮、暗号化、共有化の設定を指定することができます。

- Windows Explorer
- Microsoft Office
- Microsoft Outlook
- Microsoft SharePoint
- フォト管理



チェック

アドオンには、登録済みのWinZip インストール版が必要です。

■ インストール



チェック

- デスクトップにある「WinZip」アイコンをダブルクリックすることで簡単にインストールできます。
- 本機を再セットアップした場合は、デスクトップに「WinZip」アイコンは表示されません。

WinZip のインストール

本機を再セットアップした場合は、次の手順に従ってWinZipをインストールしてください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 「D:¥WinZip」フォルダを任意の場所にコピーする



メモ

ここでは「C:¥TEMP」にコピーした場合の手順を説明します。
必要に応じて読み替えてください。

4 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

5 アプリ画面 (P. 11)を表示する

6 アプリの一覧で「ファイル名を指定して実行」をクリック

7 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥TEMP¥WinZip¥winzip.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

8 インストールが完了したら、Windowsを再起動する



メモ

手順3でコピーしたフォルダは自動的に削除されません。
WinZipのインストールが終了したら削除することをおすすめします。

以上でWinZip のインストールは終了です。

アンインストール

WinZip のアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「WinZip XX」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でWinZip のアンインストールは終了です。

概要.....	329
インストール.....	329
アンインストール.....	330

概要

メモを自由に書き込んで保存できる電子ノートのWindows ストア アプリです。

機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。

起動方法

1 アプリ画面 (P. 11)を表示する

2 アプリの一覧で「OneNote」をクリック

「OneNote」の画面が表示されます。

インストール

OneNoteは工場出荷時にプリインストールされています。改めてインストールしたい場合は、次の手順に従ってOneNoteをインストールしてください。



チェック

- パソコンがインターネットに接続されている必要があります。
- アプリをインストールするにはMicrosoft アカウントが必要です。

OneNoteのインストール

1 アプリ画面 (P. 11)を表示し、「ストア」をクリック

2 「ストア」の検索欄で「OneNote」を入力して検索する

3 「OneNote」ページで「インストール」ボタンをクリックしてインストールする

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

以上でOneNoteのインストールは終了です。

■ アンインストール

OneNoteのアンインストール

- 1 アプリ画面 (P. 11)を表示する
 - 2 「OneNote」のタイルを右クリックまたは長押しする
 - 3 「アンインストール」をクリック
 - 4 削除を確認するメッセージが表示されたら、「アンインストール」をクリック
-

以上でOneNoteのアンインストールは終了です。

トラブル解決Q&A

[100000-28]

▶ 電源.....	332
▶ バッテリ.....	334
▶ タッチパネル.....	339
▶ 表示.....	341
▶ ファイル保存.....	344
▶ LAN機能.....	347
▶ 無線LAN機能.....	349
▶ サウンド.....	351
▶ 印刷.....	354
▶ セキュリティチップ機能.....	356
▶ SSD.....	360
▶ 光学ドライブ.....	362
▶ 周辺機器.....	366
▶ Bluetooth機能.....	368
▶ アプリケーション.....	371
▶ 再セットアップ.....	378
▶ その他.....	380


[100100-28]

- 「パスワードが正しくありません。入力し直してください。」と表示された..... 333

Q : 「パスワードが正しくありません。入力し直してください。」と表示された

[100106-28]

A : キャップスロックキーランプ () の状態を確認し、もう一度パスワードを入力してください。

キャップスロックの状態によって、入力される文字が異なり、パスワードを正しく入力できない場合があります。キャップスロックキーランプ () でキャップスロックの状態を確認し、オン/オフを切り替えて、もう一度パスワードを入力してください。

キャップスロックのオン/オフは【Shift】 + 【Caps Lock】で切り替えることができます。



参照

表示ランプについて

「本機の機能」の「各部の名称」 - 「表示ランプ (P. 34)」

A : ユーザー名を確認し、もう一度パスワードを入力してください。

選択したユーザー名を確認し、選択したユーザーのパスワードをもう一度正しく入力してください。

Q&A : バッテリ

[100300-28]

- 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない. 335
- タスクバーの通知領域に電源アイコンが表示されない. 336
- 満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する. 337
- バッテリー充電ランプが点滅する. 338

Q : 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない

[100301-28]

A : バッテリー充電ランプを確認してください。

- **バッテリー充電ランプが点滅している場合**

バッテリーにエラーが発生しています。ACアダプタを取り外し、取り付けなおしてください。

それでもエラーが発生する場合は、バッテリーの交換が必要です。

バッテリーの交換については、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。

- **バッテリー充電ランプが消灯している場合**

バッテリーが満充電、または満充電に近い状態の可能性があります。そのような状態では、充電が始まらない場合があります。

Q : タスク バーの通知領域に電源アイコンが表示されない

[100302-08]

A : 次の手順で設定してください。

- 1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」をクリックし、「タスク バーとナビゲーション」をクリック
- 3 「タスク バー」タブをクリックし、「通知領域」の「カスタマイズ」ボタンをクリック
- 4 「電源」の動作欄で「アイコンと通知を表示」を選択する
- 5 「OK」ボタンをクリック
- 6 「OK」ボタンをクリック

Q : 満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する

[100303-28]

A : 故障ではありません。バッテリーは少しずつ自然放電しているため、それを補充するため、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続しているときは自動的に充電が始まります。

Q : バッテリー充電ランプが点滅する

[100304-28]

A : 電源を切り、ACアダプタを取り外してからもう一度正しく取り付けなおしてください。

ACアダプタを取り付けなおしても直らない場合は、バッテリーの寿命ですので、バッテリーの交換が必要です。
バッテリーの交換については、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。

Q&A : タッチパネル

[102800-28]

- ▶ タッチした位置と反応する位置がずれる、タッチパネルに反応しない領域がある..... 340

Q：タッチした位置と反応する位置がずれる、タッチパネルに反応しない領域がある

[102802-28]

A：タッチパネルの設定をリセットしてみてください。

タッチパネルの設定をリセットし、ご購入時の状態に戻してみてください。

タッチパネルの設定をリセットしても、問題が解決しない場合は、本機の故障が考えられます。ご購入元に相談するか、NECにご相談ください。



参照

- **タッチパネルの設定のリセットについて**
「本機の機能」の「タッチパネル」 - 「タッチパネルの設定」 - 「タッチパネル操作時の表示に関する設定をする (P. 76)」
- **NECのお問い合わせ先について**
『保証規定 & 修理に関するご案内』

[100600-28]

- ▶ 外部ディスプレイで画面が流れるように表示される. 342
- ▶ デスクトップ上のアイコンの名前が隠れてしまう. 343

Q : 外部ディスプレイで画面が流れるように表示される

[100611-28]

A : お使いのディスプレイのディスプレイ情報ファイルを最新のものに更新してください。

一部のDDC対応ディスプレイにおいて、ディスプレイ情報ファイルがないためにディスプレイの同期がとれず、画面が流れるように表示される場合があります。

この場合には、ディスプレイ製造元より最新のディスプレイ情報ファイルを入手し、セットアップしてください。

Q : デスクトップ上のアイコンの名前が隠れてしまう

[100621-08]

A : 「アイコンの自動整列」を有効にしてください。

画面の解像度やアイコンサイズを変更した場合、デスクトップ上のアイコンの名前が一部隠れてしまうことがあります。そのような場合は、次の手順で「アイコンの自動整列」を有効にしてください。

1 デスクトップの何も無い場所を右クリック

2 「表示」の「アイコンの自動整列」を有効にする

Q&A : ファイル保存

[100800-28]

- ▶ はじめに確認してください. 345
- ▶ DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）. 346

はじめに確認してください

[100801-28]

DeviceLockで光学ドライブの機能を制限していないか確認してください。

DeviceLockは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。

DeviceLockをインストールしている場合は、DeviceLock管理コンソールを表示し、設定を確認してください。



参照

DeviceLockについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[DeviceLock Lite \(P. 288\)](#)」

Q : DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）

[101711-08]

A:「光学ドライブ」の「はじめに確認してください (P. 363)」の内容をご確認ください。

[100900-28]

- ▶ 動作が不安定になった..... 348

Q：動作が不安定になった

[100904-08]

A：LANに接続して通信中にスリープ状態や休止状態にすると、本機が正常に動作しなくなる場合があります。

LANに接続して通信中にスリープ状態や休止状態にすると、本機が正常に動作しなくなることがあります。通信中にスリープ状態や休止状態にしないでください。

Windowsの電源プランで自動的にスリープ状態になる設定をしている場合は、設定を解除してください。

[101000-28]

- ▶ 「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダブルクリックしても内容が表示されない. 350

Q : 「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダブルクリックしても内容が表示されない

[101004-20]

A : 相手のコンピュータに共有しているフォルダやプリンタなどが無い可能性があります。

相手のコンピュータ上で共有化したいフォルダやプリンタを共有する設定にしてください。

[101200-28]

- ▶ HDMI接続した機器から音声が出力されない..... 352

Q : HDMI接続した機器から音声が出力されない

[101209-28]

A : HDMIの映像が正しく表示されているか確認してください。

映像が正しく表示されていない場合は、テレビや外部ディスプレイとの接続、設定を確認してください。

A : 接続している機器が、HDMIの音声出力のサンプリングレートに対応しているか確認してください。

次の手順で確認してください。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。



チェック

「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」にチェックが付いていない場合は、チェックを付けて「既定値に設定」をクリックしてください。

4 「再生」タブをクリック

5 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」をクリックし、「プロパティ」をクリック

6 「詳細」タブをクリック

7 「既定の形式」欄の設定が接続先の機器に対応していることを確認する



参照

対応しているサンプリングレートについて
接続している機器のマニュアル

A : 音声の出力設定を確認してください。

音声を、本機のスピーカやヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャックから出力する設定になっている場合、HDMI接続で音声は出力されません。

HDMI接続で音声を出力するには、次の手順で出力先を設定してください。

1 「コントロール パネル (P. 11)」を表示する

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。

4 「再生」タブをクリック

5 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」をクリックし、「既定値に設定」をクリック

6 手順5で選択した項目にチェックが付いていることを確認し、「OK」をクリック

A : I/O制限で、HDMIコネクタの接続を使用不可に設定していないか確認してください。



参照

I/O制限について

「本機の機能」の「セキュリティ機能」 - 「I/O制限 (P. 204)」

[101300-28]

- ▶ PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない. 355

Q : PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない

[101302-00]

A : 白抜きの文字やグラデーション、図形などがうまく印刷できない場合は次の対処方法を試してみてください。

- Acrobat Reader DCの「印刷」ダイアログボックスの「詳細設定」ボタンをクリックして、「画像として印刷」にチェックを付けるか、プリンタのプロパティの中から「きれい」、「高品位」などを選択する
- プリンタドライバを最新のものにする
- プリンタが複数ある場合は、印刷先を別のプリンタに切り替え、同様に試してみる

Q&A：セキュリティチップ機能

[102200-28]

- パスワードを忘れてしまった..... 357
- 「Security Platform サービスとの接続に失敗しました。」と表示される..... 359

Q : パスワードを忘れてしまった

[102201-28]

A : BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップを初期化してください。

Security Platformで設定したパスワードを解除することはできません。

次の手順で、セキュリティチップを初期化してください。

WindowsのBitLocker ドライブ暗号化を利用している場合は、BitLocker ドライブ暗号化を無効にしてからセキュリティチップの初期化を行ってください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

2 「Security」メニューで「Security Chip Configuration」を選択し、【Enter】を押す

3 「Security Chip Selection」が「dTPM 1.2」になっていることを確認する

「dTPM 1.2」の場合は手順4から7の手順は行わずに手順8に進んでください。

「PTT」の場合は「dTPM 1.2」に変更し、手順4に進んでください。

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

6 すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。

7 「Security」メニューの「Security Chip Configuration」を選択し、【Enter】を押す

8 「Current TPM State」が「Enabled&Activated」になっていることを確認する

「Current TPM State」が「Enabled&Activated」になっていない場合は、「[セキュリティチップを有効にする \(P. 217\)](#)」の手順でセキュリティチップを有効にしてから、セキュリティチップの初期化を行ってください。

9 「Change TPM State」を「Clear」にする

10 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

11 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

12 本機の再起動後、確認画面が表示された場合は【Shift】 + 【F10】を押す

設定値が保存され、本機が再起動します。

これでセキュリティチップが初期化されました。セキュリティチップを使用する場合は、再度、「[セキュリティチップを有効にする \(P. 217\)](#)」の手順で、セキュリティチップを有効にしてください。

Q : 「Security Platform サービスとの接続に失敗しました。」と表示される

[102202-28]

A : セキュリティチップ機能が有効になっているか確認してください。

「セキュリティチップを有効にする (P. 217)」をご覧ください、セキュリティチップ機能が有効になっているか確認してください。

A : 自己診断テストを行ってください。

次の手順で、自己診断テストを行って問題点を明確にできます。

1 アプリ画面 (P. 11)を開き、アプリの一覧で「Security Platform の管理」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

2 「全般」タブをクリックし、「自己診断テスト」ボタンをクリック

エラーが発見された場合、画面の指示に従って対処してください。

A : セキュリティチップが破損している可能性があります。

自己診断テストで提示された対処方法を行っても問題が解決しない場合は、NECにお問い合わせになり、セキュリティチップを交換してください。

セキュリティチップを交換した後は、セキュリティチップ機能を復元してください。



参照

- **セキュリティチップ機能のバックアップと復元について**
「セキュリティチップ ユーティリティ」の「セキュリティチップ機能のバックアップと復元 (P. 246)」
- **NECのお問い合わせ先について**
『保証規定 & 修理に関するご案内』

[101600-28]

- 領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない. 361

Q : 領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない

[101604-28]

A : 計算方法の違いによるもので、故障ではありません。

カタログなどに記載されているSSDの容量は、1MB=1,000,000バイトで計算しています。これに対し、SSDを領域作成するときには、1MB=1,024×1,024=1,048,576バイトで計算しているため、容量が少なく表示されることがありますが、故障ではありません。

GB（ギガバイト）についても、同様の記述となっています。

A : SSDに、システム復旧時に必要なデータなどを格納する領域があるためです。

本機のSSDには、Windowsの起動や復旧に必要なファイルを格納するため、約13GBの容量が確保されています。そのため、使用可能な容量がその領域の分だけ少なくなります。

この領域にあるデータは削除しないでください。

Q&A : 光学ドライブ

[101700-28]

- ▶ はじめに確認してください. 363
- ▶ DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）. 364
- ▶ ドライブ文字がおかしい. 365

はじめに確認してください

[101718-28]

光学ドライブの接続を確認してください。

USB接続の光学ドライブを使用するモデルをお使いの場合、光学ドライブが正しく取り付けられているかどうか確認してください。

DeviceLockで光学ドライブを制限していないか確認してください。

DeviceLockは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。
DeviceLockをインストールしている場合は、設定を確認してください。



参照

DeviceLockについて

「便利な機能とアプリケーション」の「DeviceLock Lite (P. 288)」

ディスクが正しくセットされているか確認してください。

セットされているDVD、CDの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイ中心の軸に、きちんとセットしてください。



参照

光学ドライブ使用上の注意

「本機の機能」の「光学ドライブ (P. 133)」

本機のドライブで使用できるディスクを確認してください。

お使いのモデルにより光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

Q : DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）

[101711-08]

A : 「光学ドライブ」の「はじめに確認してください (P. 363)」の内容をご確認ください。

Q : ドライブ文字がおかしい

[101715-08]

A : 周辺機器を接続したままスリープ状態や休止状態にすると、光学ドライブのドライブ文字が変更される場合があります。

このような場合は、Windowsを再起動してください。

[101800-28]

- ▶ はじめに確認してください..... 367

はじめに確認してください

[101803-28]

お使いの周辺機器が、本機やWindows 8.1に対応しているか確認してください。

周辺機器によっては、本機やWindows 8.1で動作しないものや、別途Windows 8.1に対応したドライバーが必要なものがあります。

周辺機器が正しく接続されているか確認してください。

コネクタやネジが緩んだり外れたりしていないか、接続が正しく行われているか確認してください。



参照

周辺機器の接続について

周辺機器に添付のマニュアル

DeviceLockで無効に設定していないか確認してください。

DeviceLockは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。

DeviceLockをインストールしている場合は、DeviceLock管理コンソールを表示し、該当する周辺機器を無効に設定していないか確認してください。



参照

DeviceLockについて

「便利な機能とアプリケーション」の「DeviceLock Lite (P. 288)」

[102600-28]

- ▶ はじめに確認してください..... 369

はじめに確認してください

[102601-28]

Bluetooth機能がオンになっていることを確認してください。



参照

Bluetooth機能のオン/オフについて

「本機の機能」の「Bluetooth機能」 - 「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 198)」

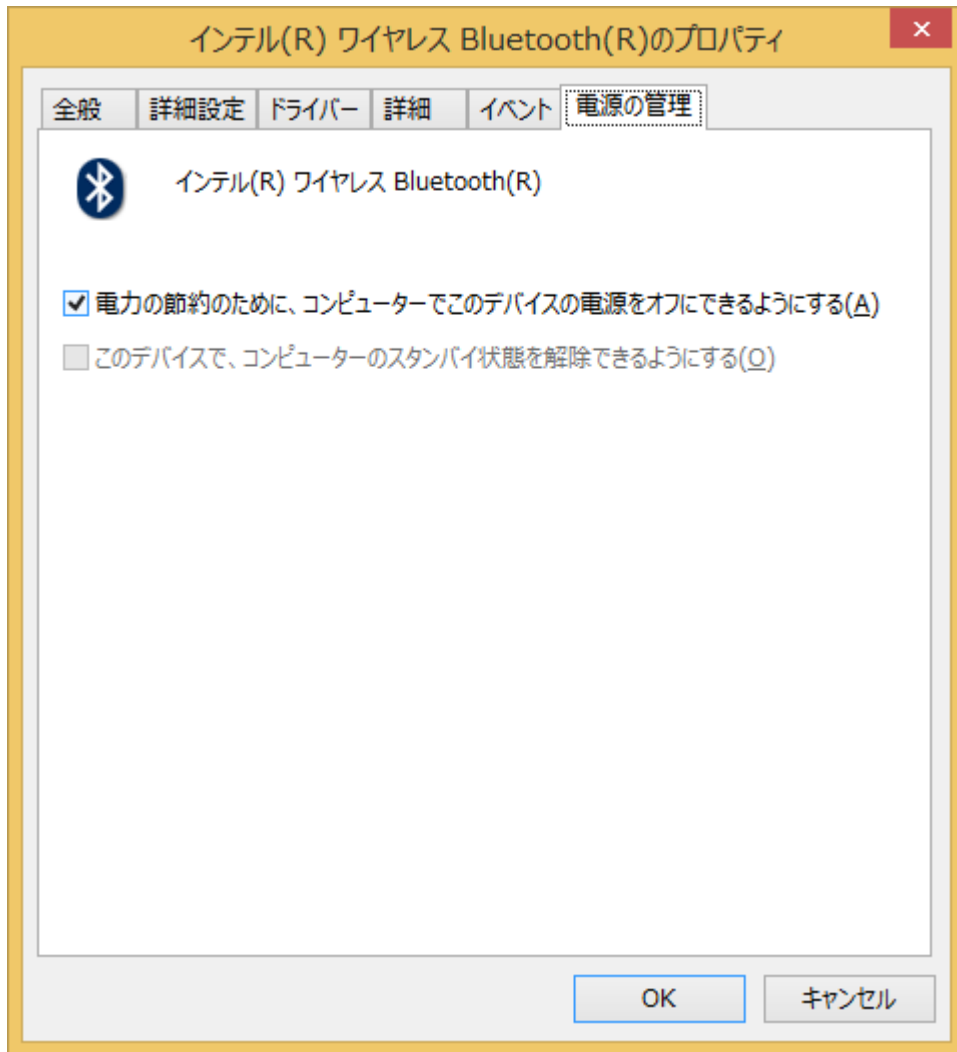
Bluetooth機能を「デバイス マネージャー」でオンにしているにも関わらず、Bluetooth機能が使用できない場合（「デバイス マネージャー」でBluetoothに「！」が付くなど）は、ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）でBluetooth機能をオフにして、再度オンにしてみてください。

Bluetooth機能を一定時間使用していなくても通信が切れないようにするには、「電源の管理」の設定を変更してください。

Bluetooth機器を一定時間使用していない場合、通信が切れて動作しなくなることがあります。

Bluetooth機器を一定時間使用していなくても通信が切れないようにするには、次の手順に従って「電源の管理」の設定を変更してください。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 12)」を開く
- 2 「Bluetooth」をダブルクリック
- 3 「インテル(R) ワイヤレス Bluetooth(R)」をダブルクリック
- 4 「電源の管理」タブをクリック
- 5 「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックを外す



メモ

画面はモデルによって異なります。

6 「OK」 ボタンをクリック

Q&A : アプリケーション

[101900-28]

- ▶ はじめに確認してください. 372
- ▶ アプリケーションをインストールできない. 373
- ▶ アプリケーションを強制的に終了させたい. 374
- ▶ アプリケーションが本機で使用できるか知りたい. 375
- ▶ 使用しているWindowsへの対応が明記されていないWindows用アプリケーションを使用したい. 376
- ▶ Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術情報について知りたい. 377

はじめに確認してください

[101902-28]

お使いのアプリケーションが、本機やWindows 8.1に対応しているか確認してください。

アプリケーションによっては、本機やWindows 8.1で動作しないものや、別売の周辺機器が必要なものがあります。アプリケーションのマニュアルで「動作環境」や「必要なシステム」を確認してください。

お使いのアプリケーションが、使用しているWindows 8.1に対応しているか確認してください。

32ビット版のアプリケーションも使用可能ですが、アプリケーションによっては正常に動作しない場合があります。アプリケーションのマニュアルで確認してください。

本機のドライブで使用できるディスクか確認してください。

お使いのモデルにより光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

Q : アプリケーションをインストールできない

[101908-08]

A : 権限を制限されたユーザーでサインインしていないか確認してください。

本機を複数の人で使用している場合は、管理者によってユーザーの設定できる項目に制限がかけられている場合があります。

このような場合は、管理者に依頼して制限を解除してもらるか、または管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーでサインインしてアプリケーションのインストールを行う必要があります。

A : ユーザー名に環境依存文字を使用していないか確認してください。

ユーザー名に環境依存文字を使用していると、アプリケーションによっては正しく動作しない場合があります。

A : アプリケーションのインストール先がSSD以外のドライブになっていないか確認してください。

SSDにインストールして使用するアプリケーションのインストール先がSSD以外のドライブになっていた場合は、インストール先をSSDに変えて、インストールしなおしてください。

A : アプリケーションを新しくインストールするときに、SSDに一定の空き領域が必要な場合があります。

アプリケーションを新しくインストールするときに、SSDに一定の空き領域が必要な場合があります。アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。SSDに必要な空き領域を確認してください。

SSDの空き領域が足りない場合は、空き領域のある他のドライブにインストールしてください。



メモ

アプリケーションによっては、必要最低限の機能だけをインストールしたり、使用する機能だけを選択してインストールすることで、必要な空き容量を減らせる場合があります。

Q : アプリケーションを強制的に終了させたい

[101909-28]

A : アプリケーションがフリーズするなどの異常を起こしていて、電源が切れないなどの問題が起きている場合、次の方法で異常を起こしているアプリケーションを強制的に終了してください。



チェック

この方法でアプリケーションを終了させると、保存していないデータは消えてしまうことがあります。

1

【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 を1回押す

2

「タスク マネージャー」をクリック

3

「詳細」をクリック

4

「状態」のところに「応答なし」と表示されているタスク（アプリケーション）をクリックし、「タスクの終了」ボタンをクリック

この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

この方法で異常を起こしていたアプリケーションが終了できた場合は、「本機の機能」の「電源」 - 「電源の入れ方と切り方」の手順で電源を切ってください。



参照

正しい電源の入れ方と切り方

「本機の機能」の「電源」 - 「電源の入れ方と切り方 (P. 36)」

Q : アプリケーションが本機で使用できるか知りたい

[101910-00]

A : アプリケーションのカタログなどで必要な動作環境を確認するか、製造元に確認してください。

アプリケーションが必要とする動作環境は、アプリケーションによって異なります。アプリケーションのカタログなどで必要な動作環境について確認するか、アプリケーションの製造元に確認してください。

Q : 使用しているWindowsへの対応が明記されていない Windows用アプリケーションを使用したい

[101911-08]

A : アプリケーションの製造元に確認してください。

Windows 8.1への対応が明記されていない、Windows用アプリケーションが使用できるかどうかは、アプリケーションによって異なります。

アプリケーションの製造元に確認してください。アプリケーションの使用についての情報や、使用に必要なアップデートプログラムなどが入手できる場合があります。

Q : Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術情報について知りたい

[101913-08]

A : Internet Explorerやその関連製品に関するサポート技術情報は、次の手順で調べることができます。

1 インターネットに接続する

2 Internet Explorerを表示し、【Alt】 を押し、「ヘルプ」 → 「Internet Explorer ヘルプ」 をクリック

Microsoft社のサポートページが表示されます。この後は、そのページの説明に従って操作してください。

Q&A : 再セットアップ

[102000-28]

- ▶ 「再セットアップをすることはできません。」と表示される..... 379

Q : 「再セットアップをすることはできません。」 と表示される

[102001-08]

A : 本機の機種情報が書き換わっている可能性があります。

ご購入元、またはNECにお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先について
『保証規定&修理に関するご案内』

[102100-28]

- ▶ クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった..... 381

Q : クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった

[102102-20]

A : 異物が入り込んでしまった場合は、すぐに電源を切ってACアダプタを取り外し、ご購入元にお問い合わせください。



チェック

そのままお使いになると、発煙、発火や故障の原因になります。

仕様一覧（タイプ別仕様詳細）

[130000-00]

▶ 仕様一覧（タイプ別仕様詳細）	383
------------------------	-----

仕様一覧（タイプ別仕様詳細）

[130100-00]

本機の仕様に関する詳細情報は、タイプ別仕様詳細に記載しております。



メモ

タイプ別仕様詳細をご覧になるには、インターネットへの接続環境が必要です。

電子マニュアルビューアでお使いの機種種の「タイプ別仕様詳細」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.htm>

活用ガイド

UltraLite タイプVN

初版 2015年10月

©NEC Personal Computers, Ltd. 2015

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
